

令和5年度

特別支援学級

授業の「わたり」実践事例集

三原市教育委員会

— はじめに —

「特別支援学級の担任になったときに戸惑うことはどんなことですか？」

この問いに対して、みなさんはどのように答えるでしょうか。

きっと、授業の「わたり」に戸惑っていると答える方が多くおられることでしょう。

「わたり」とは、1人の教師が、複数の学年を同時に授業展開する際に、学年間を移動しながら授業の展開をする授業形態のことを言います。

一言で言うのは簡単ですが、「わたり」の難しさは、多岐に渡ります。

授業前に、学年分の単元の内容を把握すること、単元や授業のねらいを考えること、授業の準備をすること、授業の見通しを立てることなど、多くの計画や準備が必要となります。

また、「わたり」の難しさの最たる点は、「直接指導」と「間接指導」があることです。教師が1つの学年への「直接指導」をしている間、他方の授業では児童生徒だけで授業を進めていく「間接指導」を展開することになります。この間、児童がどんな学習をしているのか把握ができません。また、児童が困ったときに、教師を呼び止めることができません。

さらに、特別支援学級に在籍している児童生徒の場合、学習や生活面で様々な困難を抱えている場合があるため、学習内容の理解が進まなかったり、学習が思うように進まなかったりするケースなども見られます。

このような課題に対して、三原市教育委員会は、児童生徒の実態に応じた「わたり」の工夫に関する実践を共有し、先生方の実践を応援していくために、「わたり」の実践事例集を作成することといたしました。

「この方法から挑戦してみよう！」

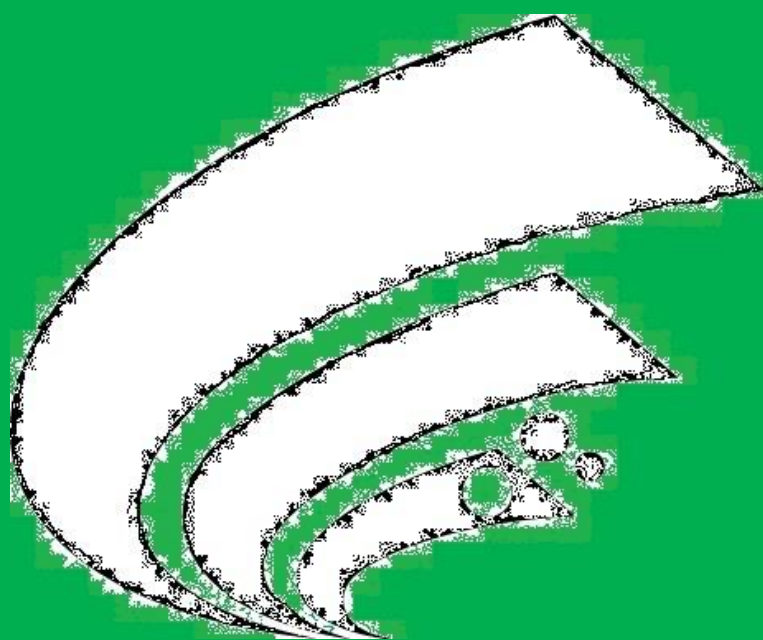
そう前向きな気持ちになれるような「直接指導」と「間接指導」につながる市内の優れた実践を掲載しています。

授業の「わたり」を進めるときのヒントとしてご活用いただき、特別支援学級の授業内容の充実や改善に役立てていただけると幸いです。

— 目次 —

* はじめに	
* 目次	
* わたりのポイント	… 1
* 本資料について	… 13
* 実践事例	
1 自閉症・情緒障害	… 15
2 知的障害	… 41
* 学習指導案集	… 47
* 作成協力者一覧	… 96
* おわりに	… 97

わたりのポイント



— 「わたり」のポイント —

この事例集を手にとられた方の中には…

授業の「わたり」を実践するのが
初めてなので不安です…!



そんな方も多いはずです。

では、一緒に、授業の「わたり」を成立させるためのポイントを考えていきましょう。

その前に!!

通常の学級の、一般的な授業の中で想定される



- A: 教師の支援が必要だと考えられる場面
- B: 児童生徒が主体的に学習を進める場面

この2つの場面で授業を整理してみましょう。

この場面を意識することで、授業の「わたり」をするときに、「教師が必要な場面はどこか」を考えて授業を行うことができ、この時間に何をおさえるのかを意識しながら、授業を展開することができます。

また、「児童生徒が主体的に学習する前に、どのようなことを押さえておく
よいか」を考えることで、焦点化された授業を展開することができます。



A:教師の支援が必要だと考えられる場面

A-① 課題把握

この時間は「何をする時間か」を
共通認識する。

課題の提示と解決の見通しをもつ場面

この場面は、本時のめあてを焦点化し、どのような
手順で授業を進めるのかを、教師と児童生徒が、
共通認識する必要があります。



A-② 集団解決前

これから「どんな話し合いをするのか」
を共通認識する。

集団解決に向かう前に、児童生徒がどのように
話し合えばよいのかを理解する場面

この場面は、話し合いの内容と方法を焦点化し、
どのような手順で、児童生徒が話し合いを進めていく
のか、教師と児童生徒が共通認識する必要があります。



A-③ 集団解決後半

「今日の学習の大切なことは何か」
授業のねらいを意識づけする。

授業のねらいに関わる意見が出て、教師の「ゆさぶり」
や「質問」、「問いかけ」が必要な場面

この場面では、児童生徒が話し合いの中で気づいたことや、
教師が深く考えさせたいことを、児童生徒と確認し、
授業のねらいに近づけていく必要があります。



A-④ まとめ

「今日の授業での気づきが何か」
児童生徒の1時間の学びを集約する。

授業の終末で、本時の学習をまとめる場面

この場面は、教師が児童生徒の学習内容をふまえ、
本時の学習内容をまとめ、本時の学習をまとめ、
ねらいを確認していく必要があります。



授業の展開によって、①～④の順番が変わることは考えられますが、一般的な授業において、
これらの場面には、授業のねらいを把握している教師の存在が必要です。

このような場面は、教師が必要な場面として考えられ、児童生徒が迷わず、学習活動を進めていく
ために大切な指導になると考えられます。

B: 児童生徒が主体的に学習を進める場面

B-① 自力解決

個人で課題に取り組み、思考をする。

それぞれが自力解決を始め、自分なりの考えを
巡らしている場面

この場面は、児童生徒が既習事項等を活用しながら自力で学習できる時間を確保する必要があります。



B-② 集団解決

グループ活動を行い、自分たちの意見の相違点等を話し合う。

子ども同士で話し合わせることで、
主体的になったり、互いに関わり合ったりできる場面

この場面は、児童生徒が目的意識をもって、話し合いに参加できるように、集団活動前に考えをまとめさせておくことや、話し合いの内容を焦点化しておく必要があります。



B-③ 振り返り

「今日の授業で学んだことは何か」
児童生徒が1時間の内容を再確認する。

授業を振り返ったり、練習問題をしたりする場面








この場面は、児童生徒が1時間の学びを想起し直したり、学習内容の定着の状況等を自分で確認したりするための時間です。

そのため、本時を振り返る時間を確実に確保し、次時への指導につなげていく必要があります。



一つの例ではありますが、授業をスムーズに展開するには、このように、教師が必要な場面とそうでない場面を意識しながら、学習活動を構成していくことが望ましいです。

授業展開の一例

学習過程	A:教師の支援が必要と考えられる場面	B:児童生徒が主体的に進めていく場面
課題把握	A-① 課題把握 	B-① 自力解決 
自力解決	A-② 集団解決前 	B-② 集団解決 
集団解決	A-③ 集団解決後段 	
まとめ	A-④ まとめ 	B-③ 振り返り 

※ 上記の は大きい方が多くの時間を使うことを想定している。

このように、AとBを行き来しながら、適切にファシリテートを行い、児童生徒が活動している時間を多く設定し、主体的に学習を進めていくのが、望ましい授業の一つだと考えられます。

では、いよいよ!2学年の「わたり」が必要となった場合を想定しましょう!

閑話休題：座席配置について考える！

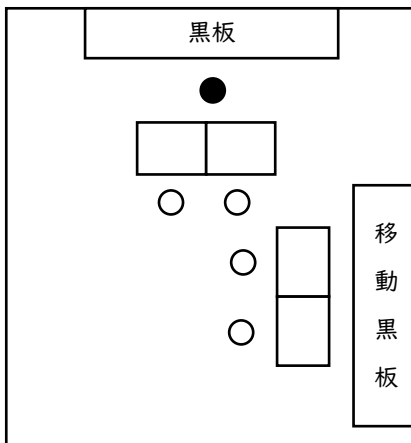
児童生徒の様子を把握するために、
どのような座席配置がいいのでしょうか。



授業の「わたり」などをするとき、座席配置に悩まれるケースがあると思います。

座席配置のパターン

① L字型



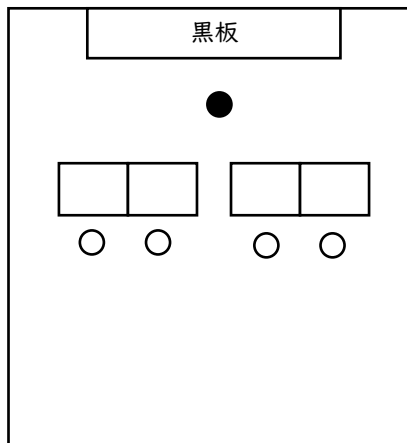
メリット

児童生徒の動作を確認しやすく、
発言やつぶやきが聞き取りやすい。

デメリット

一方を指導している際、他方の児童へ視線を送ることが難しい。

② 横並び型



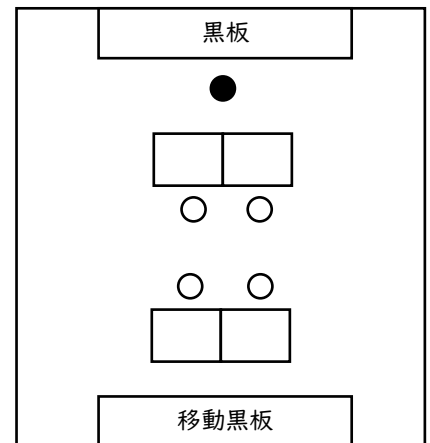
メリット

教師は教室内をそれほど移動せず、
児童の動作を確認することができる。

デメリット

板書を活用できる範囲が限られる。
一方を指導している際、他方への視線が送りづらい。

③ 背面型



メリット

両方の児童へ視線を送りやすく、
授業の進度が把握しやすい。

デメリット

教室内を大きく移動しながら、
指導をする必要があり、つぶやきを聞き取ることは難しい。

L字型や横並び型は、教師の聴覚情報を頼りに、背面型の場合、教師の視覚情報を頼りに、児童生徒の実態を把握することとなります。

児童生徒の実態や、教師の得意な指導方法、教室環境等を考慮しながら、
学習効果のより上がる方法はどれかを試しながら、自分の学級に合った
座席位置を見つけてください。



授業の「わたり」について考える！

このように、直接指導を行うために、複数の学年を移動する教師の動きを「わたり」と言います。特別支援学級では2学年以上で、学級が編制されることはしばしばあります。



児童に個別支援を求められる時間が同じで、どちらの授業もわたれていません。



それもそのはずで、教師が必要と考えられる時間がどちらも同じタイミングだからです。



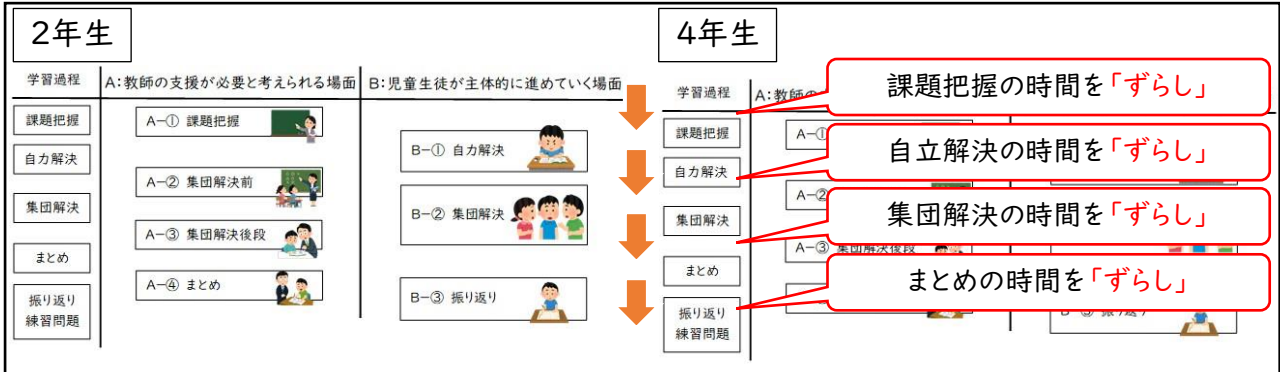
上記のように同じ学習過程で授業を行うと、どうしても同じタイミングで教師が必要となるため、授業の「わたり」がうまくいきません。

では、どうすればよいのでしょうか。

このようなときに、効果的な指導方法は、「ずらし」です！

「ずらし」について考える!

「ずらし」とは、教師が必要と考えられる場面【直接指導】と、児童生徒が主体的に学習を進めていく場面【間接指導】を、学習過程を考える段階で、ずらしておく方法のことです。

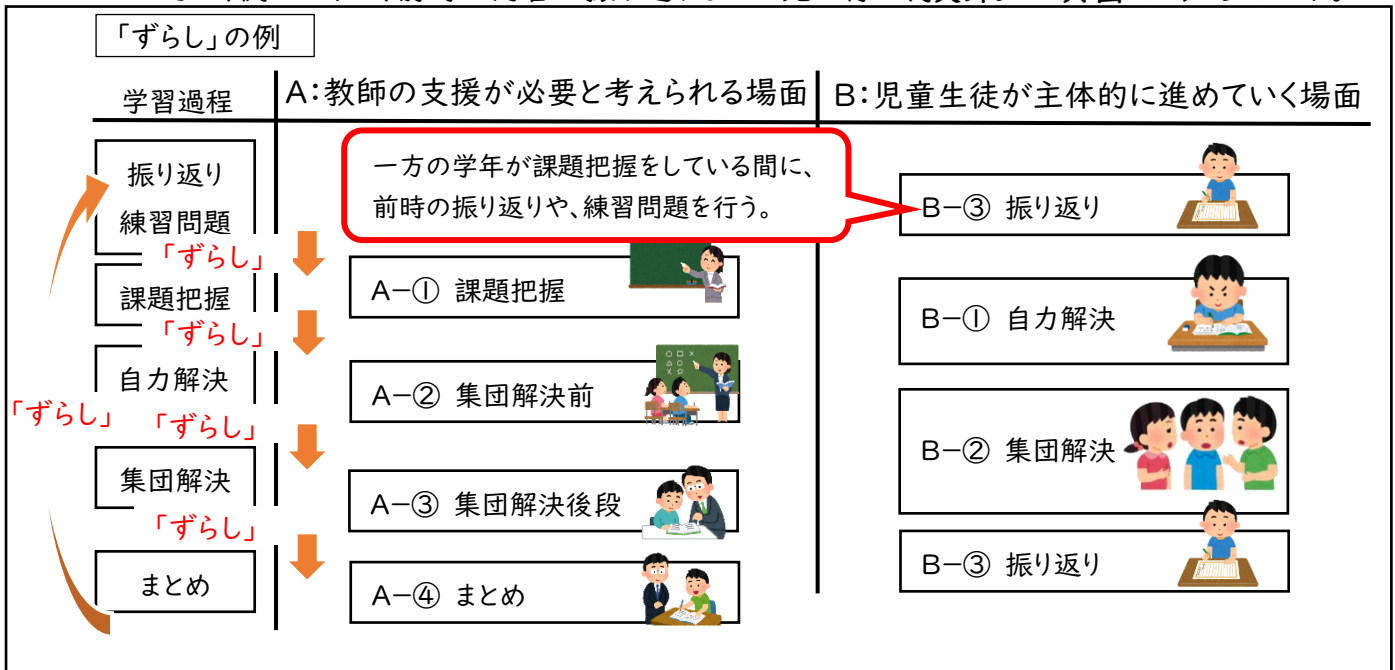


こうすることによって、教師が必要な時間を学年ごとに分けることができ、どちらの学年においても、児童生徒へ直接指導ができるようになります。

そのまま、時間をずらしてしまうと、児童生徒が教師の指示を待っている時間ができてしまいます。















このときは、例のように、前時の内容の振り返りなどを先に行い、授業の順番をずらします。



このように、ずらしを行えば、45~50分の授業を効果的に活用できます。

これまでの内容を簡単に図に表すと、このような図になります。

2年生	教師の動き		4年生
課題把握 	直接指導	間接指導	振り返り・練習問題 
自力解決 	間接指導	直接指導	課題把握 
集団解決・まとめ 	直接指導及び間接指導 	間接指導	自力解決 
振り返り・練習問題 	間接指導	直接指導及び間接指導 	集団解決・まとめ 

-  教師の動き
-  同時に間接指導をする場面

2年生と4年生の指導の順番はいつも同じではなく、学習内容によって、順番を変えることが望ましいです。

このように先生の動きをずらしていくことで、1単位時間をわたることが、授業の「わたり」の基本となる考え方です。



「ずらし」を効果的に活用しながら、授業の「わたり」のパターンを授業生徒と一緒に作っていくことで、児童生徒が自ら動く姿が出てくるはずです。

児童生徒が主体的に動き始める姿が、授業の「わたり」を実現するために、必要な児童生徒の姿だと考えています。
















これまで、授業を見て感じたことは、児童生徒が中心となって学習する時間を確保できるよう指導していくことが授業の「わたり」に必要な部分だと感じています。

指示はシンプルに！ 活動時間はたっぷりと！
これがキーワードのように感じています。



特別な支援について考える!

2年生	教師の動き		4年生
課題把握 	直接指導	間接指導	振り返り・練習問題 
自力解決 	間接指導	直接指導	課題把握 
集団解決・まとめ 	直接指導及び間接指導  	間接指導	自力解決 
振り返り・練習問題 	間接指導	直接指導及び間接指導  	集団解決・まとめ  

このような展開で進めるけれど、うまくいかない日があり、困っています。



先ほど、授業の「わたり」について、理想的な姿を確認しましたが、実際には、児童生徒の特性や学習内容のつまずき教師のファシリテートでの難しさなどから、理想通りの展開にならないことがあります。








このようなときには、**授業中に起こりうること**（児童生徒がつまづく場面）と**それに対する手立て**（つまずきに対する支援策）を予測し、教師が**事前に準備**しておくことが大切です。



では、授業中に、児童生徒がつまずくと予想される場面や、教師の指導上の起こりうることを考えてみましょう!

1 単位時間で予想されることの例

2年生	児童生徒のつまずき	教師の指導上に起こりうること
課題把握 	1時間の流れが分からず不安。 次に何をしたらよいか分からない。	課題把握に時間がかかる。
自力解決 	既習事項が定着していない 時間が余った時の対処方法。	個別指導に時間がかかってしまう。
集団解決・ まとめ  	話し合いの仕方が分からない。 話し合いのときに、何を言ったら いいか分からない。	集団への指示が難しい。 話し合いの話題がねらいからずれて しまう。
振り返り・ 練習問題 	授業の振り返り方が分からない。 学習内容が定着していない。	振り返りまで時間が作れない。 個別指導に時間がかかってしまう。





このような点を予測しておくことができれば、事前の準備をしておくことができます。

今回は、広島県立教育センターが令和5年3月に作成した「自閉症・情緒障害特別支援学級を担当する教師のための異年齢集団における授業づくりのヒント」を参考にしました。

https://www.hiroshima-c.ed.jp/pdf/tokubetushien/r5_tokusou_kenkyuseika_top.html

三原市の特別支援学級担任者研修で、上記内容をご指導いただいたことをもとに、適切な支援方法を先ほどの図に当てはめてみるとこうなります。

1 単位時間で予想されることに対する支援方法の例

2年生	児童生徒のつまずき	教師の指導上に 起こりうること	支援方法
課題把握 	1時間の流れが分からず不安。 次に何をしたらよいか分からない。	課題把握に時間がかかる。	【活動の視覚化】 【学習過程のパターン化】
自力解決 	既習事項が定着していない。 時間が余った時の対処方法。	個別指導に時間がかかってしまう。	【考えを整理する方法】 【学習のヒント】
集団解決・ まとめ 	話し合いの仕方が分からない。 話し合いのときに、何を言ったら いいか分からない。	集団への指示が難しい。 児童生徒が話し合わないため、 たくさん声をかける必要がある。	【異年齢との関わり】 【支援員との連携】
振り返り・ 練習問題 	授業の振り返り方が分からない。 学習内容が定着していない。	振り返りまで時間が作れない。 個別指導に時間がかかってしまう。	【学習過程のパターン化】 【考えを整理する方法】

各場面に応じて、このような手立てを打ち、授業に臨んでいけば、授業の「わたり」がずいぶんスムーズに行えるようになっていきます。

つまり、一つの授業を成立させるにあたり、
 日常的にできる手立てを含めて、
 準備をしておくことができれば、
 児童生徒が安心して学習することにつながっていきます。



実践事例集のみどころ

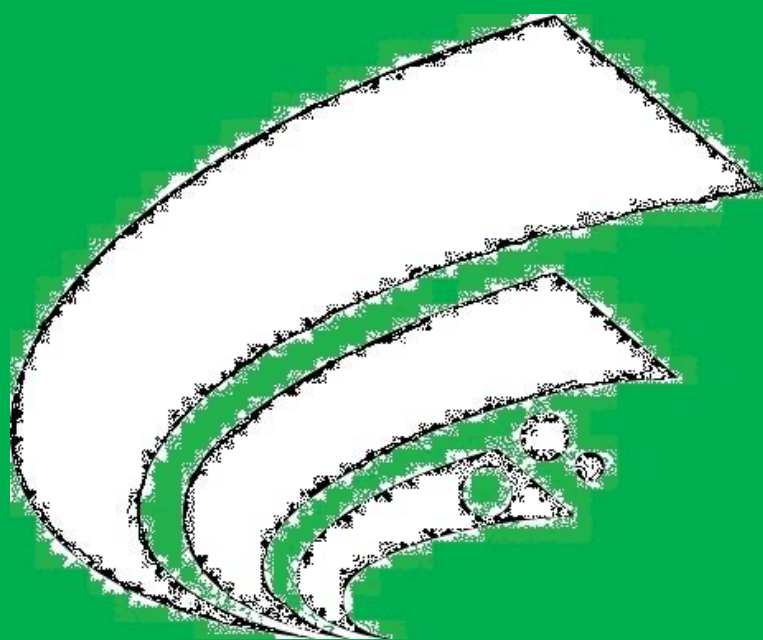
2年生	支援方法
課題把握 	【活動の視覚化】 【学習過程のパターン化】
自力解決 	【考えを整理する方法】 【学習のヒント】
集団解決・ まとめ 	【異年齢との関わり】 【支援員との連携】
振り返り・ 練習問題 	【学習過程のパターン化】 【考えを整理する方法】

この事例集では、課題把握等に関する具体的な支援方法や、実際の授業で使用した指導案について、紹介をします。

三原市内の各先生方が、授業の「わたり」をよりよく実践できるよう、
様々な支援方法を考えて、
日々授業に励んでいる成果をご覧ください！



本資料について



本資料は、日頃の悩みをスタートとして、先生方が取り組んだ内容や結果をPDCAサイクルで改善していけるように構成しています。

授業の「わたり」を進めていく上で、各先生方で悩んでおられる点について整理しています。

これまでは、授業中に手持ち無沙汰になった子供達が「先生、先生」と呼びかけてくるため、落ち着いて個人指導をすることができず、思ったように授業をすることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】

【学習のヒント】

「わたり」の工夫の中で、
 【時間割の工夫】【活動の視覚化】【学習過程のパターン化】
 【考えを整理する方法】【学習のヒント】【異年齢との関わり】
 【支援員との連携】【活動場所を分ける】等の標題をつけ、
 工夫点を示しています。

学習リーダーを設定し、自分達で集団解決ができるようにしました。

子供が自分達で答え合わせができるように答え合わせを設定し、問題がで

どんな取組をしたか分かるように、写真や言葉で具体的に示しています。また、その時の児童生徒の様子をまとめています。

なりました。

ている点がよかったです。

「わたり」の工夫をした結果、どのように児童生徒が変容したか。児童生徒の学習の様子や意欲的になった点等を整理しました。

また、環境設定をすることによって、子供達が主体的に学習を進めていく

今後に向けて、さらにわたりを充実させていく方法を記載しています。授業改善に向けて、今回の反省点や、今後取り組んでいきたいことについて記入しました。

ようになってほしいです。そのために、学習リーダーに「みんなで相談しましょう。」などと言えるような話型を取り入れていきたいと思ひます。

記入例：これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、3年、5年
教科	算数科

学級の内装か
学級の様子が
分かる写真

これまで困っていたこと

これまでは、授業中に手持ち無沙汰になった子供達が「先生、先生」と呼びかけてくるため、落ち着いて個人指導をすることができず、思ったように授業をすることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】	【学習のヒント】
写真	写真
<p>学習リーダーを設定し、自分達で集団解決ができるようにしました。その際、話型を設定することで、司会に苦手意識がある児童も原稿を見ながら集団解決を進めることができました。</p>	<p>子供が自分達で答え合わせができるように答えコーナーを設定し、問題を解き終わった児童から丸付けができるようにしました。子供達が次にすることが明確になっている点がよかったです。</p>

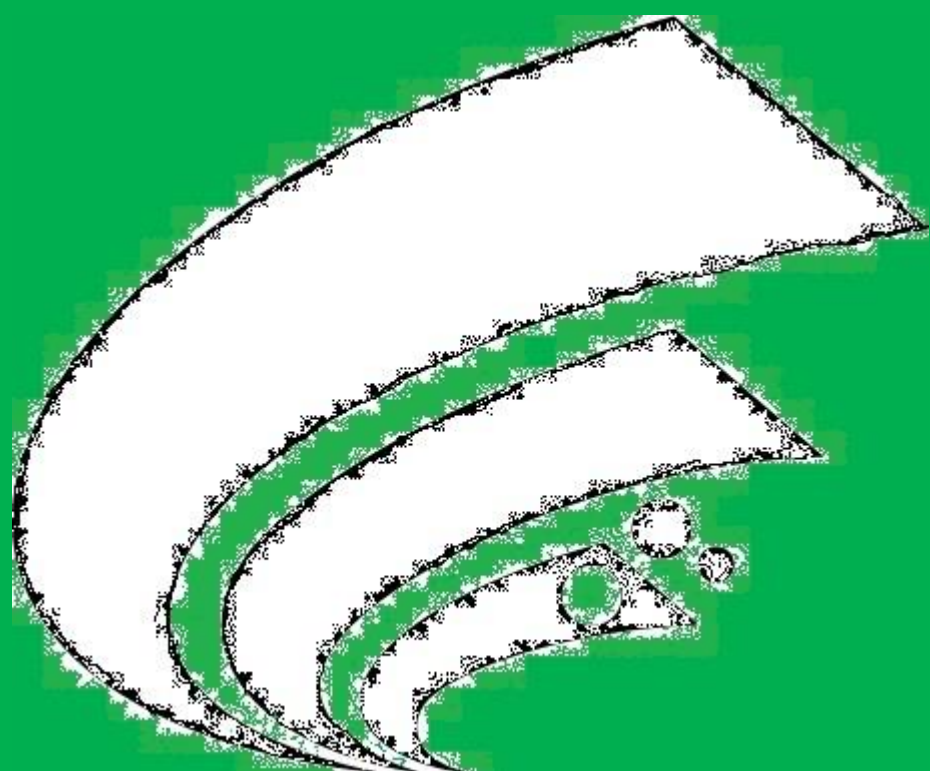
児童生徒の様子

初めは、学習リーダーに慣れずうまく話し合いができない様子がありましたが、話型を用意して、進めていくと少しずつ同学年での話し合いが進むようになりました。また、環境設定をすることによって、子供達が主体的に学習を進めていく様子が見られるようになりました。

今後に向けて

間接指導の時間では、分からない時は自分から友だちに聞くことができるようになってほしいです。そのために、学習リーダーに「みんなで相談しましょう。」などと言えるような話型を取り入れていきたいと思います。

自閉症・情緒障害



これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、3年、4年
教科	算数科



これまで困っていたこと

複数の学年の学習を同時に進めていくことと同学年でも児童の実態の違いから学習内容を同時に進めることが難しい場合がありました。

だからこんな工夫をしました！

【授業構成の工夫】	【学び方への支援】
<p>導入</p> <p>支援カードを共有</p> <p>共通題材の問題</p>	<p>チャレンジ問題①～③</p> <p>ワークシートへ次の指示</p>
<p>導入時に2、3、4年が本時で扱う長さの単位や図を全体で提示し、異学年の学習のつながりを感じることができるようになりました。</p> <p>同じ領域や関連する学習内容にすることで、異学年同士で視覚支援のカード（既習事項等）を活用し合うことができました。</p> <p>練習問題を自分たちに関係のある共通の題材にし、他学年への興味関心や学習の一体感が感じられるよう工夫しました。</p>	<p>クロームブックを活用することで、2年は単位同士を計算すること、3年は単位の換算、4年は筆算時に小数点や位をそろえることについて、個人で考える際の手立てとなりました。</p> <p>個に応じた課題量を調整したり、チャレンジ課題を自分で選んだり、ワークシートの最後に次にすることを書いたりすることで、見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができました。</p>

児童生徒の様子

ワークシートの最後に次にすることを書いておくことで、指示や声掛けを待つことなく、自分から進んで学習に向かおうとする姿が見られました。

チャレンジ問題を数枚準備しておくことで、意欲的に自分で選んで取り組んだり、自分のペースで学習を進めたりすることができていました。

今後に向けて

異学年間での振り返りを行うことで、他学年のがんばりやよさに気付いたり、下学年は今後の学習への興味関心、上学年は既習の学習の復習となったりすることができるので、異学年相互の振り返りの場面をできるだけ設定するようにしていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、3年、6年
教科	算数科

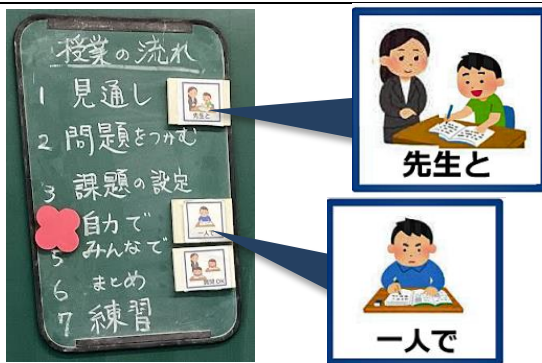


これまで困っていたこと

授業の中で、与えていた課題を終えた児童が「先生、先生」と連呼したり、次の指示を待つ間に手遊びを始めたりするなどの姿が見られ、主体的な学習を引き出すことが難しかった。また、「今日何するん？」「どこまでやればいいん？」などの発言も多々あり、授業に消極的であった。

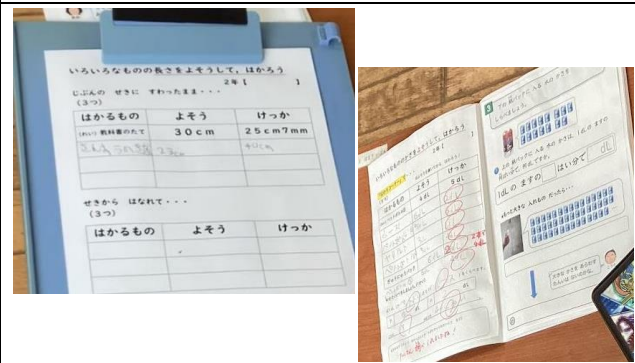
だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



授業の学習過程をパターン化し、視覚的に示して、児童が授業の流れをつかみ、授業の「見通し」がもてるようにしました。また、イラストカードを用意し、流れと合わせて提示することで、どこで何をすることがより分かるようにしました。

【学習のヒント】



毎時間の授業内容に合わせ、簡単なワークシートを作成し、ノートに貼らせたり、バインダーで持たせたりしました。ワークシート自体が、内容や学習量を具体的に示す手立てとなり、「見通し」をもたせることにつながりました。

児童生徒の様子

学習過程の視覚化やパターン化、具体化により、授業の「見通し」がもてるようになると、どこまで何をがんばればよいか分かり安心するようになりました。また、児童の気持ちが安定し、学習に集中したり、自ら進んで学習に取り組んだりすることが増えました。

今後に向けて

「分からない」ときに、ただ支援を待つだけでなく、自ら友だちや教師に質問したり、教え合ったりすることができるよう、声かけのしかたや学級でのルールや規律をさらに工夫していきたいです。また、児童が自ら「ここは一人でがんばろう」「ここは先生と一緒に」などと選択したり、自己決定したりする場面を増やし、学び方を身に付けさせていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、3年、6年
教科	算数科



これまで困っていたこと

授業における「測定活動」や「身の回りの図形探し」等の活動をさせる場合、その活動の様子が隣で学習している異学年の子の目にとまり、自分の学習に集中できない、ということが見られました。また、教師側も仕切ることや、分けることにばかり気が向いていました。

だからこんな工夫をしました！

【活動場所を分ける】



「長さ」や「かさ」の学習の際、「はかりコーナー」を教室の一角に設け、必要な道具類を用意しておくことで、活動の切り替えがスムーズにでき、他の子の学習の妨げ防止にもなりました。活動の仕方や注意点を記したシートや掲示を作っておくとよりスムーズに活動できました。

【異年齢との関わり】



授業を計画する際、異学年であっても、意図的に同じ学習領域で学習を設定すると、互いに関わり合いながら学習をしたり、学習の系統的なつながりを感じさせたりしやすくなりました。教える場が生まれることで、上の学年の児童の責任感や自己有用感の育成にもつながりました。

児童生徒の様子

特に1学年で1人の場合、対教師のみの授業になることが多くありますが、意図的に学習の場を整えたり、活動を仕組んだりすることで、スムーズな活動になったり、自然に教え合ったり関わり合ったりする協働的な姿が生まれたりしました。より主体的な学習にもつながりました。

今後に向けて

「はかりコーナー」だけでなく、丸つけや練習・発展学習、学習のヒント等の「〇〇コーナー」の設置を増やし、主体的な姿を引き出していきたいです。「個別の学習課題ボックス」も活用を図りたいです。また、異年齢で関わる活動も、もっといろいろな場で増やして、異年齢集団での学習のよさをフル活用していきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、4年
教科	算数科



これまで困っていたこと

問題の考え方や解き方が分からない児童が複数おり「先生、先生」と呼びかけてくるため、一方の学年への指導ができず、思ったように授業を進めることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



絵や丸図を手掛かりに、ブロック操作をさせ、全員が自分の考えを前に出て発表する場面を設定しました。繰り返し活動をするすることで、自分たちで説明しようとする姿が見られるようになりました。

【学習のヒント】



児童が自力で考えることができるように、複数のヒントカードを準備し、児童が自分に合ったカードを選べるようにしました。また、グループで話し合いながら問題を解く場面を設定しました。

児童生徒の様子

児童一人一人に応じて、ヒントカードやワークシートを作成しました。その結果、「先生、先生」と呼ぶ回数が減り、進んで問題に取り組む児童が増えてきました。

今後に向けて

間接指導時に、1年生児童は、分からない時は自分から友だちに聞くことができるようにしたいです。そのために、質問タイムを設定するなど、学習過程のパターンに取り入れていきたいと思います。
4年生児童は、自分の考えを順序立てて説明でできるようにしたいです。そのために、学習のヒントで話型を提示するなどして、説明する力をつけていきたいと思います。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、4年
教科	算数科

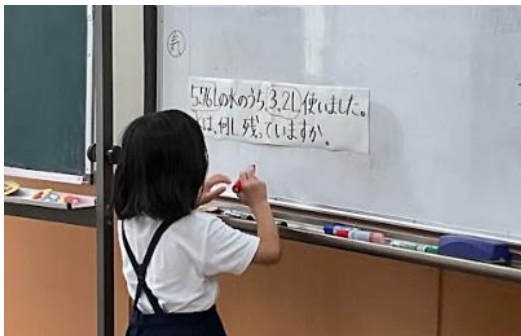


これまで困っていたこと

児童が自分で問題に取り組むことができないことが多く、分からない問題になるとそのまま手が止まってしまったり、やる気をなくして授業へ気持ち向きが向かなくなったりしていました。

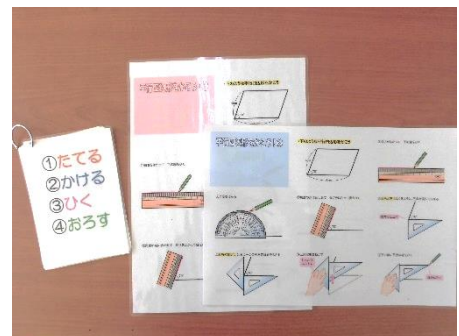
だからこんな工夫をしました！

【授業のパターン化】



「問題を貼る→気付きに印→課題→個人で問題を解く→発表」のように、毎授業のやり方をパターン化し、児童だけでも次の行動をすることができるようになりました。「このあとはどうする？」と児童に考えさせて授業を進めることで、主体的に授業をすることができるようになってきました。

【学習のヒント】



筆算の手順や用具の使い方などの手順書を作成し配布しました。一人一人が自分の不安な時に、自由に見て確認して進めることができるため、安心材料となり、自力で問題を解く手立てとなりました。

児童生徒の様子

初めは、授業の準備もままならないこともありましたが、授業のパターン化と肯定的な声かけを続けることで、自分でノートを開いて日付や課題を書くことができるようになってきました。教師がついていなくても児童同士で考えて、黒板に自分の考えを書いたり、発表したりすることができるようになりました。

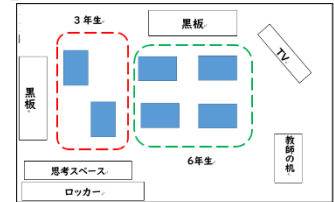
学習のヒントがあることで、「困ったときにはこれを見ればいいんだ。」と児童が思うことができ、前向きに学習に取り組めるようになりました。

今後に向けて

児童同士で発表することはできても、相手を意識した発表になっていないことが多いので、発表するときの話型を示して、相手に分かりやすい発表ができるようにしていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年、6年
教科	算数科



これまでで困っていたこと

これまでは、3年生につくと6年生は何をしてよいのか分からず、黙っていたり、ぼんやりしたりしていました。6年生につくと3年生から、「わからん。先生。」と呼ばれることがあり、教師が一人であたふたしていました。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】

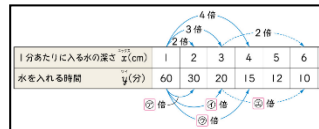
司会原稿（6年生）

- 算数科 授業のすすめ方
- 1 問題を読みましょう。
 - 2 気づいたことを言きましょう。
(今まで習ったことと結び付けましょう。)
 - 3 問題を決めましょう。
 - 4 問題を読みましょう。**詳細提示**
 - 5 まず、自分で考えましょう。**自力解決**
(5分間です。)
 - 6 グループで考えてみましょう。**グループ討論**
(5分間です。)
 - 7 黒板を見て、気づいたことを言きましょう。
(グループで発表してください。)
 - 8 意見や質問はありませんか。**全体交流**
 - 9 今日のおまめをしましょう。**全体交流**
 - 10 今日のおまめをしましょう。**全体交流**
 - 11 練習問題をしましょう。
 - 12 振り返りをしましょう。**振り返り**
「ぼくが振り返りをします。」

学習の流れの掲示

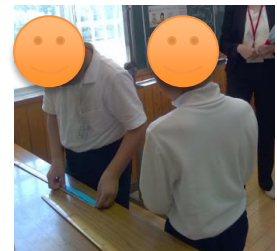


【活動場所を分ける】



【ヒントカード】

考え方のヒントが書かれた紙を必要な児童に渡し、個人思考させた。



思考スペースの確保

授業のはじめにミライシードやプリント（タイマーで5分セット）をさせ、その間に問題提示を行うずらしを行いました。学習過程を、一人でするところは青、教師と一緒に考えるところは赤に色分けしたものを提示しました。また、6年生には、司会をする児童に進行表を渡し、集団解決を進めることができました。

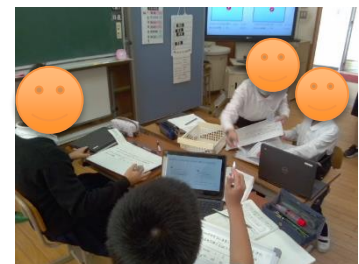
個人思考の時には、自分で考えることができるように、ヒントカードを用意したり、実際に比べてみたり、試してみたりする場所を設定しました。児童同士で話し合うことができ、考えが深まりました。

児童生徒の様子

6年生は初めに司会を決め、司会原稿をもとに、授業を進める方法を、教師が一度やってみせました。そして、子供たちが順番にできるように、同じパターンで授業を繰り返し行いました。3年生にとっては、授業の流れを提示することで、今何をしているのか、次に何をしたらよいのかの見通しをもつことができ、授業に落ち着いて取り組むことができました。

今後に向けて

3年生でも、6年生と同じように司会をしながら、授業が進めていけるようにできたらよいと思っています。既習事項の掲示を残しておくことで、個人思考の際にヒントとして活用し、自分たちだけでも考え、進めることができるのではないかと考えています。



これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、3年、5年
教科	国語科、算数科



これまで困っていたこと

これまでは、1時間の見通しをもてないと、不安になったり、混乱したりする児童がいました。そのため、落ち着いて学習することができないことが多かったです。

だからこんな工夫をしました！

【活動の視覚化】



1時間の学習の見通しをもてるように、活動の順番や活動時間を視覚化するようにしました。内容を示すことで、落ち着いて学習に取り組むことができるようになりました。また、①の内容が終わった児童は②の内容に自分で進むことができ、時間を持て余すことがなくなりました。

【ワークシートを用いた学習】



学習内容の見通しをもったり、一人で学習を進めたりするために、単元ごとにワークシートを作成し、それに基づいて学習を進めました。教科書を見ながら自分で進めることができ、書くことが苦手な児童には、負担を減らすことができるため、意欲的に取り組む姿が見られました。

児童生徒の様子

活動の順番を示すことで、落ち着いて学習に取り組むことができるようになりました。また、活動時間も同時に示すことで、集中して学習しようとする姿勢が見られました。

ワークシートを用いて学習することで、1時間の授業でどこまで取り組んだらよいのか理解することができ、意欲につながる児童がいました。

今後に向けて

高学年は学習リーダーを設定し、児童同士で話し合い等しながら学習を進められるようにしていきたいです。そのために、学習過程をパターン化させ、話型を用いた授業の進め方を取り入れていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、4年、5年
教科	算数科



これまで困っていたこと

これまでは授業中に2年、4年、5年が全員揃うとわたりの指導が追いつかず、「先生まだ？」と呼びかけてくるため、各学年に丁寧に指導をすることができず、思ったように授業をすることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習活動の視覚化】



学習の流れをパターン化し、さらに流れや学習する内容を提示することで、自分たちで学習を進められるようにしました。
流れが定着してからは、授業準備が早くできたり、授業中にやりたいことを事前に伝えたりするなど学習意欲の向上が見られました。

【ペア学習の定着】



同学年や異学年のペア学習を導入し、意見交換をしながら楽しく学習をすることができました。
困ったことがあっても自分たちの力で解決し、上級生が下級生を教えることで充実感を得ている様子も見られました。

児童生徒の様子

初めは、自分も含め学習の流れややり方が分からず、手持ち無沙汰な児童が多かったのですが、少しずつ落ち着いて授業ができるようになってきました。
また、児童の方からも友達と相談しながら、計画的に学習を進める姿が見られました。

今後に向けて

まだまだ複数学年を指導するときに準備が不十分であり、同じ学年の中でも意欲や学習速度に大きな開きがあり、わたりで困る時があります。より効率的な授業の進め方や支援の仕方を考えていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、2年、3年、5年、6年
教科	国語科

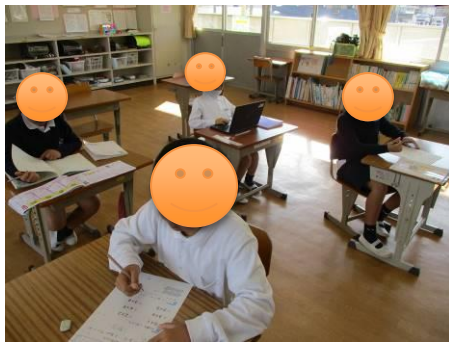


これまで困っていたこと

数名の児童が、授業中、学習内容が分からなかったり、困ったことがあったりすると、手悪さや立ち歩き、おしゃべりが始まるため、思ったように授業を進めることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

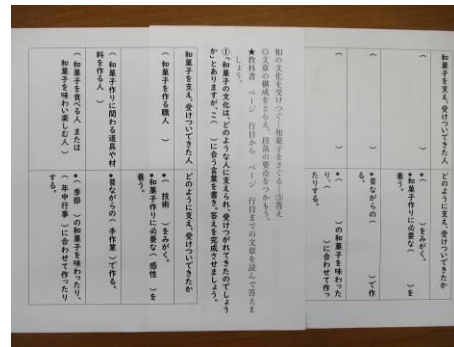
【学習過程のパターン化】



学習を漢字ドリルでの新出漢字の学習、教科書の音読、本時の課題の大きく3つに分けました。

「〇年生…漢字→音読→課題。□年生…音読→課題→漢字」と意図的にずらしを取り入れた流れにすることで、個別に指導する時間を確保しました。

【学習のヒント】



長時間、一人の児童に指導できないことがあります。

そのため、高学年が一人でも学習を進められるように、ワークシートを用意しました。さらに、答えを用意し、自分で丸付けもできるようにしました。誤答のみ指導すればよいので、効率的な指導にできました。

児童生徒の様子

学習過程のパターン化をし、「ずらし」を取り入れることで、複数の学年が教室にいても、児童全員が落ち着いて学習に取り組むことができました。特に高学年においてはワークシートも取り入れることで、見通しを持ちながら学習に取り組むことができるようになりました。

今後に向けて

国語科の学習でしか、「ずらし」を行えておらず、十分なワークシートも用意できていない現状があるので、算数科といった他の学習でも取り入れて、実践していきたいと思えます。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、3年
教科	算数科



これまで困っていたこと

これまで、授業中、次に何をしたらいいか分からなくなったり、問題の解き方が分からなかったりした児童が、大声で教師を呼んだり、学習をやめて遊び出したりすることが多く、学習に集中して取り組ませることができていませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】

1	もんだい	
2	かだい	
3	じぶんで	
4	みんなで	
5	まとめ	
6	れんしゅう	
7	ふりかえり	

算数の学習のすすめかた	
1	はじめのあいさつ
2	読み上げシートをしましょう。よいい スタート
3	前の時間に学習したことをいってください。
4	問題を読みましょう。
5	かだいを考えましょう。
6	ノートに自分の考えをかいてください。 ○分にします。 はじめましょう。
7	発表しましょう。
8	まとめをしましょう。

【活動の視覚化】

今日やること

1	<u>もんだい</u>	もんだい
2	<u>かだい</u>	
3	<u>じぶんで</u>	10人で いっせいに わなげの わを
4	<u>みんなで</u>	投げる時 どこから 投げると
5	<u>まとめ</u>	いいでしょうか。
6	<u>れんしゅう</u>	
7	<u>ふりかえり</u>	

学習の流れをホワイトボードに提示した「学習進行表」を活用し、1時間の学習の見通しをもたせました。終わったら、児童が自分でマグネットを付けることで、今何をしているか、後どのくらいで終わるのかが視覚的に分かるようにしました。3年生は、学習リーダーを中心に自分達で学習を進めることができるように、学習リーダーが「学習リーダーの手引き」を見ながら、学習を進め、困った時だけ教師に質問するようにしました。

3年生は、1時間の学習の流れを、スライドで提示し、学習リーダーが操作をしながら、学習を進めることができるようにしました。リンクを活用し、「問題」の文字をクリックすると問題が提示される等、スライドを見て、児童が主体的に学習を進められるよう工夫しました。また、自力解決のヒントになるスライドや映像等をリンクさせておくことで、分からない時にヒントを見ながら、自分で思考させることができました。

児童生徒の様子

学習の流れを提示することで、見通しをもち、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになりました。また、「学習進行表」や「学習リーダーの手引き」を見ながら、自分達で学習を進めることもできるようになってきました。さらに、スライドで学習の流れや問題、ヒント等を提示することで、何をするかを確認しながら学習を進めることができ、教師を呼ぶことなく、自分達で学習を進める時間が増えました。

今後に向けて

スライドの準備に時間がかかるため、簡単に作成できるよう作成の仕方を工夫したり、作成したスライドを、今後、誰でも使用できるように共有化したりしておきたいです。また、スライドがなくても児童が「学習進行表」や「学習リーダーの手引き」を見ながら、自分達で学習を進められるように支援をしていきたいです。

さんすう がくしゅう
算数の学習のすすめかた



1	はじめのあいさつ
2	よあ 読み上げシートをしましょう。よい スタート
3	まえ じかん がくしゅう 前の時間に学習したことをいってください。
4	もんだい よ 問題を読みましょう。
5	かんが かだいを考えましょう。
6	じぶん かんが ノートに自分の考えをかいてください。 ぶん ○分にします。 はじめましょう。
7	はっぴょう 発表しましょう。
8	まとめをしましょう。
9	れんしゅうもんだい 練習問題をします。 こた あ 答え合わせをしましょう。
10	ふりかえりをしましょう。
11	はっぴょう 発表してください。
12	おわりのあいさつ

これがわたしの「わたり」ポイント！


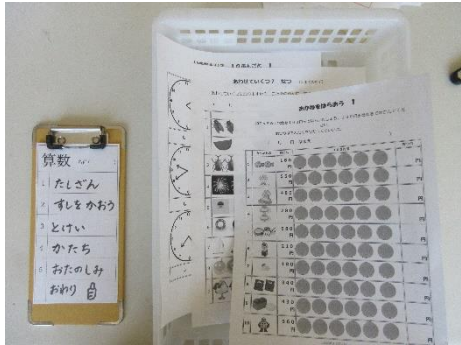
校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、3年、6年
教科	算数科、国語科



これまで困っていたこと

異学年の児童が在籍しており、学習内容や学習内容の習得に差があります。特に、算数科や国語科の学習内容を個に応じることが難しい実態があります。

だからこんな工夫をしました！

【個別課題の準備】	【学習過程のパターン化】
	
<p>各児童が、その日に行う学習課題を置いておくためのボックスを用意しています。国語科と算数科は全員に、高学年には社会科等、特別支援学級で学習する教科のボックスも用意しています。そのためには、児童の苦手なところを理解した適切な実態把握と、それに対応した教材研究を行いました。</p>	<p>バインダーにその時間に行う個別の課題を書いておき、わたりで指導している間、個別の課題を行うようにしました。 1つの課題を短時間で行うことができるように、いくつかの課題を用意しています。</p>

児童生徒の様子

やるべき課題が明確になり、一人でも学習することができるようになりました。1時間を通して集中できにくい児童に対しては、課題を終えたらお楽しみを用意しておくことで、集中して学習に取り組むことができるようになりました。

今後に向けて

学習に向かう力や意欲を持たせることが大切です。そのために、学習を頑張ることの大切さを子供たちに語り、学習に対する意欲を育もうと取り組んできました。
そのために、特別支援学級においても、児童が一人で学ぼうとする態度を大切に学習風土を作っていくことが、「わたり」の必須条件となります。
また、児童の実態に応じた個別の学習はもちろんですが、異学年での学習も積極的に行っていきたいと考えています。
その上で忘れてはならないことは、子供たちの進路実現のために、各教科の力を付き、子供たちに学習内容を定着させていく必要があります。もちろん、児童の実態によりできる範囲ではありますが、小学校の教諭の務めとして児童に各教科のねらいを達成させることを求められていることを自覚し、児童の「わかった」「できた」を少しずつでも積み上げていきたいと思えます。様々な児童の実態のある中で、定着が難しいことも多いですが、粘り強く指導する努力を怠らず取り組んでいくことが必要だと考えます。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	4年、6年
教科	算数科

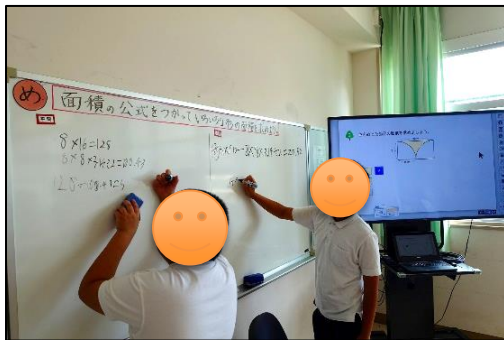


これまで困っていたこと

わたりの授業で教師が直接指導できない時間、作業が終わるとボーッとしたり、「先生何したらいいん？」と聞いてきたりして、授業の進行がうまくいきませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



6年生は学習リーダーを設定し、自分たちで授業を進行できるようにしました。
学習の流れをパターン化し、話型が書かれた進行表を持たせることで、教師が直接指導できない時間も安心して学習できるようになりました。

【学習のヒント】



机の上に前回学んだことやその単元で学習した大切なポイント、振り返りの書き方、自力解決で困ったときどうしたらよいか気を付けることを机に貼りました。このことで困ったときに安心して学習ができるようになりました。

児童生徒の様子

初めは学習リーダーに慣れず、話すスピードが速すぎたり、進行に時間がかかり過ぎたりしていましたが、今はお互いのことを考えながら協力して自主的に学習できるようになりました。また、空いた時間に何をしたらよいか自分たちで考え、行動できるようになりました。

今後に向けて

算数では学習単元の領域をできるだけ合わせて学習しています。しかしながらお互いの学習を意識し合うまでには至っていません。今後は授業後半の練習問題を解くとき、「6年生に質問OKタイム」を設ける、振り返り振り返りを4、6年一緒にすることなどして、お互いの学習のつながりを意識させるようにしたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、3年
教科	算数科



これまで困っていたこと

わたりを計画的に行うことができず、どちらかの学年で長く時間を使ってしまうと、もう一方の学年のプリントやクロームブックでの反復練習の時間が長くなってしまい、その時間に進みたい内容まで終わらせることができないことがありました。

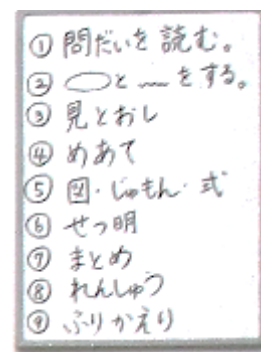
だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



これはかけ算の学習ですが、2年生は何の段になっても同じ話型の説明の仕方で学習を進めることができるので、自分たちで説明の練習をすることができました。

【活動の視覚化】



学習パターンが決まっているので先生と一緒に学習するところと、自分たちで進めればよいところが、子供たちにもわかって、時間配分が改善されました。

児童生徒の様子

クロームブックで既習内容を自分で確認しながら、学習を進めることができるようにしたり、ワークシートや話型などの型を決めて取り組ませたりすることにより、子供たちは次に何をすればよいか理解でき、安心して学習に取り組んでいる様子が見られました。また、写真のように、2、3年生で学んだことをお互いに交流することもできました。

今後に向けて

一人一人の個の実態に合わせて、子供たちが自分の学習を選択して学習ができるように準備をしたいと思います。
また、お互いにあったか言葉をつかって、仲良く学び合うことの大切さを今後も指導していきたいと思います。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、4年
教科	算数科

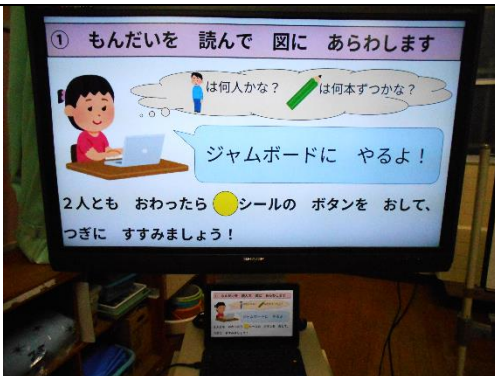


これまで困っていたこと

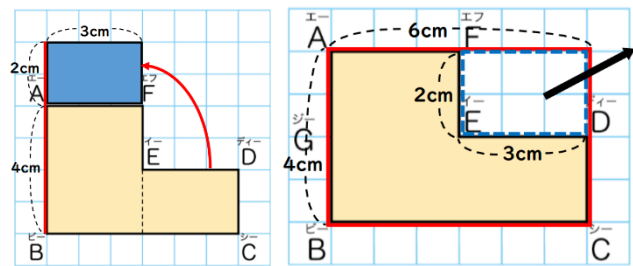
教師が直接指導できないときに、課題に対して自分の考えが持てず待っている児童や早く終わって時間を持て余してしまう児童がおり、自学できる体制が整っていませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【活動の視覚化】



【学習のヒント】



例：4年「面積のはかり方と表し方」

4年生にわたっている間、2年生が自分達で学習を進められるように、スライドを活用して学習の手順を提示しました。「どういう順番でどこまで進めておくのか」を具体的に示すことで、教師がいなくても主体的に学習に取り組むことができました。

間接指導の際に、児童が自分の考えをもち安心して考えを述べることができるように、ヒントスライドの準備やスモールステップで取り組める課題の設定を行いました。間接指導の間でも、児童が学び合う姿が見られるようになりました。

児童生徒の様子

2年生も4年生も落ち着いて学習に取り組めるようになりました。また、スライドがないときでも、「次はこれだね。」と、児童が自ら考えて学習に取り組む姿が見られるようになりました。

今後に向けて

間接指導のパターンが定着し、自学できる力が身に付いてきたため、さらに児童同士で学習を価値付け合えるように、振り返りに力を入れていきたいです。その際、異学年で振り返りを聞き合うことによって、豊かな表現力や他者と関わる力の育成にも生かしていきたいです。



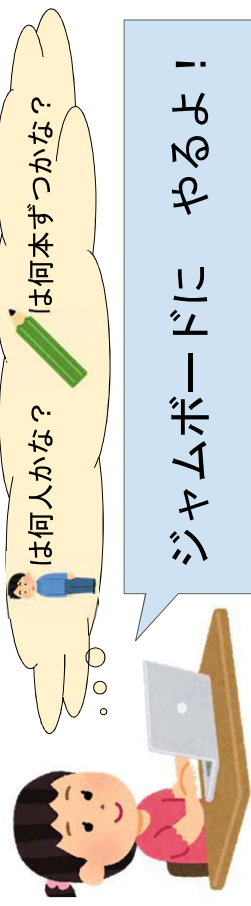
ICTを活用した学習手順の提示

さいしよは **ふくしゅう** をしましょう！

⑤ えんぴつを 1人に 2本ずつ、
5人に くばります。えんぴつは、
ぜんぶで 何本 いらいますか。

2人とも おわったら ● シールの
ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

① もんだいを 読んで 図に あらわします



ジャムボードに やるよ！

2人とも おわったら ● シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

② 図を 見て かけ算の しきを 書きます



2人とも おわったら ● シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

③ 友だちと 考えを こうりゆう する



😊 ジャムボードを 見せながら！

2人とも おわったら ● シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

④ 黒板に 図と しきを あらわそう

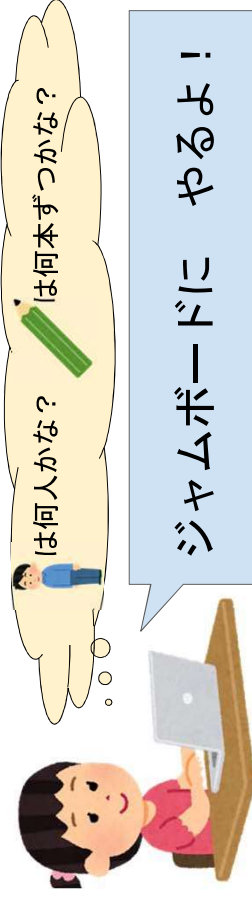


おわったら ●シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

⑤ 先生が 来るまで もう少し まちましよう



① もんだいを 読んで 図に あらわします



2人とも おわったら ●シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

② 図を 見て かけ算の しきを 書きます



2人とも おわったら ●シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

③ 友だちと 考えを こうりゆう する

😊 ジャムボードを 見せながら！



2人とも おわったら ●シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

④ 黒ばんに 図と しきを あらわそう



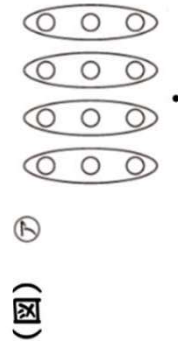
😊 2人で きょうかしよう！

おわったら ●シールの ボタンを おして、
つぎに すすみましょう！

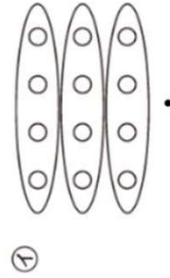
れんしゆう もんだい



つぎのもんだいに合う図としきは、どれですか。
線で つなぎましょう。



(式) $4 \times 3 = 12$



$3 \times 4 = 12$

😊 ふりかえりの たっじん

- ① ～が大切だと 分かりました。
- ② ～すれば できることが 分かりました。
- ③ 友だちの ～という 考えで、やり方が 分かりました。
- ④ 友だちと まなび合って、～が できました。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年、5年、6年
教科	算数科

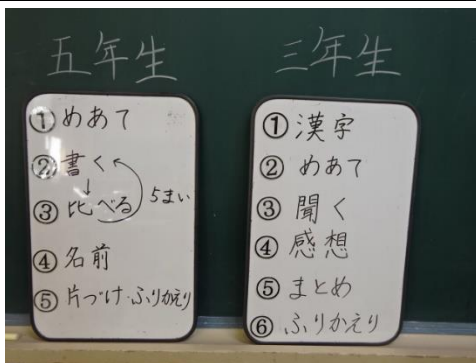


これまで困っていたこと

これまでは、授業中に手持ち無沙汰になった子供達が「先生、先生」と呼びかけてくるため、落ち着いて直接指導をすることができず、思ったように授業を進めることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【活動の視覚化】



学年ごとに、自分でできる課題と教師を呼びたくなる課題で意図的にずらしを行うことで、一人ひとりに支援をしやすい授業づくりを行いました。

【異年齢との関わり】



物語文の読み取りでは、音読の得意な子、劇に表すことが得意な子、など一人ひとりの得意なことを生かして行うことで、人物の行動と心情を主体的に捉えることができました。

児童生徒の様子

初めは、一つ一つの課題に不安を抱えていた児童も、学習過程が明確になることで、次第に質問できるタイミングなども理解し、安心して課題に取り組むことができるようになりました。
また、不安や疑問があるときには、「先生が近くに来た時に声をかける」という約束を作ると、待つ間にいらいらしてしまう児童も「もう少し考えよう」と学習に向かう姿勢も変化してきました。

今後に向けて

間接指導の時間では、分からない時は友達と相談して解決できるような力をつけてほしいです。そのために、授業中に「友達相談室」のスペースを設置し、主体的に学習できる環境づくりに取り組んでいきます。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1、2、4年生
教科	国語科



これまで困っていたこと

低学年と中学年といった学年差や同学年で学力差のある授業において、45分間を有効に活用しながら単元での付きたい力を定着させるための手立てを講じても、うまく行かない日があって困っていました。

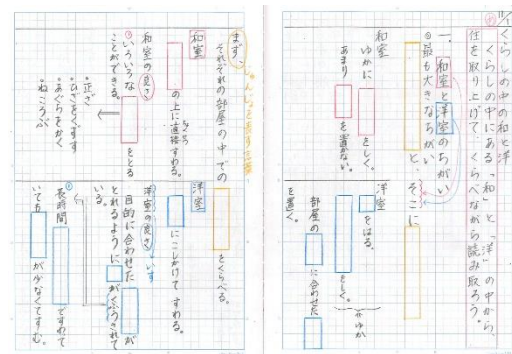
だからこんな工夫をしました！

【ICTの活用】



クロームブックを用いてデジタル教科書の音読機能を利用しながら、単元全体の内容を把握させました。その際、どのように音読するかを示すことで、効果的な音読をすることができるようになりました。ヘッドホンやイヤホンを利用し、複数学年でも音読練習が可能です。この時間を使って、直接指導をする時間を設定することができました。

【学習のヒント】



進級に伴いノートの罫線が小さくなり、書くことへの抵抗が大きくなってきましたが、説明文の構成の在り方や物語文の内容理解を図るためには、ノートの活用が必至だと考えました。そこで、色分けをしたり児童が書きやすい文字の大きさに合わせたスペースを取ったりしながら、「できそうだな」の見通しの持てるようなノートづくりを続けました。

児童生徒の様子

音読練習では、クロームブックの使い方に次第に慣れてきました。自分の音読をふり返りながら「もう一度読み直したい」「意味が分かりづらいのでもう一回聞きなおそう」というように、児童が自分の課題の沿った学習の仕方を身に付けつつあります。また、音読を繰り返すことで、これまで内容理解が十分でなかった児童が「続けていたから分かったよ。」と満足感を得ることもつながっています。

苦手意識が強かった「書くこと」では、わたりの授業であっても、教科書を繰り返し読み直すとともに、ノートを分かりやすくまとめれば自力である程度解答できることが分かってきました。自力で問題に取り組める経験は、児童の意欲の向上につながっています。

今後に向けて

音読については、引き続きクロームブックを用いてデジタル教科書を活用していきたいと考えています。また、クロームブックの操作を通して音読だけではなく「新出漢字」の練習も繰り返し取り組めるようになると思います。

工夫したノートの作成に関しては、単元を精選しながら効果的な学習の足跡が残せるようにそれぞれの学年の教科書を見直したいと思っています。さらに、課題に対して、子ども同士が話し合いながら解答をまとめられるようなワークシートの作成も検討したいと考えています。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、3年
教科	算数科



これまで困っていたこと

これまでは、お互いの学年（1年生は3年生、3年生は1年生）が学習していることが気になり、自分の学習すべきことに集中できていませんでした。また、課題が終わった後、何をすればよいのか分からず、何もしていない時間があり、計画通りに授業が進みませんでした。

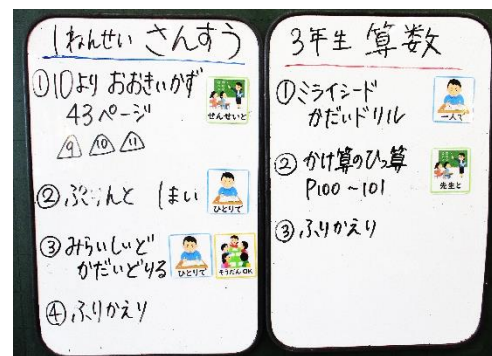
だからこんな工夫をしました！

【活動場所を分ける】



1年生と3年生の間に柵や黒板を設置し、活動場所を分けることで、自分の学習に集中できる環境にしました。視界を遮ることで、自分の学習に集中でき、教師がいない場面でも自分たちで学習を進めることができました。

【活動の視覚化】



1時間の流れと学習形態（一人で、先生と、相談OK）を授業の初めに全員で確認しました。1時間の見通しをもって学習に取り組むことで、「先生！先生！」と呼びに来ることなく、自分たちで学習を進めることができました。

児童生徒の様子

【活動場所を分ける】ことで、集中できる環境を作ることができました。何をしてもよいかわからず困っている時に、なかなか声を出せない子が、困ったままいることがありましたが、【活動の視覚化】に併せて取り組むことで何をすればよいかが明確になり、自分の学習に集中でき、自分たちで学習を進めることもできるようになってきました。

今後に向けて

1時間の流れを示し、それに沿って学習を進めていますが、個人差が大きく、「一人で」進めるプリントやドリル学習などでは、とても早く終わってしまう児童がいます。待つ時間は読書をするようにしていますが、それも間延びしてしまうため、個に合わせた課題に取り組めるような工夫をもっと取り入れたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年、4年、6年
教科	算数科

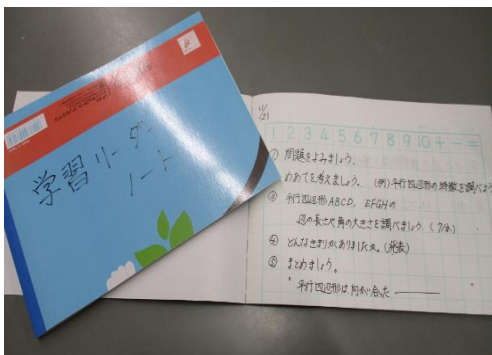


これまで困っていたこと

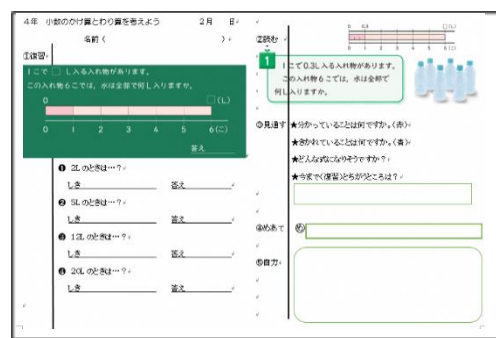
これまでは、不安を感じた発言力の強い子どもが「先生、先生」と教師を独占したが、学習課題が大きいにも関わらず助力を求めることが苦手な児童に関わる余裕を授業の時間内に確保することが難しかったです。

だからこんな工夫をしました！

【リーダーノート】



【ワークシートの工夫】



繰り返しの多い単元では、リーダーノートを作成し、学習リーダーを主に集団解決できるようにしました。話型を指定し、学習進行の速い児童に司会を任せることで、周囲の進度に目を向けさせるようにしました。

リーダーノートでの学習が難しいときは、学習の流れが分かるよう、1時間毎のワークシートを作成しました。話し合う箇所・個別に取り組む箇所及び本時の流れを、視覚的に分かり易くなるよう工夫しました。

児童生徒の様子

リーダーノートの使い始めは、先行したい気持ちが先走り学習リーダーだけが一人で進行してしまうということがあったが、繰り返すうちに周囲の進度に目を向けて、遅れている相手に声をかけたり、助言したりという協力的な姿が見られるようになりました。また、遅れている児童がいる時に「先生、行ってあげて。」と、譲る場面が見られただけでなく、ワークシートを進める際にも周囲を待ち、教え合いながら進行するなど、協働的に進める姿が見られ、プラスの変化が多く見られるようになりました。

今後に向けて

分野によっては同学年内での学力差が大きく、同じワークシート、同じ学習リーダーノートではカバーしきれない面があります。個々のニーズに応じるために、ワークシートの構成や、自力解決時の問題の難易度を個別に調整するなど、研究を進めていきたいです。

リーダーノート

- ① あいさつ
- ② ノート
これから、2時間目の算数の学習を始めます。(せいかい)
- ③
ノートを開いて、日付と今日のめあてを書き打たぬ。
- ④
めあてをよみましょう。せんぱい。
どうしたらくらべられそうですか。発表して下さい。
~~P.25ページを開きましょう。~~(もんだいをつける)
- ⑤
②の問題をよみましょう。
グラフは何から書きますか。7分
- ⑥
③の問題をよみましょう。答えは1に書きます。発表して下さい。
- ⑦
2つの折れ線グラフを見ると、ど入はことばがわかりません。
ノートに書きましょう。
- ⑧
発表しましょう。⑧ 締めを書きましょう。

- 社会
- ① あいさつ
 - ② 前回の続き
中部地方を調べましょう。(5分)
答え合わせをしましょう。
 - ③ 地図ワーク
(うら)
チャレンジ1をしましょう。発表しましょう。
チャレンジ2をしましょう。発表しましょう。
 - ④ 教科書
P.26-27
教科書26、27をよみましょう。
 - ⑤ 広島県の交通
同じように、広島県の
道路や鉄道、空港について
調べましょう。

① あいさつ 「これから、6時間目の国語の学習の始めます。」

② 漢字 「漢字ドリルを出しよ。今日は○と、○をします。5分下しよ。」

③ 教科書 P.38を開きよ。

④ 段落番号をつけよ。

⑤ 段ごとくに読み、全部で何だん落あるかたしかめよ。

⑥ ノートに感想をかきよ。

✓ ⑦ 発表しよ。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年、2年、3年
教科	国語科



これまで困っていたこと

3学年の学習をどう同時進行させていくのが難しかったです。また、集中力が続きにくいため、どのように持続させていくのが難しいです。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



新しく学習する場面（教える場面）と個人で取り組む場面を作り、それぞれ課題を用意し、教師が順番に指導をしていくように、学習過程のパターンを作りました。

【異年齢との関わり】



集中して学習する時間を全体で設定し、決めたことをもとに学習に取り組みせました。設定時間の後は、異年齢でゲーム性のある学習で既習事項の定着を図っています。

児童生徒の様子

時間を決めて学習を進めていくことで、時間内に集中して問題に取り組んでいく姿が多く見られた。後半の全体での活動を行ったことで、学習に集中する姿が増えた上に、4月に比べ、よりコミュニケーションが活発になっているように感じています。

今後に向けて

同じ教室内での活動のため、個々が課題に対して集中できるような環境づくりを継続していきたいです。全学年を通して学ばせたい課題（歴史的仮名遣いや漢文の読み方など）については、異年齢での教え合い・学びあいにつなげていきたいです。

課題として、ペア活動やグループワーク、発表の学習などが挙げられます。話す力・聞く力、表現する力の育成などは各学年のみの学習では難しいため、一層、異年齢での関わりを行い、お互いに高め合えるような関係性を作っていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年、3年
教科	国語科

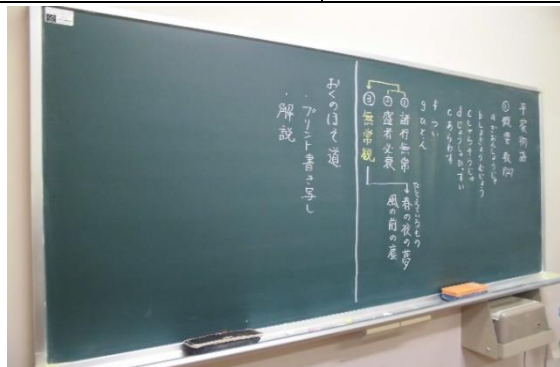
これまで困っていたこと

2年生、3年生に授業の内容を説明しているときに、一方の学年からいくつも質問を受けることがありました。また、それに1つ1つ答えることを繰り返しており、なかなか授業が進みませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】

【活動の視覚化】



時間を半分ずつに分け、前半は2年生の授業内容の解説時に3年生はプリントなどの問題を解くようにしました。後半はその逆をするなど、学習過程の境目をつけるようにしました。また、授業の始まりに、一時間の流れを板書や掲示をするなどして、授業の流れを視覚的にし、見通しをもって学習できるようにしました。

児童生徒の様子

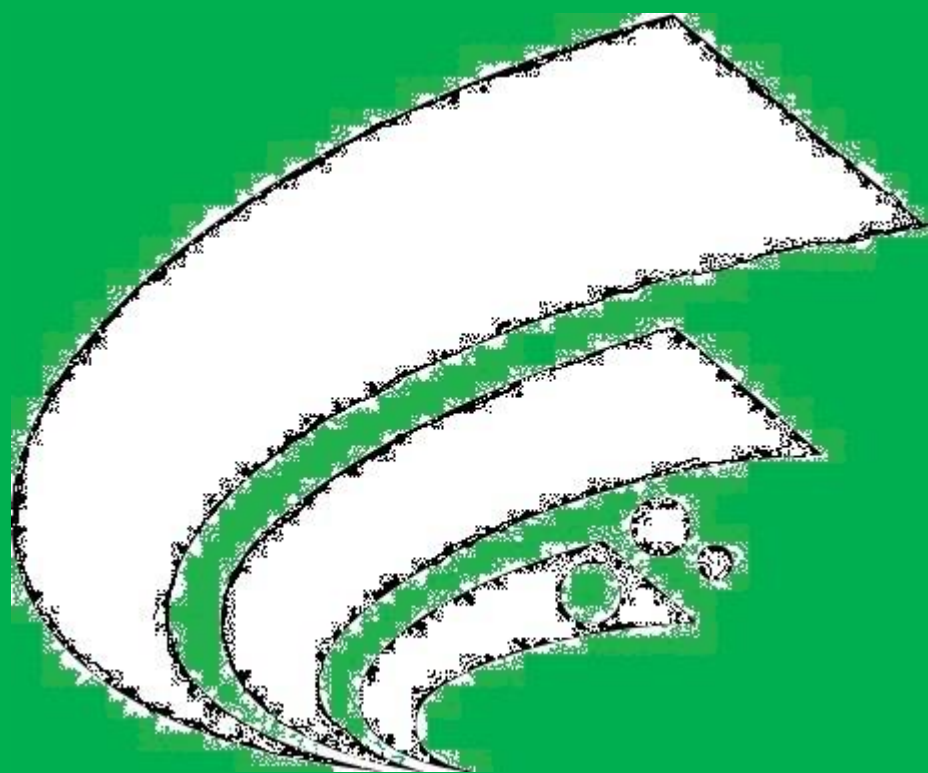
最初は、直接指導が十分できていなかったため、授業内容の理解ができず、その場で何回も質問していた生徒がいましたが、質問ができる時間があると分かると、分からない部分はそのタイミングで行い、学習を続けることができるようになりました。

また、どうしても気になることがある場合は、解説を待つだけでなく、生徒同士で教え合う場面が見られるようになりました。

今後に向けて

問題を解く上で、質問や疑問が浮かんだ場合、教員の解説を待つだけでなく、自分たちで解答を模索する場面が増えるとよいと考えています。そのために、自分たちで考える手段やヒントを用意しておき、生徒の学習状況に合う形で提示するなどして、自分たちで学習できるような架橋設定をしていきたいと思っています。

知的障害



これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年、3年、4年、5年、6年
教科	国語科

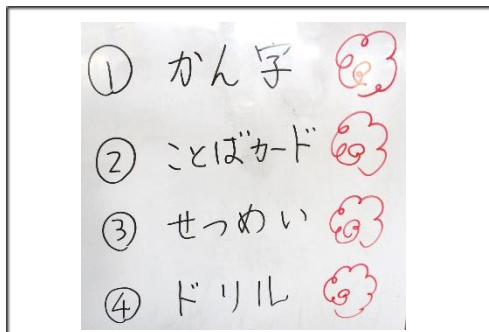


これまで困っていたこと

児童Aは、分からないことがあると「先生、先生」と呼び掛けてきます。他の児童を指導していてすぐに対応することができないとパニック状態になり、泣き叫んだり他の児童にちょっかいを出したりする為、落ち着いて授業をすることができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



学習の流れを示し、前半は、直接指導を受けられるようにし、学習に前向きに取り組めるようにしました。後半は、自分一人で取り組める内容の学習としました。後半、児童がドリルの問いに答えられないときには、文章を3回読んでからもう一度チャレンジすること、さらに、それでも分からない時には次の問題に取り組むことを確認しました。また、タイマーを活用し5分後に必ず先生が指導に行くことを約束して、5分間は自分一人で取り組むようにしました。

【支援員との連携】



児童Aへの指導は、担任のみが行い指導のブレがないように取り組みました。支援員は、児童から助言を求められても、担任へつなげたり、学習の約束を思い出させたりするように連携しました。

児童生徒の様子

初めは分からないとパニックになったり、はぶてたりする様子が見られましたが、文章を3回読むと問いに答えられるようになったり、分からない場合は次の問題へ取り組めるようになったり、5分間は我慢できるようになったりするなどの成功体験を積むことで、大きくパニックを起こさずに学習に取り組めるようになりました。指導の関わりを統一したことも効果的でした。

今後に向けて

助言や支援を怒られたと感じたり、周りの状況を正確に理解できなかつたり、些細なことも悲観的にとらえてパニックになったりする事があります。落ち着いた時に状況説明や捉え方の訂正を行ったり、パニックになる時のパターンに気付かせたり、パニックを回避する方法を共有したりすることを通して支援していきたいと思えます。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年、5年
教科	算数科



これまで困っていたこと

これまでは、物差しや巻き尺の目盛りを読んだり、長さを予想したりすることが苦手で、授業中に、質問することが多くありました。また、数の理解が難しいため、具体物で指導をしたかったのですが、時間の確保が難しいことがありました。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



量感をつかむ学習では、単元をそろえました。その際、授業の課題把握の場面では、体験的な活動を取り入れるようにしました。興味をもって学習をすることで、苦手意識のある学習にも前向きに取り組めるようになりました。

【学習のヒント】



1mの紙テープをもとに、量感をつかませた結果、両手を広げるなどの工夫をしていました。ICTを活用して授業を行い、一人一人の苦手な点を抑えた教材を作成しました。5年生からヒントをもらって考えなど異年齢交流も見られました。

児童生徒の様子

単元設定を工夫し、二人で活動するようにしたことなどで意欲が高まり、次々に予想して実測することができました。長さを学習する際、間違ったときには、教え合ったり、ICTを活用したりしながら問題に取り組むことができました。

協働的に学んだ結果、担任が褒めるより先に、5年生児童に褒められる場面もあり、お互いに充実感をもって学習を振り返ることができました。

わたりの工夫をしたことで、協力し合い、教え合い、課題に気づいて学び合い、子供達が主体的に学習を進めていく様子が見られる授業が展開できるようになりました。

今後に向けて

ICTを活用すると目に映る情報量が限られるため集中して考えることができ、視覚支援になることが1学期の授業で実感できました。児童もICTを使った授業は楽しいと答えているので、ICTを活用して課題を見つけたり、既習をどう活用するか考えたりして、より学びを深める工夫に取り組んでいきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年、2年
教科	算数科



これまで困っていたこと

1、2、5、6年生の複数学年で教育課程が異なるので、個別学習が多くなり、協働的な学習をすることに難しさを感じていました。また、1時間の授業をわたりの展開の仕方に課題を感じていました。

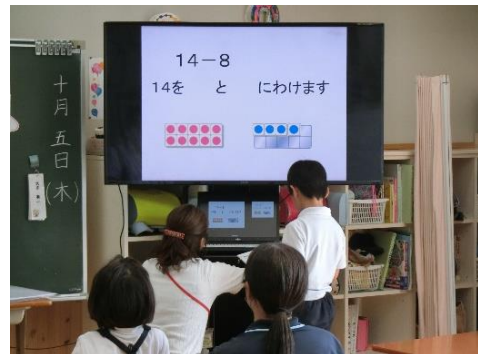
だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



学習過程をパターン化することで、児童が自主的に動き学習するようになりました。同じ復習を毎時間入れることで、自分で教具を取りに行き、学習する姿が見られました。また、学習活動カードと学習形態を絵で表したカードを示すことで、何を誰と一緒に学習するのか一目で分かり、落ち着いて学習することができました。

【異年齢との関わり】



生活単元の「秋見つけ」と関連させて、おもちゃを作るために必要な「どんぐり」をたし算、ひき算を使って考えようとする中で、異なる学年の児童が同じ導入で学習できました。また、振り返りでは、本時の学習をお互いに見合い、振り返りを聞き合うことで、互いの頑張りを認め合い協働的で共感的な人間関係作りにつながりました。

児童生徒の様子

授業のはじめに、何を誰とするのか分からず、戸惑っている児童がいましたが、パターン化することで、授業の見通しが立ち、安心して授業に取り組めるようになりました。また、個々の課題に取り組んでいても、導入や振り返りの仕方を工夫することで協働的な活動を仕組み、互いの頑張りを認められる集団になりました。

今後に向けて

高学年は、学習リーダーをつくり、話型を用いながら学習を進められるような集団に育てていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年、4年
教科	算数科



これまで困っていたこと

授業を進めていく中で、「先生、先生」と声をかけてきたり、活動を終えた児童の学習や思考が止まってしまったりして、上手くわたりを行うことができませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【活動の視覚化】



【異年齢との関わり】



活動を「一人でする」「先生とする」「一人だけど質問OK」の三種類に分けることで、「今、何の活動をしているのか」を児童が理解して取り組むことができるようになりました。

同じ課題に二人で挑戦させることで、相手に自分の考えを伝える力を高めることができるのと同時に、授業への集中力を切らさずに取り組む姿が見られました。

児童生徒の様子

活動を視覚化したことで、一人で勉強することで、自分の力を高めることができるんだと気づいた様子が見られました。そのような気持ちで授業に取り組むと、一人で集中して課題に取り組む姿が見られるようになりました。単元に応じて、個人学習やペア学習など様々な学習形態を取り入れることで、より長い時間、授業に集中して取り組めるようになりました。

今後に向けて

引き続き、児童が自ら学びに向かえるような授業づくりを行っていきたいと感じました。そのためには、児童の実態に合わせた教具の準備を今まで以上に行うとともに、児童が集中しやすくなる教室環境づくりを進めていきたいです。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3、4、5、6年生
教科	算数科

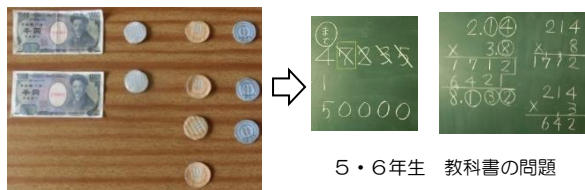


これまで困っていたこと

本学級には、3年生2名、4年生1名、5年生1名、6年生1名、計5名が在籍しています。それぞれの実態に応じて学習内容は異なるため、同時進行でそれぞれの学習を進めながら、教師が児童間をわたって円滑に学習指導することは難しいです。また、児童が45分間、集中力を持続させて学習することも難しいです。

だからこんな工夫をしました！

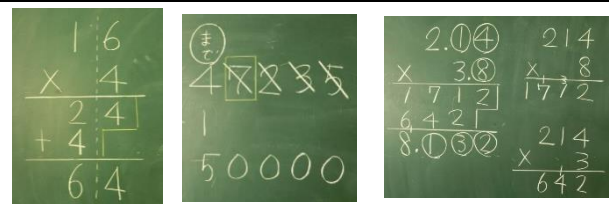
【学習過程のパターン化】



3・4年生「大きな数」

5・6年生 教科書の問題

【学習のヒント】



4年生

5年生

6年生

学習のパターン化の利点として、3・4年生は、毎時間操作活動を繰り返すことで学習内容の定着を図ることができました。学習がいつも同じ流れだと、いつ質問ができるか見通せるので、安心して学習を進めることにつながりました。

学習のヒントとして、これまで学習してきた教科の考え方を、視覚的に示しておくことで、ヒントを頼りにしながら、自分で問題を解く姿が見られるようになりました。他の学年も見ることができるようになったため、上位学年の学習に関心をもつようになりました。

児童生徒の様子

学習過程のパターン化をすると、毎時間同じ内容を扱うようになるため、学習が定着するとともに、子供が学習の流れをつかむことができるようになりました。できることが増えると、「先生、問題出して」と意欲的に学習に取り組めるようになるなど、主体的な姿も増えました。

「学習のヒント」では、ヒントを見ればできるように工夫していたため、自力で練習問題を解くことができる場面が増えました。

今後に向けて

学習過程のパターン化は、今後、他の教科の学習パターンも作り、繰り返すことで、いろいろな内容の定着を図りたいと考えています。

学習のヒントでは、今後、それぞれの学年の単元で必要な事柄を掲示物として示しながら、児童が自力で学習を進める場面を増やしていきたいと考えています。

これがわたしの「わたり」ポイント！

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1年、2年、3年
教科	英語科

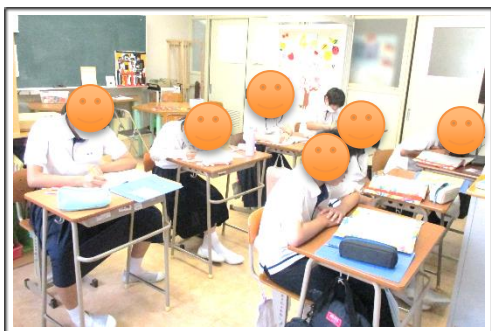


これまで困っていたこと

生徒7人の特性や学力差、英語の興味関心などが異なる中で、学年ごとではなく、全学年一斉に行う授業を展開するため、一人一人に応じた手立てに適切な指導を行うことが十分にできていませんでした。

だからこんな工夫をしました！

【学習過程のパターン化】



一斉でのウォーミングアップの後は、毎回教科書の内容を個別学習します。指導者による個別の指導は「先輩ファースト」というルールを設定し、1年生は その間も自分で選んだ活動や練習をすることができます。共通理解をしたことで安心して学習が進められるようになりました。

【活動場所を分ける】



教科書の学習に必要な場所や道具は、内容に応じて自分で選択するようにしました。教科書での学習の後には、Chromebookとイヤホンを使った「スタディギア」をすることもあります。主体的に学習に取り組む姿が見られるようになり、英検への関心をもった生徒もいます。

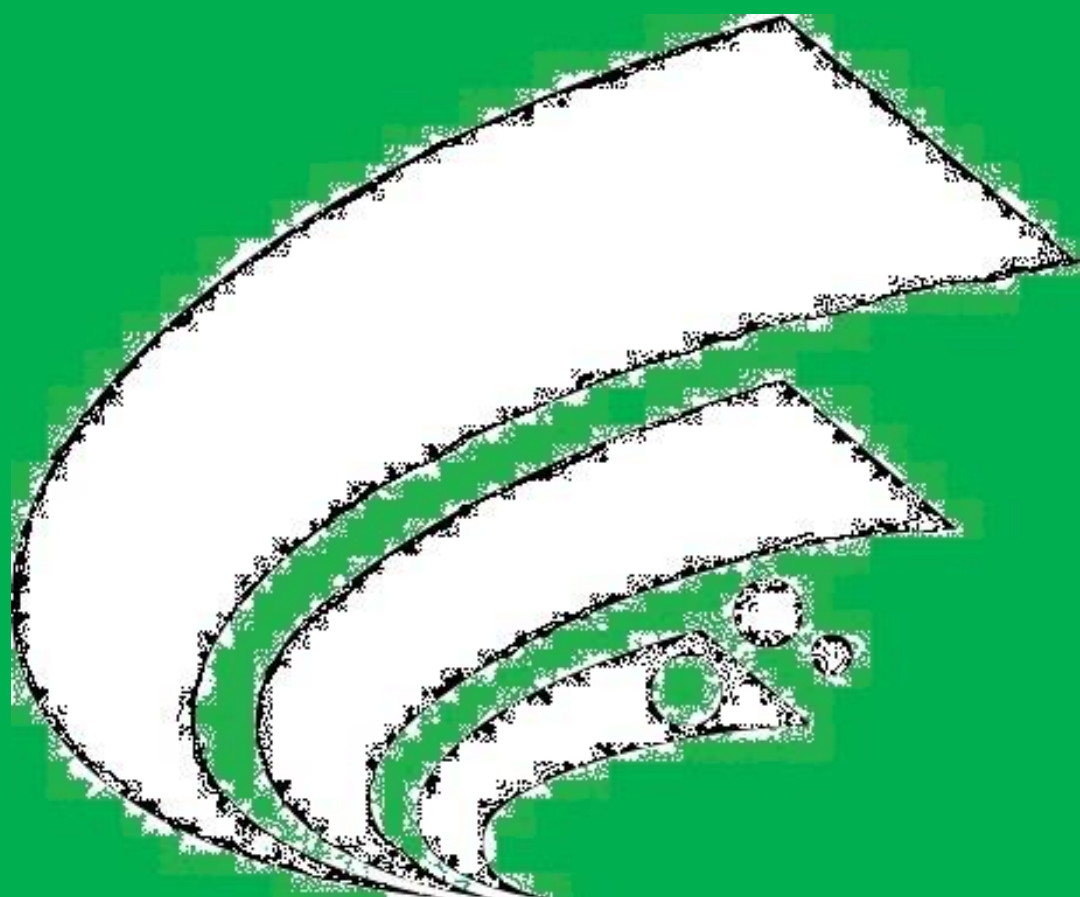
生徒の様子

繰り返し行うことで、どの生徒も授業の流れに慣れていきました。2・3年生から1年生へのわたりもスムーズにでき、生徒同士助け合う場面も見られるようになりました。活動の選択肢はいくつかあり、7人それぞれがその日の自分の調子も含めて決めるようにしているため、安心して学習することができます。7人それぞれは違っていても、互いに励まし合って活動することができる生徒たちなので、先輩後輩の関係も良好です。その雰囲気認めながら指導を行うことでスムーズにわたりが展開できるようになっています。

今後に向けて

生徒の選択と自己決定を大切にしながらも、授業のねらいの達成に向け、それぞれの生徒が自分にとって、取り組みやすいものからスモールステップで学習活動が選択できるようにしていきたいです。そのために、活動の見通しなどをより具体的にし、書くこと（単語の練習）、話すこと（フレーズ・会話の練習）の選択肢をわかりやすく示していきたいです。

學習指導案集



第1学年 まとめてよぶことば 第4学年 つなぐ言葉の働き

日時：

学年・学級：

自閉症・情緒障害特別支援学級

第1学年（5名） 第4学年（2名）

計7名

育成をめざす資質・能力：主体性 協働性 探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能 指導者：

1 児童の実態

	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと
1年 A児	割愛		
1年 B児			
1年 C児			
1年 D児			
1年 E児			
4年 F児			
4年 G児			

2 単元について

（第1学年）本単元は、学習指導要領「知識及び技能」の（1）オ「身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること」から、言葉は一つ一つの別々に存在するのではなく、意味のうえで関係を持っていくつかのグループにまとめられること、そのグループを表す言葉があること、そして、それらのグループをさらに大きくまとめる言葉があることを捉えさせ、言葉に対する理解や認識をいっそう深めることをねらいとしている。

（第4学年）本単元は、学習指導要領「知識及び技能」の（1）「主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること」から、接続する語句の役割を理解し、文章の読解や書く活動に生かせるようになることをねらいとしている。

3 指導にあたって

(第1学年) 本単元では、まず「まとめてよぶことば」という単元名に着目させ、「まとめる」という言葉の意味をつかませるために、「ブロックを色ごとにまとめる」のように目に見える物をまとめる例を取り上げて動作化したり、「一緒にする」のような語に置き換えたりしていく。また、単元を通して、「言葉集めをする→集めた言葉を仲間分けする→まとめて呼ぶ言葉を考える」という活動を繰り返すことで、言葉の上位語・下位語の関係を感覚的に理解できるようにする。

(第4学年) 本単元では、さまざまな働きをする接続する語句の中から、前の内容から予想される内容を導く「順接」、前の内容に反する内容を導く「逆接」、前の事柄に後の事柄を付け加えたり、前後の事柄を並べたりする「累加・並列」の三つを主に扱う。その際に、順接は前の内容から予想される内容を導くことから「予想通り」、逆接は前の内容に付け加える内容を導くことから「予想はずれ」等、それぞれの働きを児童に分かりやすい言葉に置き換えながら学習することで、接続する語句には様々な働きをする言葉があることを理解させていく。

4 単元の目標

(第1学年)

- 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。(知識及び技能)
- 語と語との続き方を確かめながら短い文章を書くことができる。(思考力・判断力・表現力)
- 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いて語彙を豊かにし、粘り強く上位語と下位語を使って文を作ろうとする。(学びに向かう力、人間性等)

(第4学年)

- 接続する語句の役割について理解することができる。(知識及び技能)
- 集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思考力・判断力・表現力)
- 接続する語句について、積極的に理解し使おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

5 「見方・考え方」を働かせ、深く学び合う指導の手立て

(1) 国語科の学習における「言葉による見方・考え方」を働かせる手立て

1年生は、全員がことば集めができるように個に応じて絵カードを使用する。

4年生は、学習した内容をカードにまとめておき、問題に応じて自分で選んで使えるようにしておく。接続する語句を役割別で表にしたカード等の、既習事項をまとめたヒントカードを使いながら学習することで、個の実態に応じて、つなぐ言葉それぞれの働きの違いに気付いたり、なぜそれを選んだのか根拠を示しながら説明させたりしていく。

(2) 導入・展開において全員を思考の世界に導く工夫

1年生は、導入においては、朝ご飯や夜ご飯に食べた物の話題から、身近な食べ物についてイメージしやすくする。展開においては、言葉集めの際に絵カードやひらがな表、カタカナ表を用意し、イメージすることや書くことが難しい児童も言葉集めに参加できるようにしていく。

4年生は、既習事項をまとめたヒントカードを用意し、必要なものを自分で選んだり、選択肢を用意して解答を選んだりできるようにすることで、語彙が少ない児童も参加できるようにしていく。

(3) 学習ツールの活用

○ICT機器

・自己解決の時に思考する場面…ジャムボード (1・4年生)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(1年)</p> <p>○ 身近なことを表す語句の量を増やすとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。</p> <p>(4年)</p> <p>○ 接続する語句の役割について理解している。</p>	<p>(1年)</p> <p>○ 「書くこと」において語と語との続き方に注意している。</p> <p>(4年)</p> <p>○ 集めた材料を比較したり分類したりして、伝えあうために必要な事柄を選んでいる。</p>	<p>(1年)</p> <p>○ これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、上位語と下位語を使って文を作ろうとしている。</p> <p>(4年)</p> <p>○ 接続する語句を積極的に使おうとしている。</p>

7 指導計画

(第1学年) (全4時間 本時3/4)

時	主な学習内容	本校で育成をめざす 資質・能力
第一次	1	<p>・言葉には、まとめて呼ぶ言葉となかまになる言葉があることを知る。</p> <p>主体性 知識・技能</p>
第二次	2	<p>・「のりもの」に関する言葉を集め、まとめて呼ぶ言葉となかまになる言葉に分ける。</p> <p>探究力 論理的思考力・表現力</p>
	3 (本時)	<p>・「たべもの」に関する言葉を集め、まとめて呼ぶ言葉となかまになる言葉に分け、それぞれのまとまりを表す言葉を考える。</p> <p>協働性 論理的思考力・表現力</p>
第三次	4	<p>・まとめて呼ぶ言葉やなかまになる言葉を使って短い文章を考える。</p> <p>主体性 論理的思考力・表現力</p>

(第4学年) (全3時間 本時3/3)

時	主な学習内容	本校で育成をめざす 資質・能力
第一次	1	<p>・文と文をつなぐ言葉について知り、つなぐ言葉の働きについて考える。</p> <p>論理的思考力・表現力</p>
第二次	2	<p>・二つの文を一つの文につなぐ言葉について考える。</p> <p>探究力 論理的思考力・表現力</p>
第三次	3 (本時)	<p>・今までに学習したことを振り返りながら、練習問題に取り組んだり、接続する語句まで書かれた文章の後ろの文章を考えたりする活動を通して、つなぐ言葉の働きにつ</p> <p>協働性 知識・技能</p>

		いて理解する。	
--	--	---------	--

8 本時の学習

(1) 本時の目標

- まとめて呼ぶ言葉や仲間になる言葉を集め、分類することができる。(第1学年)
- 接続する語句の役割を理解し、これまでの学習や経験を生かして、接続する語句を使い分けることができる。(第4学年)

(2) 本時の評価規準(知識・技能)

- 身近なことを表す語句の量を増やすとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、仲間分けをしている。(第1学年)
- 接続する語句の役割について理解し、文がつながるように接続する語句を選んだり、前半の内容に合う文を書いたりしている。(第4学年)

(3) 本時の指導にあたって

【導入(問いの設定)】

1年生は、前時に取り組んだ「のりもの」の仲間分けを想起させながら、挿絵を見せたり自分の生活経験を振り返らせたりしながら食べ物に関する言葉を集めていく。そこで、食べ物に関する言葉の仲間分けをしようとして意欲付けを行う。

4年生は、前時まで学習した接続する語句のもつ意味を振り返りながら、二つの文を一つにつなぐためにはどのような接続する語句がふさわしいのか、また、前半の内容に合った続きの文はどのように考えたらいいか課題意識をもたせていく。

【展開】

1年生は、まず自分のジャムボードに食べ物に関する言葉集めをしていく。言葉集めが難しい児童に対しては、個に合わせて挿絵のみのカードや、挿絵に文字の入ったカードを用意し、視覚情報をもとに書かせていく。そこから、集めた言葉を交流していき、模造紙を使って全員で「まとめて呼ぶ言葉」を考えながらそれぞれのグループに仲間分けを行う。

4年生は、まず、二つの文を提示し、それを一つの文につなげるための接続する語句を考えたり選んだりしていく。その文の後半部分が、前時まで学習した「予想と同じ文」「予想と異なる文」「情報を付け加えている文」のどれに該当するかを考えながら、ふさわしい接続する語句を考えていく。その際、ジャムボードを使い、個人で文を読みながら、前後の文のつながりに着目して接続する語句を選んだり、別の接続する語句に言い換えたりすることができないかを考えさせていく。その後、全体で考えを交流する。最後に、前半の文と接続する語句までが書かれている文を提示し、意味がつながる文にするためには、接続する語句以降の文をどのような表現にすればよいかを全体で考えていく。

【まとめ】

1年生は、学習を振り返らせ、言葉は仲間分けするとまとめてよぶことができるということをまとめる。

4年生は、学習を振り返らせ、つなぐ言葉を使う時には、文の前後のつながりに気を付けることをまとめる。

(4) 個人の目標

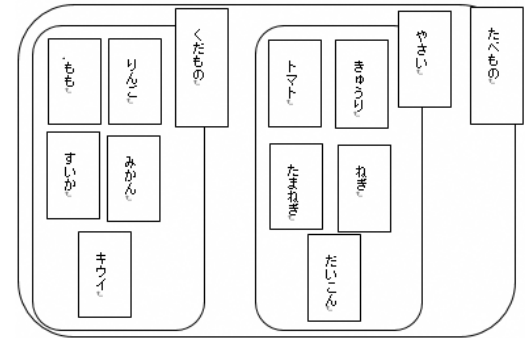
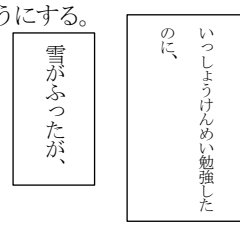
1年 A児	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて学習に参加し、「まとめて呼ぶ言葉」や「仲間になる言葉」を集めることができる。 ・集めた言葉を仲間分けすることを通して、仲間分けした言葉と「まとめて呼ぶ言葉」の関係性について理解することができる。
1年 B児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見ながら、言葉集めをすることができる。 ・ひらがなやカタカナの形を正しくとらえながら、集めた言葉を書き表すことができる。
1年 C児	<ul style="list-style-type: none"> ・「仲間になる言葉」を集めることができる。 ・集めた言葉を仲間分けすることができる。
1年 D児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見ながら、言葉集めをすることができる。 ・ひらがなやカタカナを見分けながら、集めた言葉を書き表そうとすることができる。

1年 E児	・絵カードを見ながら、「まとめて呼ぶ言葉」を集めることができる。 ・集めた言葉を仲間分けすることを通して、仲間分けした言葉と「まとめて呼ぶ言葉」の関係性について理解することができる。
4年 F児	・今までの生活経験をもとにして、二つの文がつながるように適切な接続する語句を選ぶことができる。
4年 G児	・前後の文や接続する語句の役割に着目しながら、適切な接続する語句を考えたり、接続詞に合わせて文を考えたりすることができる。

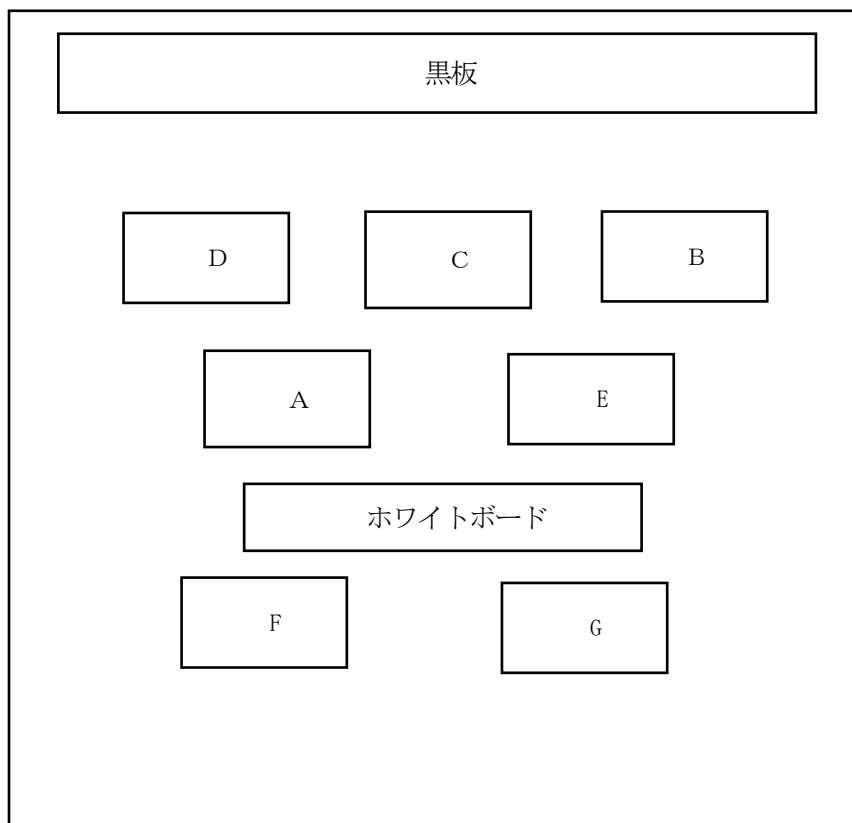
(5) 本時の展開

過程	学習活動及び個への指導・支援 (○)							☆評価 (評価方法) ★本校で育成を図る資質・能力の評価 (評価方法)
	児 童							
	1年 A児	1年 B児	1年 C児	1年 D児	1年 E児	4年 F児	4年 G児	
	1 学習の流れを確認する。 ○ どのような流れで学習を進めていくか、本時の授業で取り組むことを全体で確認する。 ○ 学習のルールやグループワークの際のルールを確認する。繰り返し確認できるように掲示しておく。 ○ 学年ごとにスケジュールを提示し、見通しをもって授業に取り組めるようにする。							
導入	2 ジャムボードで練習問題に取り組む。 【ICTの活用】 ジャムボード ○ 前時に行ったのりものをまとめて呼ぶ言葉でまとめる問題に取り組みせ、既習事項を想起しやすくする。 ○ タイマーを設定しておき、タイマーが鳴ったら途中でも次の活動に移ることを予め説明しておくことで、切り替えが難しい児童に見通しをもたせる。 3 学習の見通しをもち、問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">たべものにはどんなことばがあるかな。</div> ○ 自分の生活経験や身の回りを振り返らせ、食べ物に関する言葉を連想させる。 4 本時の課題を設定する。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">たべものことばをあつめて、なかまにわけよう。</div>				2 学習の見通しをもち、問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">つなぐ言葉を使った文章を作れるかな。</div> 3 本時の課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">つなぐ言葉を使うときのコツをつかもう。</div>			

展開①	<p>5 食べ物に関する言葉を集める。</p> <p>○ 個人で操作活動できるようにする。(ワークシート)</p> <p>【自分の考えをもつためのファシリテート】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 言葉集めが難しい児童には食べ物の絵カードを、言葉集めと書くことが難しい児童には言葉入りの絵カードをわたす。</p> <p>○ 言葉集めが難しい児童には、絵カードを提示し、絵カードの中から選びながら言葉集めができるようにする。</p> <p>○ 個の実態に応じて、絵のみの絵カード、カタカナ・ひらがな付きの絵カード、ひらがなのみの絵カードを用意する。</p>					<p>4 二つの文を一つにするための接続する語句を考える。【ICTの活用】スライド</p> <p>○ 個人で操作活動できるようにする。(スライド)</p> <p>○ 接続する語句の役割に着目しながら、前時までに学習してきた接続する語句に言い換える接続する語句を考えさせる。</p> <p>○ 前時までの学習を振り返りながら取り組めるように、既習事項をカードにまとめておき、各自で必要なものを選びながら取り組めるようにする。</p> <p>【自分の考えをもつためのファシリテート】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 自力解決が難しい児童には、スライドに選択肢を用意しておく。</p> <p>○ 個人で考えた後に全体で交流する。</p>		<p>4年：☆ 接続する語句の役割について理解し、文がつながるように接続する語句を選んだり、書いたりしている。(ワークシート)</p>
	<p>○ 自分の生活を振り返らせながら、言葉を集めさせる。</p> <p>○ できたことを肯定的に評価し、意欲につなげる。</p>	<p>○ 自分の生活を振り返ったり、絵カードを見たりしながら言葉を集めさせる。</p> <p>○ 文字が分からない時には、ひらがな・カタカナ表を見せながら書かせる。</p>	<p>○ 自分の生活を振り返らせながら、言葉を集めさせる。言葉が思い浮かばない場合は、絵カードを提示する。</p> <p>○ 本人の状態によって、書く分量を減らす。</p> <p>○ できたことを肯定的に評価し、意欲につなげる。</p>	<p>○ 文字付きの絵カードを見ながら言葉集めをし、集めた言葉を発音させる。</p> <p>○ ひらがな・カタカナ表を見ながら集めた言葉を書いていく。</p> <p>○ 本人の状態によっては代筆する。</p>	<p>○ 自分の生活を振り返らせながら、言葉を集めさせる。言葉が思い浮かばない場合は、絵カードを提示する。</p> <p>○ 本人の状態を見ながらゆくりと取り組む。</p>	<p>○ すべての漢字にふりがなをふり、自分で読めるようにする。自力で読めない場合は、前後の文と一緒に読む。</p> <p>○ 前後の文の意味を一緒に考え、接続する語句の選択肢の中から適切なものを選ばせたり一緒に選んだりする。</p> <p>○ できたことを肯定的に評価し、意欲につなげる。</p>	<p>○ 前時までの学習をまとめたカードを見ながら、文の前後を確認し、適切な接続する語句を選んだり書いたりする。</p> <p>○ 接続する語句が思い浮かばない時には、今までに学習した説明文を振り返るように声掛けを行う。</p>	<p>4年：★ 自分なりの理由をもって接続する語句を選んでいる。(行動観察)</p> <p>(論理的思考力・表現力)</p>

展開②	<p>6 集めた言葉を持ち寄り、全体で模造紙にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉を仲間分けした後、「まとめてよぶ言葉」でさらに大きな仲間に分けさせる。 ○ 一番最初に確認したグループワークの時のルールをもう一度確認する。 ○ グループでの活動が難しい児童は、個別でできるように別の紙を用意しておき、落ち着いて取り組めるようにする。 	<p>5 接続する語句までが書かれた文を見て、意味が通じるように続きの文を選択肢の中から選んだり、考えたりする。 【ICTの活用】(スライド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スライドに前半部分が書かれた文を提示し、意味が通るように後ろの文を考えさせる。 ○ 後ろの文を自力で考えることが難しい児童には、選択肢を提示し選べるようにする。 ○ 考えたり選んだりした理由を、既習事項のカードなどを使いながら説明できるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ○ 早く終わった児童には児童の実態に合わせて問題づくりができるようにする。 	<p>1年：☆身近なことを表す語句の量を増やすとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、仲間分けしている。 (ワークシート、行動観察)</p> <p>1年：★相手の意見に耳を傾けながら落ち着いて活動している。 (行動観察(協働性))</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間に分けながら整理するように声をかける。 ○ 集団での活動が難しい場合には、一人で取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自力での仲間分けが難しい場合には一緒に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自力での仲間分けが難しい場合には、生活経験を基にして考えることを伝え、場合によっては一緒に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間に分ける時に、「いちごやメロンは果物ではなく野菜」等の厳密な分類にとらわれ過ぎないように、生活経験を基にして考えることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体のスピードについていけない場合は、個別で仲間分けする時間を設定してから全体で活動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「予想と同じ文」「予想と異なる文」「情報を付け加えている文」のどれになるのかを一緒に考えながら、場面が想像できるように声掛けを行っていく。
まとめ・振り返り	<p>7 授業をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ことばをなにかまわけするとまとめてよぶことができる。</p> </div>		<p>6 授業をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>つながり言葉を使う時のコツは、前後の文の内容に気を付ける。</p> </div>			
	<p>8 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫したことや難しかったこと、分かったことなどを発表する。 ○ 本時の学習内容や活動を価値付け、肯定的に評価することで、次時への意欲付けを行う。 					

(6) 配置図



算数科学習指導案（略案）

- 1 日 時 令和5年6月5日（月）5校時
- 2 学 級 自閉症・情緒障害特別支援学級
第2学年男子1名，第3学年男子1名，第6学年男子2名・女子1名 計5名
- 3 本時の教材 長さをはかってあらわそう（2年）長いながさをはかって表そう（3年）
分数のかけ算を考えよう（6年）【東京書籍】
- 4 児童の実態

A (2年)	割愛
B (3年)	
C (6年)	
D (6年)	
E (6年)	

5 指導の手立て

本単元の指導に当たっては，児童のつまずきや異年齢集団における学びの特性を考慮し，学び合いや深い学びにつながるように，次の3点に取り組む。

①単元構成，授業構成の工夫

- ・1学年1人である学年である2年生と3年生が，異学年で関わり合いながら学習を進めることができるように，2，3年の単元を同じ領域でそろえ，また本時の学習内容を同じ長さの測定活動でそろえたカリキュラムを仕組む。
- ・3名いる6年生同士が学び合えるように，交流を行う時間や活動場面を設定する。
- ・直接指導を効果的に行えるように，授業計画の中に，「わたり」「ずらし」を計画的・意図的に設ける。

②学び方への支援

- ・見通しをもって学習を進めていくことができるよう，毎時間の学習過程をパターン化するとともに，学習過程（スケジュール）を小黒板等で具体的・端的に示す。

③視覚支援を積極的に用いた指導の工夫

- ・前時までの学習と今の学習を比べたり，学んだことを生かしたりできるように，学習したことを振り返る掲示を用意したり，学習のポイントに適宜振り返ったりする。
- ・見通しをもって学習したり，主体的に学習したりできるように，何をどれくらいすればよいかがつかみやすいワークシートを用意する。
- ・視覚的に学習のポイントをつかませるため，ICT機器や視聴覚教材の活用を積極的に行う。

6 本時について

(1) 本時の目標

- 本単元までに学習したことを生活場面に活用し，長さに対する理解を深めるとともに，測定の仕方に習熟することができる。（2学年）

- 長いものやまるいものの長さを測定するには巻き尺が適していることや、巻き尺の使い方を理解し測定することができる。(3学年)
- 逆数の意味とその求め方を理解し、逆数を求めることができる。(6学年)

個人 の 目 標	
A (2年)	・本単元までに身につけた力を生かし、いろいろな身の回りの物の長さの検討をつけながら、長さを実際に測ることができる。
B (3年)	・いろいろな身の回りの物の長さを測るために、適切な計器を選択し、適切に使いながら測定をすることができる。
C (6年)	・逆数の意味とその求め方を理解するとともに、整数や小数の逆数を見つける方法について説明することができる。
D (6年)	・積が1になる数の組み合わせから逆数について理解するとともに、逆数の見つけ方を考えながら逆数を求めることができる。
E (6年)	・逆数の意味を理解するとともに、逆数の求め方を見つけることができる。 ・見つけた逆数の求め方を、算数の用語を使いながら伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

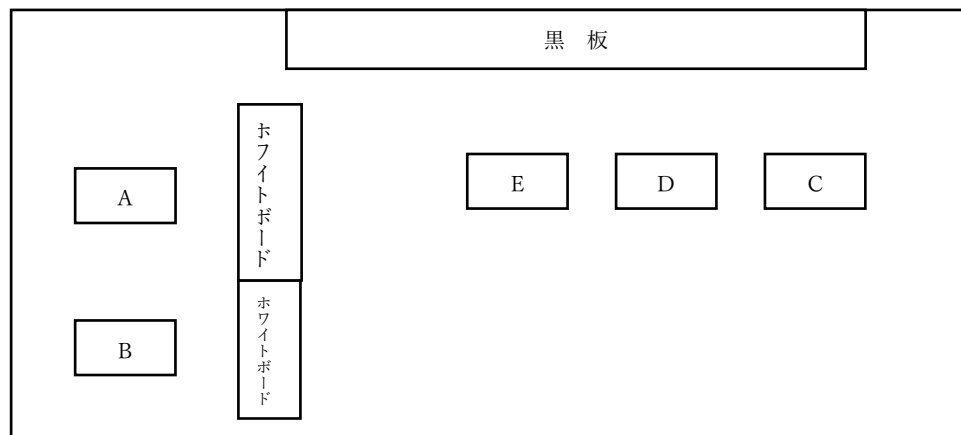
- 本単元までに学習したことを生活場面に活用し、長さに対する理解を深めるとともに、測定の仕方に習熟している。(2学年)
- 長いものやまるいものの長さを測定するには巻き尺が適していることや、巻き尺の使い方を理解し測定している。(3学年)
- 逆数の意味とその求め方を理解し、逆数を求めている。(6学年)

(3) 本時の展開

過程	学習活動及び個への指導・支援 (○)					☆評価
	A (2年男児)	B (3年男児)	C (6年男児)	D (6年女児)	E (6年男児)	
導入	<p>1 学習の流れを確認し、学習の流れの見通しをもつ。 ○学年ごとに小黒板で視覚的に示したスケジュールを確認させ、学習の流れに見通しがもてるようにする。 ○大事なことを確認する。(2年と3年, 6年同士教え合いOK, 声の大きさは1, 課題ボックスの活用方法の確認)</p> <p>2 練習問題を解く。 ・クロームブックやプリントで、物差しを目盛りを読む問題を解き、測定の仕方に習熟する。 ○物差しの目盛りの正しい読み取り方や当て方(端そろえ, まっすぐに当てる)を確認させる。 ○mm単位まで測定させる。</p> <p>3 本時の問題を確認する。 ・身のまわりのいろいろなものの長さをはかることを伝える。</p> <p>4 課題を設定する。 長さを予想しながら、まわりのいろいろな物の長さをはかろう。 ・測定活動の仕方やポイントを確認する。 ○予想をしてから測定をすることをワークシートで確認する。 ○2・3年生で相談してもよいこと、その際に気を付けること、測定方法のポイントをワークシートや板書で視覚的に伝える。 ○ワークシートに、活動の場所や測定する個数を具体的に示し、何をすればよいか見通しをもちやすくする。</p>					
	<p>2 練習問題を解く。 ・クロームブックやプリントで、巻尺の目盛りの読み方や巻尺の測定の仕方に習熟する。</p> <p>3 本時の問題を確認する。 ・頭や二の腕の周囲の長さなど、物差しでは測れない長さの測り方について問いかける。</p> <p>4 課題を設定する。 まきじゃくでどんなものがはかれるか考えよう。また、その長さをはかろう。 ・巻き尺を使ってはかるとよいものを考え、列挙する。 ○巻尺が計器として有用な事例をいくつか用意しておき、児童の状況に応じていくつかを示す。</p>	<p>2 本時の問題を確認する。 ・積が1になる2つの数の組み合わせを□の中から見つけて式に表す。 ○$\frac{3}{4} \times \frac{4}{3}$が約分をすれば、1になることを押さえる。 $\frac{5}{6} \times \frac{6}{5} = 1$ $\frac{2}{9} \times \frac{9}{2} = 1$ $\frac{7}{8} \times \frac{8}{7} = 1$ $\frac{1}{4} \times 4 = 1$</p> <p>3 課題を設定する。 積が1になるかけ算の、かけられる数とかける数を比べて、共通しているところを見つけよう。 ・○すべての式で言える共通点(きまり)を見つけることを押さえる。</p> <p>4 自力解決をする。 ・気付いたことをノートとボードに書かせる。</p>	<p>2 本時の問題を確認する。 ・積が1になる2つの数の組み合わせを□の中から見つけて式に表す。 ○$\frac{3}{4} \times \frac{4}{3}$が約分をすれば、1になることを押さえる。 $\frac{5}{6} \times \frac{6}{5} = 1$ $\frac{2}{9} \times \frac{9}{2} = 1$ $\frac{7}{8} \times \frac{8}{7} = 1$ $\frac{1}{4} \times 4 = 1$</p> <p>3 課題を設定する。 積が1になるかけ算の、かけられる数とかける数を比べて、共通しているところを見つけよう。 ・○すべての式で言える共通点(きまり)を見つけることを押さえる。</p> <p>4 自力解決をする。 ・気付いたことをノートとボードに書かせる。</p>	<p>2 本時の問題を確認する。 ・積が1になる2つの数の組み合わせを□の中から見つけて式に表す。 ○$\frac{3}{4} \times \frac{4}{3}$が約分をすれば、1になることを押さえる。 $\frac{5}{6} \times \frac{6}{5} = 1$ $\frac{2}{9} \times \frac{9}{2} = 1$ $\frac{7}{8} \times \frac{8}{7} = 1$ $\frac{1}{4} \times 4 = 1$</p> <p>3 課題を設定する。 積が1になるかけ算の、かけられる数とかける数を比べて、共通しているところを見つけよう。 ・○すべての式で言える共通点(きまり)を見つけることを押さえる。</p> <p>4 自力解決をする。 ・気付いたことをノートとボードに書かせる。</p>		

<p>展開</p>	<p>5 長さの測定活動をする。 ○測定した物をかごに入れさせたり、測った箇所に付箋をつけさせたりして、後で確認や発表ができるようにする。 ○測定した物の長さを教師も測り、数値をシートに記録したものを示して、比べさせる。 ○早く測り終えた場合には、課題ボックスに入れた次のワークシートをとらせる。その際、30cm以上のものの長さにも挑戦をさせ、3年生への援助要請を促し、協働して解決に向かう場面を設定する。 ○課題とは違うことに気が向いていたり、集中しにくかったりする場合は、やることを声かけたり指し示したりする。</p>	<p>5 長さの測定活動をする。 ○測定方法や留意点を掲示し、自分で正しい測定方法を確認しながら活動できるようにする。 ○巻尺の端（0目盛りのある方）をテープでとめ、片方の目盛りを読むように指示する。 ○測り終えた後には、課題ボックスに入れた次のワークシートをとらせる。その際、2年生の測定の支援をするような指示を出し、2年生との関わりをもたせるとともに、物差しと巻尺とを比べるきっかけをつくる。 ○物差しと巻尺のよさや測り方について比較をさせ、物差しと巻尺の共通点や相違点に気付かせる。</p>	<p>5 集団解決をする。 ・ボードを用いながら考えや気づきを発表し合う。 ○自分の言葉で発表をさせる。 ○積が1になる2つの数の組み合わせは、「分子と分母が入れ替わった数」になっていることを確実に押さえる。 ○$\frac{1}{4} \times 4$についても、「分子と分母を入れ替えた数」になっているといえるのかを検討させる。 ○逆数の意味（2つの数の積が1になるとき、一方の数をもう一方の逆数という）を押さえる。 6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・2つの数の積が1になるとき、一方の数をもう一方の逆数という。 ・真分数や仮分数の逆数は、分子と分母を入れ替えた分数になる。</p> </div>	<p>☆本単元までに学習したことを生活場面に活用し、長さに対する理解を深めるとともに、測定の仕方に習熟している。(2年) ☆長いものやまるいものの長さを測定するには巻き尺が適していることや、巻き尺の使い方を理解し測定している。(3年)</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。 ○2・3年生で、お互いが測った物の長さを発表し合う。 ○発表する際には、実物を見せながら、どこをはかったのかわかるような発表をさせる。 ○3年生の発表を聞いてから発表したらよいことを伝え、安心感をもって発言できるようにする。 7 学習をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ならったことを生かして、いろいろなものの長さをはかることができた。 ～に気づけてはかると、せいかわにはかることができた。</p> </div> ○自分が測るときに気を付けたことも一緒にまとめに入れさせる。(話型を示し空白に入れさせる)</p>	<p>○どこをはかり、長さはいくらだったのかを、2年生にわかるように発表できるよう声かけをする。 ○前時は「長いものの長さをはかるときにべんり」とまとめたが、今回はどうまとめたらいいか尋ね、巻尺の有用性に着目させたまとめができるよう支援する。 7 学習をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まきじゃくは、長いものだけではなく、まるいものの長さをはかるときにべんり。</p> </div></p>	<p>7 練習問題を解く。(P. 50) ・① 7の逆数を求める。 ・△ ①～⑥を解く。 ○0.3の逆数を考えるときは、小数を分数表記するとよいことに気付かせる。気付きにくい児童には、教科書の$0.3 = \frac{3}{10}$の表示を参考にさせる。 ○整数の場合と、小数の場合とで、どうすれば逆数が求められるか、まとめの追記としてまとめをさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・整数の逆数は、例えば $4 = \frac{4}{1}$ とみて、逆数の $\frac{1}{4}$ をもとめればよい。 ・小数の逆数は、分母が10, 100, …の分数で表して、分母と分子を入れ替えればよい。</p> </div> ○時間があれば、課題ボックスに入れた課題を解く。(クロムブックの問題)</p>	<p>☆逆数の意味とその求め方を理解し、逆数を求めている。(6年)</p>
	<p>8 学習を振り返る。 ○本時の児童の活動の様子を肯定的に評価したり、本時の学習内容を価値付けたりする。</p>			

(4) 配置図



かけ算(1)

面積のはかり方と表し方

日時：11月9日(木) 第5校時

学年：第2学年 2名

第4学年 3名

指導者：

1. 授業構想に関わって(2年)

この単元は

児童は

本単元は、学習指導要領第2学年A数と計算(3)のイの(ア)「数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見出したりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること」、イの(イ)「数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと」を受けて設定している。

本単元に関わり、第1学年では「10がいくつで何十」という数の理解を基に、10のまとまりをつくって総数を求めたり、2とびや5とびで総数を求めたりするなど、同じ数のまとまりに着目してものの総数を求めるといった乗法の素地的な経験をしている。

本単元では、乗法が用いられる実際の場面を通して、「1つ分の数のいくつ分」ととらえる乗法の意味について理解できるようにするとともに、乗法九九を学習や生活に活用する態度を養うことをねらいとしている。

また、児童が具体物や図を用いて立式の根拠を説明したり、乗法九九を構成する中で見いだした性質を説明したりする点で児童同士の学び合いが期待できる単元であると考えられる。

事前に行った児童アンケート及びレディネステストの結果は、以下の通りである。

調	児童アンケート 質問項目	肯定回答	
		児童ア	児童イ
①	クラスの友達と話し合っ、問題を解決しようとしていますか。	割愛	
②	友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり、確信が持てたりしていますか。		
	レディネステスト 問題の趣旨	正答状況	
③	数のまとまりと、それがいくつ分あるか問う問題	割愛	
④	「1つ分の数」と「いくつ分」に着目して問題場面をとらえ、全体数を求める問題		
⑤	「10とび」「5とび」「2とび」等の数の系列を問う問題		

割愛

指導の手立て

本単元の指導に当たっては、単元のねらいや児童実態を鑑み、以下の4点の手立てを行う。

①必要感のある問いをもたせる工夫(問題提示の工夫)

児童にとって必要感のある問いを生み出していくために、問題を一部隠して提示したり、わざと誤答を提示したりすることで、児童のつぶやきや疑問を引き出しやすくし、問いへとつなげていく。

②学び合いを深めるための工夫(考えを交流する場の設定)

友達のよい考えや説明の仕方に気付くために、友達の説明を聞いたり操作シーンを見たりする機会を設ける。また、安心して自分の考えを述べるようにするために、ペア同士で説明したり一緒に操作したりする機会を設ける。

③振り返りの充実の工夫(異学年同士での交流)

4年生の振り返りを聞くことを通して、振り返りの視点や伝え方などを学び、生かすことができるようにするために、異学年同士が同じ教室で学習している環境を生かし、異学年一緒に学習の振り返りを行う。

④ICTの有効活用について(提示的活用や操作活動の充実)

視覚的な支援による深い理解を促すために、chromebookを活用して、操作活動の手順を確認したり、実際の操作を通して「1つ分の数」と「いくつ分」を捉えやすくしたりする。

児童ア	児童イ
学習に対する意欲を持続させるために、よいつぶやきや気付きが出た際には適宜評価する。ペア同士の学習の際に、答えだけの発表にならないようにするために、理由も伝えることや、友達の考えを最後まで聞くことに対する声掛けをし、意識付ける。	本人の負担にならないようにするために、取り組ませる課題の量を調節する。安心して学習に取り組むことができるようにするために、細かく評価したり、ヒントを出したりする。また、理由や根拠を述べたり、自分の考えを記述したりする際に、教師が尋ねながら本人の考えを汲み取り、言語化していく。

1. 授業構想に関わって（4年）

この単元は

児童は

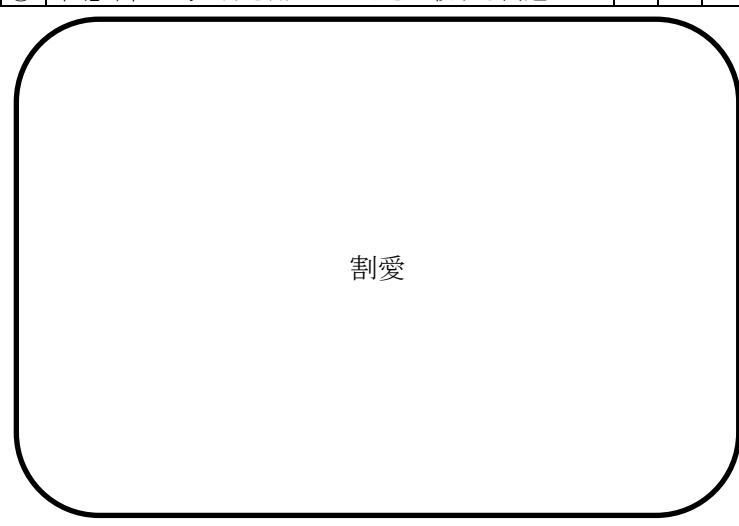
本単元は、学習指導要領第4学年B図形(4)のイの(ア)「面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること」を受けて設定している。

広さについては、第1学年で、比較する対象を重ね合わせて比べたり(直接比較)、陣取り遊びでますの数を比べたり(任意単位による比較)すること体験した。また、第3学年までに、長さ、かさ、重さについて、普遍単位を使った表し方を学習している。本単元では、面積も既習の量と同様に、単位とする大きさに着目し、その何個分として面積を表すとともに、面積の求め方を考える力、効率的・能率的な求め方を探求して公式を導き、それを活用しようとする力を養うことをねらいとしている。

また、本単元の学習は、長さやかさなどの既習の量に着目し類推することにより、面積の表し方を考えたり、長方形や正方形を組み合わせた図形の面積の求め方を説明したりすることができる点で、児童同士の学び合いが期待できる単元であると考えられる。

事前に行った児童アンケート及びレディネステストの結果は、以下の通りである。

設問	児童アンケート 質問項目	肯定回答		
		割合	割合	割合
①	クラスの友達と話し合って、問題を解決しようとしていますか。	割愛		
②	友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり、確信が持てたりしていますか。			
	レディネステスト 問題の趣旨	正答状況		
③	形の広さを直観で比較する問題	割愛		
④	直接比較の考え方をういて広さを比較する問題			
⑤	任意単位の考え方をういて広さを比較する問題			



本単元の指導に当たっては、単元のねらいや児童実態を鑑み、以下の4点の手立てを行う。

①必要感のある問いをもたせる工夫（ズレを意図した導入の工夫）

児童にとって必要感のある問いを生み出していくために、導入部分で既習事項と比較して提示したり、少しずつ見せたりすることで、既習事項とのズレに気付かせたり実感させたりする。「前とちがうよ。」「どうしたらいいの?」という困り感を共有し、問いへとつなげていく。

②学び合いを深めるための工夫（問い返し発問による学び合い・考えの見える化を図った教材）

学習内容の定着を図り、面積についての理解を深めるために、学び合いの場を設定する。面積についての理解を深めていくために、「どうしてそうなるの?」「〇〇さんはどう考えたのかな?」と、数学的な見方・考え方を引き出す問い返し発問に加え、「〇〇さんの説明の続きはどうなる?」と児童同士が考えをつなげられるような問い返し発問をする。また、児童が自分の考えを持ち、安心して学び合えるようにするために、視覚支援としてマス目が入った図や補助線、矢印を記した図を扱ったり、図と式を結びつけるといった児童にとって取り組みやすい活動を行ったりする。

③振り返りの充実の工夫（異学年同士での交流）

児童の意欲を高めたり、児童同士で学習を価値付け合ったりできるようにするために、異学年同士が同じ教室で学習している環境を生かして、2年生と学習の振り返りを交流する機会を設ける。

④ICTの活用（提示的活用）

児童の安心して学習に取り組んだり、主体的な学習活動を促したりするために、chromebookの機能を活用して、既習事項や問題解決のヒント、学習の流れ等を提示する。

指導の手立て

児童ウ	児童エ	児童オ
最後まで前向きに取り組むことができるようにするために、問題を一緒に読んだり、対話を通して考えを整理したりする。安心して課題に取り組んだり、スモールステップで新たな課題に向かったりできるようにするために、掲示物や chromebook を活用することで、既習内容やヒントが確認できるようにする。	学習に対する意欲を持続させるために、細かく評価していく。また、既習の考え方を想起させるとともに、繰り返し練習し、同じような過程で解いていけばよいことに気付かせる。さらに、自分で問題解決の過程を説明することができるようにするために、説明の例を提示する。	課題に困難さを感じている場合には、早めに声掛けを行い、最後まで前向きに取り組むことができるようにする。また、グループで話し合う場面では、自分の考えを述べて終わりにならず、友達の考えにしっかり耳を傾けたり反応したりできるようにするために視覚化し、事前に話し合いのルールを確認する。

2. 単元全体に関わって (2年)

(1) 目標

観点	目標
知識 技能	乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質 (乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則) を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九 (5、2、3、4の段) を構成し、確実に唱えたりすることができる。
思考力・ 判断力・ 表現力等	数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現することができる。
学びに向 かう力・ 人間性等	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 指導計画 (全22時間)

次	時	学習内容	評価規準			
			知 技	思 判 表	態 度	評価規準 (評価方法)
一	1	「1つ分の数」「いくつ分」をとらえ、「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。			○	ものの全体の個数を、「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえるとよいことに気付き、数えようとしている。(発言)
	2			○	数量の関係に着目し、数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。(発言、ノート)	
	3	乗法の場面を式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。	○			乗法は、1つ分の数の大きさが決まっているときに、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。(発言、ノート)
	4			○	具体物のまとまりに着目し、乗法が用いられる場面を式やおはじきで表し説明している。(行動観察、発言)	
	5	乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	○			乗法の答えは、被乗数の数だけ累加して求められることを理解している。(観察、ノート)
	6	倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解する。	○			倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときにもかけ算を用いることを理解している。(発言、ノート)
	7	身の回りから乗法の式で表すことができる場面を見つけ、どのような式になるのか説明する。			○	学習内容を生活に生かそうとしている。(行動観察)
二	8	5の段の九九の構成の仕方を理解する。	○			5の段の九九の構成の仕方を理解し、構成している。(発言、ノート)
	9	5の段の九九を唱える練習をしたり、5の段の九九を用いて問題を解決したりする。	○			5の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決している。(行動観察、ノート)
	10					

	11	2の段の九九の構成の仕方を理解する。		○	5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(発言、ノート)
	12 13	2の段の九九を唱える練習をしたり、2の段の九九を用いて問題を解決したりする。	○		2の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決している。(行動観察、ノート)
三	14	3の段の九九の構成の仕方を理解する。		○	乗法について成り立つ性質を用いて、3の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(発言、ノート)
	15 16	3の段の九九を唱える練習をしたり、3の段の九九を用いて問題を解決したりする。	○		3の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決している。(行動観察、ノート)
	17	4の段の九九の構成の仕方を理解する。		○	乗法について成り立つ性質を用いて、4の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。(発言、ノート)
	18 19	4の段の九九を唱える練習をしたり、4の段の九九を用いて問題を解決したりする。	○		4の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決している。(行動観察、ノート)
	20	乗法の用いられる場面をとらえ、立式の根拠を具体物や図を用いて説明することを通して、被乗数、乗数の意味の理解を深める。(本時 20/22)		○	数量の関係に着目し、乗法の用いられる場面をとらえ、立式の根拠を具体物や図を用いて説明している。(発言、ノート)
	四	21	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	○	
22		学習したことを活用して、九九カルタを行う。(パフォーマンス課題)		○	学習内容を適切に活用して、問題を解決している。(行動観察)













2. 単元全体に関わって（4年）

観点	目標
知識技能	面積の普遍単位について理解し、それらを活用して正方形や長方形の面積が求められることやその求め方、面積の単位間の関係を理解するとともに、面積についての量感を身につけることができる。
思考力・判断力・表現力等	量や乗法の学習を基に、面積の意味や図形の構成要素に着目して、面積を数値化して表すことや辺の長さを用いて面積を求めることについて考え、説明することができる。
学びに向かう力・人間性等	面積を数値化して表すことよさや身の回りのものの面積を求めたことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 指導計画（全12時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			知技	思判表	態度	評価規準（評価方法）
一	1	陣取りゲームで得られた図形の面積の比べ方を様々な方法で考え、説明する。		○		図形を構成する正方形や長方形の数に着目して、面積の比較について考え、説明している。（発言）
	2	面積の単位「平方センチメートル（ cm^2 ）」を知り、面積の意味について理解する。	○			面積の意味や面積の単位「平方センチメートル（ cm^2 ）」について理解している。（発言、ノート）
二	3	長方形、正方形の面積を計算で求める方法を理解し、面積の求め方を公式にまとめる。		○		正方形、長方形の特徴や1 cm^2 のますの数に着目して、長方形や正方形の面積を求める公式を考え、説明している。（発言、ノート）
	4		○		公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めることができる。（発言、ノート）	
	5	既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、L字型の図形の面積の求め方を考え、説明することができる。（本時5/12）		○		L字型の図形がいくつかの長方形で構成されていることに着目し、面積の求め方を考え、説明している。（発言、ノート）
三	6	面積の単位「平方メートル（ m^2 ）」を知り、辺の長さが m の場合も、長方形や正方形の面積の公式が適用できることを理解する。	○			辺の長さが m で表された長方形や正方形の面積も、公式を用いて面積を求められることを理解している。（発言、ノート）
	7	m と cm の関係を基に面積の単位 m^2 と cm^2 の関係を考え、説明する。		○		1 $\text{m}=100\text{cm}$ であることに着目して、1 $\text{m}^2=10000\text{cm}^2$ であることを考え、説明している。（発言、ノート）
	8	面積の単位「アール(a)」「ヘクタール(ha)」「平方キロメートル(km^2)」を知り、面積の単位の相互関係を理解する。	○			面積の単位「a」「ha」「 km^2 」とその相互関係を理解している。（発言、ノート）
	9	正方形の1辺の長さに着目して、面積の単位の相互関係を考え、説明する。		○		正方形の1辺の長さに着目して、1 cm^2 、100 cm^2 、1 m^2 、1a、1ha、1 km^2 の単位の相互関係を考え、説明している。（発言、ノート）
四	10	長方形の周りの長さや面積の関係を、表やグラフを基に考え、説明する。		○		表や折れ線グラフに着目して、縦の長さや面積の関係を考え、説明している。（発言、ノート）
	11	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	○			基本的な問題を解決することができる。（ノート）
	12	学習したことを活用して、いろいろな場所の面積の測定を行う。（パフォーマンス課題）			○	学習内容を適切に活用して、問題を解決している。（行動観察）

3. 児童の学習スケジュールと教師の「わたり」の計画表

第2学年	第4学年
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">練習問題</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  1人で </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">課題把握</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  先生と </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">課題把握</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  先生と </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">自力解決</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  1人で </div> </div>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">自力解決</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  1人で </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">集団解決</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  ペアで </div> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">集団解決</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  先生と </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">まとめ</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  先生と </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">集団解決</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  ペアで </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">練習問題</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  質問OK </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">まとめ</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  先生と </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">練習問題</div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  1人で </div> </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <h2 style="margin: 0;">全体(ふりかえり)</h2> </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で、学びを交流する。 ・学習内容や学び方についての価値づけ </div> </div>	

4. 本時に関わって

(1) 目標 (2年)

数量の関係に着目し乗法の用いられる場面をとらえ、具体物や図を用いて表すことを通して、立式の根拠を説明することができる。

(2) 評価規準とルーブリック (2年)

A	B	C
乗法の用いられる場面をとらえ、具体物や図、言葉に対峙させながら、立式の根拠を説明している。	乗法の用いられる場面をとらえ、具体物や図を用いて表して、立式の根拠を説明している	乗法の用いられる場面をとらえ、具体物や図を用いて正しく表せず、立式の根拠を説明できていない。
説明の例「2人に、5本ずつ」とあるので、まず、2人貼ります。次に、5本ずつくばるとあるので、5本ずつ貼ります。「1つ分の数」が5で、「いくつ分」が2です。式は「 $5 \times 2 = 10$ 」になります。」	説明の例図で考えると、「1つ分の数」が5で、「いくつ分」が2になるので、式は 5×2 です。	

(3) 準備物 (2年)

・問題掲示 (復習用と本時用) ・chromebook (Jamboard と Google スライド) ・マグネット付き挿絵 (人型と鉛筆)

(1) 目標 (4年)

L字型の図形がいくつかの長方形で構成されていることに着目し、図から式を読み取る活動を通して、面積の求め方を説明することができる。

(2) 評価規準とルーブリック (4年)

A	B	C
図から式を正しく読み取り、L字型の図形の面積の、3通りの求め方を説明している。	図から式を正しく読み取り、L字型の図形の面積の、1～2通りの求め方を説明している。	図から式を正しく読み取れず、L字型の図形の面積の求め方を説明することができていない。
説明の例「穴が無い大きい長方形で考えると、大きい長方形の面積は 4×6 です。穴の長方形の面積は 2×3 です。穴のところは取るからひき算で、 $4 \times 6 - 2 \times 3 = 18$ の式です。」		

(3) 準備物 (4年)

・問題掲示 (本時用) ・既習事項の掲示 ・chromebook (Jamboard)

学習活動 ⑥発問、指示 ⑦予想される児童の反応

○手立て ●評価 ＊留意事項

○本時に取り組む問題との違いに気付きやすくなるために、本時の問題を確認する前に、前時までの復習問題に取り組みさせる。

○児童が自ら操作しながら学習を進めていくようにするために、Google スライドを用いて学習の流れを提示する。

○「1つ分の数」と「いくつ分」を捉えやすくするために、児童が操作しながら考えることができ Jamboard を用意しておく。

*問題→式でなく、問題→具体→式という分かりやすい思考の流れにするために、ICTや操作コーナーナーでの操作活動を取り入れる。

児童ア、1人で進めることがないようにするために、手立てを確認しながら進める。

児童イ、安心して活動できるようにするために、介助員の先生にサポートしてもらいながら進めていく。

1. 前時までの復習問題に取り組む。

ふくしゅう

えんぴつを 1人に 2本ずつ、5人に くばります。

えんぴつは、ぜんぶで 何本 いらいますか。

①まずは、復習をします。図と式を自分で考えましょう。終わったら、次にペアで考えたことをペアで話し合います。

②問題に「1人に2本ずつ、5人」と書いてあるので、図がこうなります。(下図)

なので、「1つ分の数」が2で、「いくつ分」が5です。かけ算は「1つ分の数」×「いくつ分」なので、式は「2×5=10」になります。

2. 問題場面をつかむ。

もんだい

えんぴつを 2人に、5本ずつに くばります。

えんぴつは、ぜんぶで 何本 いらいますか。

①今日の問題です。式はどうなるか、自分で考えてみましょう。

1. 問題場面をつかむ。

①今日の問題です。

問題

右の形の面積を求めましょう。

②え、どうなっているの？

③階段やアルファベットのLみたいな形だ。

④長方形の面積の求め方なら知っているんだけど…

⑤Lみたいな形の面積は、どうやって求めたらいいんだろう？

問い どうすれば、L字の形の面積を求めることができるのかな？

2. 課題を設定する。

①今日の学習課題を設定しましょう。

②L字の形の面積は、どのように求めたらよいのだろうか。

3. 見通しを立てる。

①どうやって求められそう？

②真ん中に線を引いて、上の長方形と下の長方形に分けたらいいんじゃないかな。

③でも、他の方法は思いつかないなあ。

④実は、3人の先生がいろいろな方法で求めたみたいです。3人の先生の考え方は、それぞれどの式になるのか考えましょう。

学習活動 ⑥発問、指示 ⑦予想される児童の反応

○手立て ●評価 ＊留意事項

○前時との違いから児童の疑問を引き出した後、問題解決への見通しを持たせたりするために、少しずつ問題を提示する。その際に、長方形の面積の求め方を復習し意識付けるために、上部の長方形の面積が、「2×3=6」で求められることを確認する。

まず上部のみ提示 次に下部を提示

児童が自らの気付きや疑問から本時の課題を立てられるようにするために、児童のつづきを板書に残す。

○「長方形だったら求め方を知っている」という発言を引き出し見通しにつなげるために、児童から「求め方が分からない」とつぶやきが出たときに、「何の形だったら求められるの？」と問い返す。

○児童から問題解決に必要な考えが出た際には、その考えを評価しながら、「実は○○先生がその考えだよ。」と図を提示していく。また、見通しが出ない場合でも、「実は3人の先生がいろいろな方法で求めたみたいだよ。」と図を提示し、図に合う式を見つけたらという自力解決を行う活動を促させる。

○児童が自分の考えを持ってたり、安心して学習に取り組むために、児童の実態や情緒面を考慮して、線や矢印が記された図を扱う。また、図を提示した際に、大型モニターを用いて図を操作しながら3通りの考え方を示し、イメージを持たせる。

4. 自分で考える。

①3人の先生のやり方は、それぞれどの式になるのか考えましょう。どうしてその式にしたのか理由も考えましょう。(児童が操作する Jamboard)

川上先生の考え

田中先生の考え

福山先生の考え

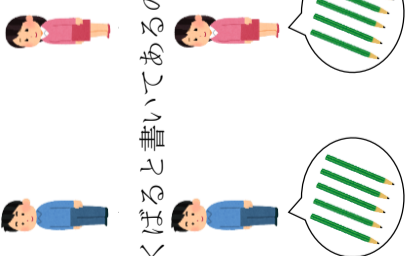

【式】

2×3+2×6=18

(2+4)×3=18

4×6-2×3=18

4. 自分で考える。
①式と答えを考えましょう。また、どうしてその式にしたのか理由も考えましょう。
①次に、考えたことをペアで話し合ってみましょう。(ペアでの学び合い)

5. 個人で考えたことを、全体で共有する。
①どのように考えたのか、発表しましょう。
◎問題に「2人に、5本ずつ」と書いてあるので、まず、2人貼ります。

次に、5本ずつつくばると書いてあるので、5本ずつ貼ります。

なので、「1つ分の数」が5で、「いくつつ分」が2です。(図を示しながら)
かけ算は「1つ分の数」×「いくつつ分」なので、式は「5×2=10」になります。

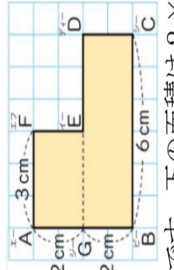
児童ア、「どこが困っている?」「一緒に言う?」などの発言ができるようにするために、話し合いで大切なことを掲示しておき意識させる。
児童イ、考えを持ってたり、児童アの考えが「自分と同じ考えだ」と安心できるようにするために、ペアで話し合わせる機会を設ける。

◎図に表している「1つ分の数」と「いくつつ分」を視覚的に理解させるために、「1つ分の数」と「いくつつ分」を色分けしたり、式の数と線をつないだりする。

●数量の関係に着目し乗法の用いられる場面をとらえ、具体物や図を用いて表すことを通して、立式の根拠を説明している。(発言、ノート)

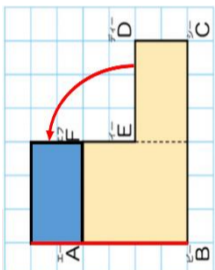
5. 個人で考えたことを、全体で共有する。

①どのように考えたのか、発表しましょう。
◎川上先生の図に合う式は、 $2 \times 3 + 2 \times 6 = 18$ です。



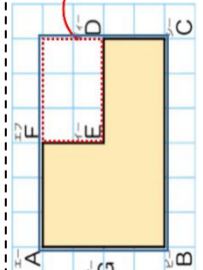
◎川上先生の図に合う式は、 $2 \times 3 + 2 \times 6 = 18$ です。
①どうしてそう考えたの?【理由や根拠を問う】
◎横に線を引くと、上の面積は 2×3 です。下の面積は 2×6 です。上と下の面積を合わせるの、この式にしました。
①上の面積も下の面積も、どんな形の面積を求めたの?
◎どちらも長方形の面積です。

◎田中先生の図に合う式は、 $(2+4) \times 3 = 18$ です。



①どうしてそう考えたの?【理由や根拠を問う】
◎右の長方形を左の長方形の上に動かします。そうすると...
①この続きはどうすればいい?【続きを問う】
◎縦の長さは2cmと4cmを合わせて2+4です。横の長さは3cmだから、この式になります。
①動かしたら1つのどんな形になったの?
◎1つの長方形になりました。

◎福山先生の図に合う式は、 $4 \times 6 - 2 \times 3 = 18$ です。



①どうしてそう考えたの?【理由や根拠を問う】
◎穴が無い大きい長方形で考えると、大きい長方形の面積は 4×6 です。穴の長方形の面積は 2×3 です。穴のところは取るから、ひき算のこの式になります。
①このやり方も、長方形で考えているんだね。

児童ウ・エ、安心して自分の考え説明ができるようにするために、説明の型を用意しておく。

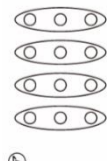
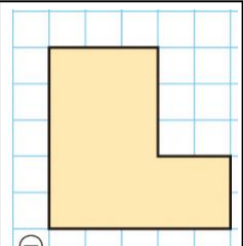
児童エ、説明の際に早口にならないようにするために、考えを共有する前に、ゆっくり落ち着いて自分の考えを発表することを確認する。

児童オ、考えていることをうまく言語化できない場合には、伝えたいことを汲み取って代弁したり、側と一緒に話したりする。

◎誤答があった場合は、その誤答を取り上げ問い返し発問をする。

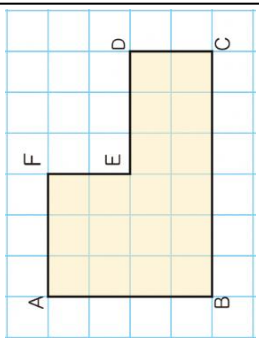
児童ウ・エ・オ、式に使われている数が図のどの部分のことなのかを前で示させる。

●L字型の図形がいくつかの長方形で構成されていることに着目し、図から式を読み取る活動を通して、面積の求め方を説明している。(発言、ノート)

	<p>6. 2つの問題を比較し、学習を価値付ける。(学習のまとめ)</p> <p>①2つの問題を比べて、違うところはどこでしたか？</p> <p>②「1つ分の数」と「いくつ分」の数が違いました。</p> <p>③でも、どっちの問題も、言葉の式で言ったらどうなるかな？【他の表現を問う】</p> <p>④どちらの問題も、「1つ分の数」×「いくつ分」＝「ぜんぶの数」になっています。</p> <p>⑤問題に出てくる順番ではなくて、「1つ分の数」と「いくつ分」を考えて、「1つ分の数」×「いくつ分」にしたらいんだね。</p> <p>⑥正しいかけ算のしきは、「1つ分の数」と「いくつ分」を考えて、「1つ分の数」×「いくつ分」＝「ぜんぶの数」とあらわすとよい。</p>	<p>○キーワードとして板書に残している「1つ分の数」と「いくつ分」という言葉に着目させ、本時のまとめをする。</p>	<p>6. 3つの考えを比較し、統合的に考える。</p> <p>①3つの考え方の同じところはどこですか。ペアで話し合いましょう。</p> <p>②3つの考え方は、線を引いたり動かしたりして長方形を作っています。</p> <p>③3つの考え方はどれも長方形の面積の求め方を使っています。</p>	<p>○3つの考え方の共通点に気付きやすくするために、「どこを見たらいいかな？」と問い返し、板書に残っているキーワードに焦点化させる。</p>
まとめ	<p>7. 適応問題に取り組む。</p> <p>れんしゅうもんだい</p> <p>つぎのもんだいに合う図としきは、どれですか。</p> <p>4つのふくろに、ボールが3こずつ入っています。ボールはぜんぶで何こありますか。</p> <p>(図) </p> <p>(式) $4 \times 3 = 12$ $3 \times 4 = 12$</p>	<p>●数量の関係に着目し、乗法の用いられる面に合う図や式を適切にとらえている。(Jamboard)</p> <p>児童エ、不安から問題に取り組めない場合を考慮して、介助員の先生が側で適宜声を掛けるようにしておく。</p>	<p>7. 学習のまとめをする。</p> <p>①3つの考え方の同じところはどこですか。考えたことを発表しましょう。</p> <p>②3つの考え方は、線を引いたり動かしたりして長方形に作っています。</p> <p>③3つの考え方はどれも長方形の面積の求め方を使っています。</p> <p>④どうして長方形を作っているのかな？【理由や根拠を問う】</p> <p>⑤長方形の面積の求め方だったら知らずして使えるからです。</p> <p>⑥知らない形も長方形のように知っている形に直せばいいんだね。</p> <p>⑦ L字の形の面積も、長方形や正方形の公式が使えらる形に直せば、求めることができる。</p>	<p>○L字型の面積の求め方に終始しないように、未習の図形に対する見方・考え方に触れて、本時のまとめを行う。</p>
振り返り	<p>8. 学習を振り返る。</p> <p>①振り返りを書きましょう。</p> <p>②図に表すと、「1つ分の数」と「いくつ分」が分かりやすいことが分かりました。</p> <p>③問題に出てくる順番ではなくて、「1つ分の数」と「いくつ分」を考えることが大切だと思いました。</p> <p>④○○さんの発表がヒントになりました。</p>	<p>○まず、ノートで学年同士の振り返りを行い、次に、異学年同士でも振り返りを行う。</p>	<p>8. 適応問題に取り組む。</p> <p>練習問題</p> <p>面積を求めましょう。</p> <p>$5 \times 2 + 3 \times 3 = 19$</p> <p>$5 \times 5 - 2 \times 3 = 19$</p> <p>答え 19cm²</p> <p>① </p> <p>9. 学習を振り返る。</p> <p>①振り返りを書きましょう。</p> <p>②知らない形でも、長方形や正方形の公式が使えらる形に直せば、面積が求められることが分かりました。</p> <p>③○○さんの発表で、自分の間違っているところに気付きました。</p>	<p>●L字型の図形がいくつかの長方形で構成されていることに着目し、面積を求められている。(ノート)</p> <p>*適応問題の面積を求める式は、計算のきまりを用いて1つの式で求めず、複数の式で求めてもいいよということとする。</p> <p>○まず、ノートで学年同士の振り返りを行い、次に、異学年同士でも振り返りを行う。</p>

11/9

課題 L字の形の面積は、どのように求めたらよいのだろうか。



問題
右の形の面積を求めましょう。

長方形の面積

たて 横
 $2 \times 3 = 6$

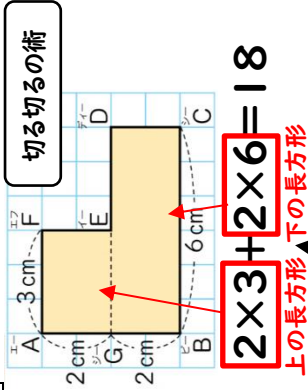
見直し

- ・線を引く。
- ・上の長方形と下の長方形に分ける。
- ・長方形の形に直す。

- ・階段やアルファベットのLの形の形の面積の求め方は知らない。
→長方形なら求められる。

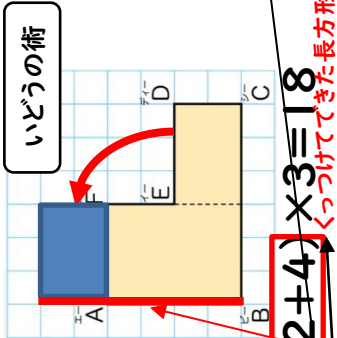
解決

川上先生の考え



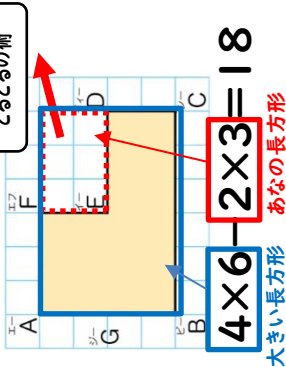
$2 \times 3 + 2 \times 6 = 18$
上の長方形 下の長方形

田中先生の考え



$(2+4) \times 3 = 18$
くっつけてできた長方形

福山先生の考え



$4 \times 6 - 2 \times 3 = 18$
大きい長方形 あなの長方形

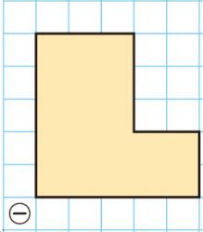
どのやり方も
長方形の形にしている

長方形の公式は使えるから!

練習問題

面積を

求めましょう。



$5 \times 2 + 3 \times 3 = 19$
 $5 \times 5 - 2 \times 3 = 19$
答え 19cm²

大切 L字の形の面積も、長方形や正方形の公式が使える形に直せば、求めることができる。

(5) 板書計画 (2年)

11/9

かだい どうすれば正しいかけ算のしきにあわせるのだろうか。

ふくしゅう えんぴつを1人に2本ずつ、5人にくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本いりますか。

大切 正しいかけ算のしきは、「1つ分の数」と「いくつ分」を考えて、「1つ分の数」×「いくつ分」＝「ぜんぶの数」とあらわすとよい。

もんだい えんぴつを2人に、5本ずつくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本いりますか。

出てくる数は同じ 人と本がちがう

1つ分の数 いくつ分 ぜんぶの数

$2 \times 5 = 10$

1つ分の数は 2本

いくつ分は 5人

どっちのしきも 「1つ分の数」×「いくつ分」

1つ分の数 いくつ分 ぜんぶの数

$5 \times 2 = 10$

1つ分の数は 5本

いくつ分は 2人

れんしゅうもんだい つぎのもんだいに合う図としきは、どれですか。

4つのふくろに、ボールが3こずつ入っています。ボールはぜんぶで何こありますか。

(図) ㉗

(式) $4 \times 3 = 12$

(図) ㉘

(式) $3 \times 4 = 12$

背面黒板の大きさを考慮して、掲示して提示する。

知識と問いの思考整理シート(2年)

<パフォーマンス課題>

2～5の段の九九カルタをしよう。

十問
台問
となる
生る
知む
識

- ・ 同じ数のまとまりをつくと、全体の数を数えやすい。
- ・ 「10がいくつで何十」というように、10のまとまりをつくと総数を求めやすい。
- ・ 2とびや5とびで数えると、総数を求めやすい。

問いの整理

<単元を貫く本質的な問い>

・ 全部の数は、どうすれば早く求められるのだろうか。



- ①～④ ぜんぶの数をまとめるには、どんなことが分かればよいのだろうか？
(か)ぜんぶの数をまとめるには、どんなことが分かればよいのだろうか。)
- ⑤ ぜんぶの数が多いときは、どうやってもとめたらよいのだろうか？
(か)6×4の答えは、どうやってもとめたらよいのだろうか。)
- ⑥ 長さも、かけ算をつかってもとめられるのだろうか？
(か)長さにもかけ算がつかえるかしらべよう。)
- ⑦ かけ算のしきにできる場面には、どんなところがあるのだろうか。
(か)学校の中から、かけ算のしきにできるところを見つけよう。)
- ⑧～⑯ 入れものがふえたとき、どうすれば中みの数をもとめることができるのだろうか？
(か)入れものがふえたときの中みの数のもとめ方をせつめいしよう。)
- ⑳ どうすれば正しいかけ算のしきにあらわせるのだろうか？
(か) どうすれば正しいかけ算のしきにあらわせるのだろうか？)

個別の問い (派生した問い)

知識の整理

<単元で獲得させたい概念的知識>

- ・ 「1つ分の数」とらえて、それをひとまとまりとみて、その「いくつ分」とらえられれば、乗法を用いて全体の個数を求めることができる。
- ・ 「〇の●つ分」は「〇の●倍」と表すことができ、乗法を用いることができる。
- ・ 乗数が1増えれば、積は被乗数分だけ増える。



- ①～④ 「1つ分の数」と「いくつ分」が分かれば、かけ算を使って全部の数を求めることができる。
- ⑤ 6×4の答えは、6+6+6+6のたし算で求めることができる。(累加)
- ⑥ 何倍かの長さを求めるときも、かけ算を使って求めることができる。
- ⑦ 「1つ分の数」と「いくつ分」が分かる場面は、かけ算の式に表すことができる。
- ⑧～⑯ 「いくつ分」が1つずつ増えると、●の段の九九の答えは●ずつ増えていく。
- ⑳ 「1つ分の数」と「いくつ分」を考えて、「1つ分の数」×「いくつ分」＝「ぜんぶの数」のかけ算の式に表すとよい。

事 実 的 知 識

知識と問いの思考整理シート(4年)

＜パフォーマンス課題＞
 いろいろな場所の広さを測ろう。

- ・ 広さは、比較する対象同士を重ね合わせると比べられる。(直接比較)
- ・ 広さは、ますの数を数えることで比べられる。(任意単位による比較)

問いの整理

＜単元を貫く本質的な問い＞

- ・ 広さは、どのように表せばよいのだろうか。

- 個別の問い (派生した問い)
- ① 広さは、どうすれば比べられるのだろうか？
 (例) 広さは、どうすれば比べられるのだろうか。)
 - ② 広さは、どのように表せばよいのだろうか？
 (例) 広さは、どのように表せばよいのだろうか。)
 - ③ ④ 長方形や正方形の面積は、どのように求めればよいのだろうか？
 (例) 長方形や正方形の面積は、どのように求めればよいのだろうか。)
 - ⑤ どうすれば、L字の形の面積を求めることができるのだろうか？
 (例) どうすれば、L字の形の面積を求めることができるのだろうか。)
 - ⑥ 大きい面積は、どのように表せばよいのだろうか？
 (例) 大きい面積は、どのように表せばよいのだろうか。)
 - ⑦ cm^2 と m^2 には、どのような関係があるのだろうか？
 (例) cm^2 と m^2 には、どのような関係があるのだろうか。)
 - ⑧ より大きな面積はどのように表せばよいのだろうか？
 (例) より大きな面積は、どのように表せばよいのだろうか。)
 - ⑨ 面積の単位には、どのような関係があるのだろうか？
 (例) 面積の単位には、どのような関係があるのだろうか。)
 - ⑩ たての長さとも面積の変わり方は、どのように調べたらよいのだろうか？
 (例) たての長さとも面積の変わり方は、どのように調べたらよいのだろうか。)

知識の整理

＜単元で獲得させたい概念的知識＞

- ・ 面積も、既習の量の測定と同様に、単位とする大きさを決めその何個分とみて大きさを表すことができる。
- ・ 長方形の面積＝縦×横
- ・ 正方形の面積＝1辺×1辺

- 事実的知識
- ① 広さは、1辺が1cmの正方形が何個分かで表すと比べられる。
 - ② 広さのことを面積といい、面積は 1cm^2 が何個分かで表すことができる。
 - ③ ④ 長方形や正方形の面積を求めるときには、隣り合った2つの辺の長さをかけ、その2つの辺の長さをかければよい。
 (公式) 長方形の面積＝たて×横 ・ 正方形の面積＝1辺×1辺
 - ⑤ L字の形の面積も、長方形や正方形の公式が使える形に直せば、求めることができる。
 - ⑥ 大きい面積は、 1m^2 が何個分かで表すことができる。
 - ⑦ $1\text{m} = 100\text{cm}$ を使うと、 $1\text{m}^2 = 10000\text{cm}^2$ という関係があることが分かる。
 - ⑧ より大きな面積は、 $1\text{a} (= 100\text{m}^2)$ や $1\text{ha} (= 10000\text{m}^2)$ 、 1km^2 という単位で表すことができる。
 ・ もとにする広さの正方形の1辺を、 1m から 10m 、 10m から 100m と変わると、新しい単位になっている。
 - ⑨ 面積の単位は、長さの単位がもとになっており、1辺の長さが10倍になると、面積は100倍になるという関係がある。

士
台
問
い
を
生
む
る
知
識

算数科

第2学年 長さをはかってあらわそう
第3学年 長い長さをはかって表そう
第4学年 小数のしくみを調べよう

日時：6月22日（木）第3校時

学年・学級：

自閉症・情緒障害特別支援学級

第2学年（2名）第3学年（3名）

第4学年（2名） 計7名

指導者：

育成をめざす資質・能力：主体性 協働性 探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能

1 児童の実態

2年 A児	割愛
2年 B児	
3年 C児	
3年 D児	
3年 E児	
4年 F児	
4年 G児	

2 単元について

(第2学年)長さに着目して、身の回りのものを目的に応じた単位で的確に表現したり、比べたりする力を養うとともに、長さについての量の感覚を身につけ、生活や学習に活用しようとする態度を育てていく。

(第3学年)ものの長さに着目して、巻尺やものさしを使って測定したり、長さの単位に着目して、適切な長さの表し方や単位関係を考えたりする力を養う。

(第4学年)小数の意味や表し方について理解し、表し方も計算の仕方も整数と同じ考え方であることに気付き活用する力を養う。

さらに、これらの学習を異学年で関連させて、学習のつながりを感じさせていく。

3 指導にあたって

(第2学年) 導入では、普遍単位の必要性に気付かせ学習への意欲を高めていく。展開では、身の回りのものの長さを測定する活動を通して、長さを表す単位の理解を促すとともに、操作活動の時間を十分確保し、測定の仕方や表し方についての基本の定着を図りたい。そして、2本の折れ線を比較する活動を通して、長さについても計算ができることや単位に着目するとよいことに気付かせていく。まとめでは、30 cmものさしでいろいろなものの長さを測定する活動を設定し、予想と比べながら測定することで量の感覚を養っていく。

(第3学年) 導入では、既習の長さの単位や測定について振り返るとともに、1mより長いものを測定する際の計器の必要性に気付かせ学習への意欲を高めていく。展開では、巻尺を用いて測定する活動に取り組み、予想して測定することを繰り返すことで量感を養っていく。さらに、距離と道のりを調べる活動を通して、意味の違いや新たな長さの単位(km)を使った表し方の理解を促していく。まとめでは、10mや100m、1kmを実際に歩き、予想したり時間や歩数を測定したりすることで長さについての量感を養っていく。

(第4学年) 導入では、身の回りのもので小数表示されているものを取り上げ、既習の小数と違う小数に関心をもたせる。展開では、小数の表し方や仕組みについて、既習の読み方や書き方、整数の仕組みに着目して考えさせていく。その際には、位取り表を活用し、新たに学習している小数も既習の小数や整数と同じ仕組みであることに気付かせていく。そして、小数のたし算とひき算では、筆算の仕方を考える活動を通して、この場合も整数での筆算の仕方をもとにすればよいことに気付かせたい。まとめでは、具体的な生活場面を提示し、単位変換の必要性に気付いたり活用したりする活動をして学習内容の理解を深め、生活に生かそうとする態度を育てていく。

4 単元の見直し

(第2学年)

- 長さの単位(cm, mm)や測定の意味、ものさしの仕組みなどを理解し、身の回りのものの長さを測定したり、指定された長さの直線を引いたりすることができる。(知識及び技能)
- 身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 身の回りにあるものの長さに関心を持ち、普遍単位を用いて表すよさに気付く。今後の生活や学習に活用しようとする。(学びに向かう力・人間性等)

(第3学年)

- 長さの単位(km)や測定の意味を理解し、それらを活用して適切に長さを単位で表したり測定したりすることができる。(知識及び技能)
- 身の回りのものの特徴や任意の単位に着目し、測定の方法や単位の関係について説明することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 身の回りのものを測定したり、単位について考えたりしたことを振り返り、そのよさに気付く。今後の生活や学習に活用しようとする。(学びに向かう力・人間性等)

(第4学年)

- 100分の1の位、1000分の1の位の小数の表し方や仕組みについて理解し、それらを活用して加法や減法の計算をすることができる。(知識及び技能)
- 数の仕組みや構成する単位に着目し、小数の加法や減法の計算の仕方や小数の大きさについて考え説明することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 小数の表し方や計算の仕方について整数や小数のしくみと関連付けて考えた過程を振り返り、多面的に捉え粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする。(学びに向かう力・人間性等)

5 「見方・考え方」を働かせ、深く学び合う指導の手立て

(1) 算数科の学習における「数学的な見方・考え方」を働かせる手立て

2年生は、測定活動を通して、分かりやすく長さを表したり、はしたの長さを表したりする必要があることに気づき、普遍単位の必要性を感じ取ることができるようにする。

3年生は、測定活動を通して、1mを超えるものの長さの計器として巻尺が役立つことや距離や道のりを考える際にはmでは数が大きくなってしまふことから、新たな上位単位としてkmが必要であることに気付かせていく。

4年生は、0.1よりもさらに小さい単位が必要な場合はどうしたらよいかを考え、既習の、ある単位の大きさが10集まると次の単位になったり、ある単位を10等分すると新たな小さい単位になったりすることを生かして、自ら進んで考えることができるようにする。

(2) 単元において全員を思考の世界に導く工夫

本単元では、各学年の学習内容をふまえたうえで、各学年を関連させながら単元構成を行う。どの学年も、操作活動を十分体験させたり、視覚的な支援を工夫したりして、考えを深められるようにしていく。また、およその見当を付ける活動をしたり、既習の学習内容を振り返ったりすることを大切にしていきたい。そして、課題解決に向けて、個別の学習をもとにしながら、グループ学習や全体での共有をしていくことで、友達の考えを共感的に受け止める力や改善点を見つける力、コミュニケーション力や自分や友達のよさに気付く力を育てていきたい。

(3) 学習ツールの活用

○ICT 機器

- ・導入で、絵や図を提示し、見通しをもったり興味関心を高めたりする場面・・・大型テレビ
- ・個人思考で、単位の変換や計算の仕方を考える場面・・・ジャムボード
- ・集団思考で、自分の考えを説明する場面・・・ジャムボード

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(第2学年)</p> <p>○ 長さについて単位と測定の意味やものさしの目盛りの仕組みを理解し、長さを測定したり、指定された長さの直線をひいたりしている。</p>	<p>(第2学年)</p> <p>○ 身の回りにあるものの特徴を長さに着目して捉え、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。</p>	<p>(第2学年)</p> <p>○ 身の回りにあるものの長さに関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、そのよさに気付いて今後の生活や学習に活用しようとしている。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>○ 長さの単位 (km) や測定の意味を理解し、それらを活用して適切に長さを単位で表したり測定したりしている。</p>	<p>(第3学年)</p> <p>○ 身の回りのものの特徴や任意の単位に着目し、測定の方法や単位の関係について説明している。</p>	<p>(第3学年)</p> <p>○ 身の回りのものを測定したり、単位について考えたりしたことを振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。</p>
<p>(第4学年)</p> <p>○ 100分の1の位、1000分の1の位の小数の表し方や仕組みについて理解し、それらを活用して加法や減法の計算をしている。</p>	<p>(第4学年)</p> <p>○ 数の仕組みや構成する単位に着目し、小数の加法や減法の計算の仕方や小数の大きさについて考え説明している。</p>	<p>(第4学年)</p> <p>○ 小数の表し方や計算の仕方について整数や小数のしくみと関連付けて考えた過程を振り返り、多面的に捉え粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用したりしようとしている。</p>

7 指導計画

(第2学年) (全9時間 本時7/9)

小単元	時数	主な学習内容	本校で育成を目指す 資質・能力
1長さの たんい	1	・ものの長さに着目して、任意単位を使った長さの表し方を考え、その限界に気付く。	主体性 探究力
	2	・普遍単位の必要性に着目して長さを同じ数値で表す方法を考える。 ・簡易ものさしを使ってはかる。	論理的思考力・表現力 協働性 知識・技能
	3	・1cmに満たない長さの表し方を考える。	探究力
	4	・ものさしの目盛りの読み方や測定の仕方を知る。	知識・技能 主体性
	5	・cm, mmを用いた直線の長さの表し方を知る。	知識・技能 論理的思考力・表現力
	6	・ものさしを使って、直線をひく。	知識・技能
2長さの 計算	7 (本時)	・長さの計算について考える。	知識・技能 論理的思考力・表現力 協働性
3まとめ	8	・30cmものさしを使って、身の回りのものの長さをはかる。	主体性 協働性 論理的思考力・表現力
	9	・学習内容の習熟・定着を図る。	主体性 論理的思考力・表現力 知識・技能

(第3学年) (全8時間 本時5/8)

小単元	時数	主な学習内容	本校で育成を目指す 資質・能力
1長いもの の長さの はかり方	1	・1mより長いものの測定方法に着目して巻尺での計測の仕方を考える。	主体性 探究力
	2	・巻尺を使って、身の回りのものの長さをはかる。	協働性
	3		論理的思考力・表現力 知識・技能
2長い長 さのた んい	4 5 (本時)	・距離と道のりの意味や長さを表す新たな単位(km)を知る。	協働性 論理的思考力・表現力 知識・技能
3まとめ	6	・実際に10mの長さがどれくらいかを調べる。	探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能
	7	・1kmを歩いて、かかった時間や歩数を調べる。	探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能
	8	・学習内容の習熟・定着を図る。	主体性 論理的思考力・表現力 知識・技能

小単元	時数	主な学習内容	本校で育成を目指す 資質・能力
1 小数の 表し方	1	・100分の1の位までの小数の表し方を考える。	主体性 探究力
	2	・1000分の1の位までの小数の表し方を考える。	探究力 知識・技能 論理的思考力・表現力
2 小数の しくみ	3	・整数のしくみに着目して、小数のしくみを調べる。	論理的思考力・表現力 知識・技能
	4	・小数の大小関係を考える。	論理的思考力・表現力 知識・技能
	5	・位の変わり方に着目して、10倍や10分の1にした数について考える。	論理的思考力・表現力 知識・技能
	6	・小数の相対的な大きさについて考える。	論理的思考力・表現力 知識・技能
3 小数の たし算 とひき 算	7	・100分の1、1000分の1の位の小数のたし算の筆算の仕方を考える。	探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能
	8 (本時)	・桁数がそろっていない場合の小数のたし算の筆算の仕方を考える。	探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能
	9	・100分の1、1000分の1の位の小数のひき算の筆算の仕方を考える。	探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能
	10	・桁数がそろっていない場合の小数のひき算の筆算の仕方を考える。	論理的思考力・表現力 知識・技能
	11	・数の合成・分解や相対的な大きさの表し方に着目し、小数を多様な見方で表す。	探究力 論理的思考力・表現力 知識・技能
4 まとめ	12	・学習したことを生活場面に生かして考える。	主体性 論理的思考力・表現力 知識・技能
	13	・学習内容の習熟・定着を図る。	主体性 論理的思考力・表現力 知識・技能

(第4学年) (全8時間 本時8/13)

8 本時の学習

(1) 本時の目標

- 2つの折れ線を比べる活動を通して、長さをはかったり長さの計算について考えたことを説明したりして、長さの単位に注目して計算すればよいことを理解することができる。(第2学年)
- 距離や道のりを考える活動を通して、長さの表し方について考えたことを説明したり、単位の関係を理解したりすることができる。(第3学年)
- 絵地図の道のりや距離を小数で表したり、小数のたし算の筆算の仕方を説明したりすることができる。(第4学年)

(2) 本時の評価規準（思考・判断・表現）

- 長さの計算の仕方について説明したり，単位に注目して計算したりしている。 (第2学年)
- 距離や道のりの求め方や長さの表し方について説明したり，kmを使って表したりしている。 (第3学年)
- 小数のたし算の筆算の仕方を説明したり，位に注目して計算したりしている。 (第4学年)

(3) 本時の指導にあたって

【導入（問いの設定）】

長さの単位カードと折れ曲がった2直線の絵や絵地図を提示し，本時の学習へ興味関心をもたせる。そして，それを使って，2年生は，「折れ曲がった直線の長さ」，3・4年生は，「距離や道のり」を調べることを伝え，学習への見通しをもたせていく。

【展開】

ジャムボードを活用し，2年生は同じ単位を計算すること，3年生はmからkmの単位換算，4年生は位をそろえることが意識できるように視覚的に支援し，計算の仕方を考える手立てとしていく。また，そう考えた理由や根拠を用語や図を用いて表現させたい。その手立てとして，既習事項を視覚的に提示しておく。熟考の過程においては，2，3，4年の学習内容が入った絵図を提示し理解を深めるとともに，本時の学習内容の活用を見取る 適用題としても扱いたい。

【まとめ】

学習を振り返りながら，2年生は「同じ単位どうしを計算すること」，3年生は「 $1\text{km}=1000\text{m}$ であること」，4年生は，「整数と同じように，位をそろえて計算すること」をまとめ，学習内容を意識づける。

(4) 個人の目標

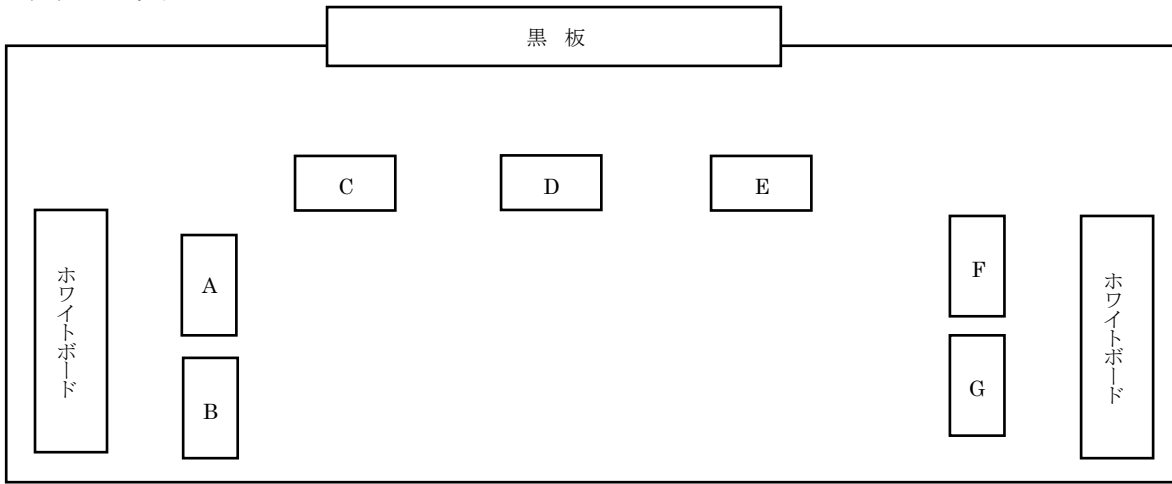
2年 A児	<ul style="list-style-type: none">・ものさしで直線をはかり，正しく目盛りを読んだり長さの単位を使って書いたりすることができる。・同じ単位を見分けて，計算することができる。
2年 B児	<ul style="list-style-type: none">・単位を使った長さのはかり方に慣れ，落ち着いて目盛りを読んだり書いたりすることができる。・長さの計算について考えたことを単位に注目して説明することができる。
3年 C児	<ul style="list-style-type: none">・求めた長さをkmを使って表したり，kmをmで表したりすることができる。・道のりと距離の違いを理解し，どのように求めたか，図や式を用いて説明することができる。
3年 D児	<ul style="list-style-type: none">・「$1\text{km}=1000\text{m}$」に注目することができる。・道のりや距離を○km○mで表すことができる。
3年 E児	<ul style="list-style-type: none">・道のりと距離の違いがわかる。・kmやmを使った長さの表し方に慣れる。
4年 F児	<ul style="list-style-type: none">・位をそろえていない筆算の誤りに気付くことができる。・位をそろえて小数のたし算の筆算計算をすることができる。
4年 G児	<ul style="list-style-type: none">・位や末尾の0の処理に気を付けて，小数のたし算の筆算計算をすることができる。・小数のたし算の筆算の仕方を説明することができる。

(5) 本時の展開

過程	学習活動及び個への指導・支援 (○)							☆評価 (評価方法) ★本校で育成を めざす資質能 力の評価 (評価方法)
	2年 A児	2年 B児	3年 C児	3年 D児	3年 E児	4年 F児	4年 G児	
	(T 2)		(T 1)			(T 1)		
問題 把握	1 学習の流れを確認し、問題場面を把握する。 ○学年ごとにスケジュール表を使い、視覚的に捉えさせ、学習の流れに見通しがもてるようにする。 ○2, 3, 4年が本時で扱う長さの単位や図を提示し、異学年間での学習に興味関心をもたせるとともに、自分たちの学習への意欲を高める。							
	○2年生は、提示した絵の折れ曲がった2つの直線を使って、長さを考えることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">2つの折れ曲がった道の長さは、どうやって求めたらよいか。</div> 2 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">2つの折れ曲がった直線の長さの求め方を考えよう。</div>	○3年生は、提示した絵地図を見て、距離や道のりを求めることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">距離や道のりは、何km何mかな。</div> 2 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">距離や道のりをkmを使って表すには、どうしたらよいか考えよう。</div>	○4年生は、提示した絵地図を見て、距離や道のりをkmで表してから、求めることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">距離や道のりは、何kmかな。</div> 2 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">小数のたし算の筆算のポイントを考えよう。</div>					
個人 思考	3 折れ曲がった直線の長さを求める。 ○ 既習内容を提示しておき、考える手立てとする。 ○ ものさしでの測定の仕方のポイントを視覚支援しておく。 ○ 長さを測る際には、ものさしの目盛りを直線にぴったりと合わせることを確認する。 ○ 同じ単位どうしに印をつけて、視覚的にとらえやすくする。 ○ 長さの計算を立式する際には、ジャムボードを使い、考える手立てとする。							☆ 2年 単位に注目して計算している。 ☆ 3年 距離や道のりの違いを理解し、kmを使って表している。 ☆ 4年 距離や道のりを小数で表したり、小数のたし算の筆算を位に注目して、計算したりしている。 (ワークシート、ジャムボード、発言)
	○ ものさしの操作が難しい場合は、ものさしを支えたり、力加減の声かけをしたります。 ○ 長さの単位の表し方 (□cm□mm) が混乱している場合は、既習の内容を提示し確認できるようにする。 ○ 単位の色分けやジャムボードでのカード操作で、同じ単位どうしが意識できるようにする。	○ 長さを書き表す際には、単位まで丁寧に書くように声をかける。 ○ ものさしの目盛りの目印を意識できていた時には、評価し全体に広げる。 ○ 早合点しているような場合は、落ち着いてもう一度確認するように声をかける。	○ 課題とは違うことに気が向いていたり、集中しにくかったりする場合は、やることを声かけたり指し示したりする。 ○ 早く課題を終えた場合は、絵地図を見て、自分で求めたい長さを選べるようにし、学習意欲を持続できるようにする。	○ 不安そうな様子が見られる時には、間違っても大丈夫なことを声かけたり、学習過程を評価したりし、安心感をもたせる。 ○ kmとmが混乱している場合は、既習の内容や位取り表を提示し確認できるようにする。	○ 児童の様子を見ながら、課題量を調整する。 ○ 言動が落ち着かない場合は、肯定的な言葉をかけながら、一緒に課題に取り組む。 ○ 書くことが難しい場合は、タブレットでの操作を中心に進める。	○ 誤りのある筆算を提示することで、どこが間違っているのを見つけてよいうとする意欲をもたせる。 ○ 気持ちが落ち着かない場合は、側で声をかけたり、注目するところを指し示したりしながら、学習への集中を促す。 ○ 位をそろえて計算できている際には、すぐ評価し意識づける。	○ とりかかりにくい場合は、絵地図の中で注目する長さに印をつけるよう声かけ、学習へのとりかかりを促す。 ○ じっくり考えていることを評価し、学習意欲を高める。 ○ 位や末尾の0の処理ができていない際には、すぐ評価し意識づける。	

集団 思考	<p>4 自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ cmとmmの単位があやふやな場合は確認する。 ○ 発表する際には、ジャムボードやワークシートを活用できるようにする。 	<p>4 自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ kmとmの単位があやふやな場合は確認する。 ○ 算数用語を意識付けるために、既習事項やキーワード等を掲示しておく。 ○ 発表する際には、ジャムボードやワークシートを活用できるようにする。 	<p>4 自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表する際には、ジャムボードやワークシートを活用できるようにする。 	<p>★ 2年 長さの計算について考えたことを説明している。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用語が混乱した場合は、cmやmmの読み方など、既習の学習内容を提示し、確認できるようにする。 ○ 友達の発表を聞いてから発表したらよいことを伝え、安心感をもって発言できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ cmやmmの単位に注目した発言の際には、すぐ評価し、大切なことを意識づける。 ○ 友達の考えを聞くことに集中しにくい場合は、側で声かけ注目を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ kmとmの関係について説明している際には、評価して、全体に広げる。 ○ 図や用語を用いて説明している際には、肯定的評価を行い、意欲を高める。 ○ 集中しにくい場合は、側で声をかけたり友達の考えについて説明を求めたりして注目を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考えが混乱している場合は、既習の学習内容を振り返ったり、ワークシートやジャムボードで確認したりするとよいことを声かける。 ○ 友達の発表を聞いてから発表したらよいことを伝え、安心感をもって発言できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習へ参加する姿が見られたら、すぐに評価し、意欲を高めていく。 ○ タブレットを活用して表現できるようにする。 ○ 動きを入れた活動を意図的に仕組み、集中が持続できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちが落ち着かない場合は、児童の様子を見ながら声をかけたり見守ったりする。 ○ 友達と関わっている姿が見られたら、すぐに評価し、意欲を高めていく。 ○ ジャムボードを見せながら表現できるようにする。 	<p>★ 3年 長さの表し方について考えたことを説明している。</p> <p>★ 4年 位に注目して、小数の筆算の仕方について説明している。</p> <p>(発言、行動観察)</p>
	<p>5 全員で共通の問題に取り組み、共通点や関連性などを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の学習内容が入った問題を提示し、学習のつながりを感じることができるようになる。 ○ 絵地図の注目する部分に印や色付けをしておき、学年ごとに何を求めるのかが分かりやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵地図上での三原駅～福山駅や広島駅までの長さを求めることで、興味をもたせながら学習の定着を図る。 ○ とりかかりに戸惑っている場合は、絵地図の直線の長さをものさしではかることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校周辺の距離を求めることで、興味をもたせながら学習の定着を図る。 ○ mだけで表している場合は、kmとmを使って表すとどうなるかなと声かける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三原駅～福山駅や広島駅までの距離を求めることで、興味をもたせながら学習の定着を図る。 ○ どちらの距離が遠い、近いなど、絵地図からも予想して取り組めるようにする。 	<p>☆ 2年 単位に注目して計算している。</p> <p>☆ 3年 kmへの表し方を理解している。</p> <p>☆ 4年 小数で表したり、位に注目して小数の筆算をしたりしている。</p> <p>(ワークシート)</p>		
まとめ・振り返り	<p>6 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>2つの直線の長さは、同じ単位の数どうしを計算すると求めることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容を価値づける。 <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの視点を提示する。 ○ 肯定的に評価し、次時への意欲付けを行う。 	<p>6 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「1000m = 1km」なので、1000mと□mに分けると、1km□mと表すことができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容を価値づける。 <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの視点を提示する。 ○ 肯定的に評価し、次時への意欲付けを行う。 	<p>6 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>小数のたし算の筆算も整数の時と同じように、位をそろえて書いて、位ごとに計算することが大切なポイント。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容を価値づける。 <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの視点を提示する。 ○ 肯定的に評価し、次時への意欲付けを行う。 				

(6) 配置図



10月6日（金）5校時 自閉症・情緒障害学級

単元名 「大きい数のわり算、分数とわり算」（3年生2名）

単元名 「比例と反比例」（6年生4名）

指導者

1 本校で育成をめざす資質・能力との関わり

コミュニケーション力	課題解決力	協働性	主体性
つなぐ言葉やスキルを活用して学び合うことができる。	既習を活用した自分や仲間の考えをもとに、「 <u>数学的な見方・考え方</u> 」を働かせ、問題を解決することができる。	仲間と共に自分達で学びを創ろうとする。	自ら問いをもち、様々な解決方法を考え、課題を解決しようとしている。

○本単元で働かせ、身につけさせたい数学的な見方・考え方

(第3学年)

- ・2位数÷1位数の2位数を、10を基に考えたり、位ごとに分けて考えたりするという見方。

【1】【単位の考え】(見方)

- ・分数について理解し、分数と除法を関連付けて、計算の仕方を考える。

【2】【統合的に考える】(考え方)

(第6学年)

- ・比例の関係の時に成り立つきまりに着目し、比例の式や「決まった数」の多様な意味について考察する力を養う。

【1】【統計的な考え】(見方)

- ・比例のグラフを用いて、2つの数量の関係を表現し、変化や対応の特徴を見出して問題解決に活用できる力も養う。

【2】【帰納的に考える】(考え方)

- ・比例ではない関係の例として、反比例を取り上げ、比例と反比例を対比することで、より一層比例の理解を進めていく。

【3】【類推的に考える】(考え方)

2 単元について

(1)本単元の指導内容

本単元は、小学校学習指導要領算数編第3学年、第6学年の「A数と計算」の内容に位置づいている。

第3学年

A(4) 除法

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

ア 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

イ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

ウ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

エ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。

オ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

ア 数量の關係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

イ 数量の關係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

A(6) 分数の意味と表し方

(6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

ア 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。

イ 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。

ウ 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

ア 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと

第6学年

A (2) 文字を用いた式

(2) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

ア 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

ア 問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。

C (1) 比例

(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

ア 比例の關係の意味や性質を理解すること。

イ 比例の關係を用いた問題解決の方法について知ること。

ウ 反比例の關係について知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

ア 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの關係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの關係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと

○本単元に必要な既習の知識や技能

第3学年

- ① 除法の意味や計算の仕方、2位数×1位数の計算の仕方を考える際、10を基に考えることや、何十何を位ごとに分けて考えていくことができる。
- ② 同じ大きさに分けた1つの表し方としての分数と除法を結び付けて考えることができる。

第6学年

- ① 伴って変わる2つの数量を見出して、比例・反比例の關係に着目し、「変化のきまり」や「対応のきまり」を考察し、関数的に考える力を伸ばすことができる。
- ② 目的に応じて、表、式、グラフを用いてそれらの關係を表現し、変化や対応の特徴を捉えることができる。



児童の実態		
第	A	割愛
	B	
第6学年	C	
	D	
	E	
	F	

第3学年

○本単元における予想されるつまずき

- 【1】何を基にしているかが分からない。
- 【2】分数と除法の関連付けができない。



○「数学的な見方・考え方」を働かせ、つまずきを乗り越えるために単元を通して取り組む手立て

- 【1】具体物を操作する活動を多く取り入れることで、2位数÷1位数では、10をもとに除法をすることができるという見方ができるようにする。また、テープ図を書かせることでも、基にする量を意識できるようにする。
- 【2】分数の概念を掲示することで、等しく分ける（等分する）ということを意識して、除法の概念と結びつけることができるようにする。

○本單元における
予想されるつまずき

- 【1】決まった数の多様な意味を考察することが難しい。
- 【2】比例のグラフを用いて、2つの数量関係の変化や対応の特徴を見出すことが難しい。
- 【3】比例と反比例の特徴が混同している。



○「数学的な見方・考え方」を働かせ、つまずきを乗り越えるために
単元を通して取り組む手立て

- 【1】意見が出なかった場合は数の見方を提示したり、グラフや表の見方を確認したりすることで、決まった数の多様な意味を児童に考えさせるようにする。
- 【2】グラフを描かせたり、一緒にグラフを読み取ったりする活動を多く取り入れることで、グラフの見方に慣れ、2つの数量の関係の変化や対応の特徴を見出すことができるようにする。
- 【3】グラフの見方が混同しないように、比例の特徴を自分のノートにまとめたり、教室に掲示を貼っていったりして、比例の理解を図る。

3 単元の目標

第3学年	簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養い、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
第6学年	比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係に着目し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見出して2つの数量の関係を考察する力を養うとともに、比例や反比例の関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

4 単元計画

○第3学年

小単元	学習内容	評価の観点			
		知	思	学	◎の具体的内容
大きい数のわり算	・10を基にする単位の考えに着目して60÷3などの計算の仕方を考える。	○	◎		60÷3などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。
	・数の構成に着目して69÷3などの計算の仕方を考える。		◎	○	69÷3などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。
分数とわり算	・分数の意味に着目して80cmの1/4の長さの求め方を除法を用いて考える。	◎	○		分数の「等分する」という考えを用いて、分数で表された数を計算して求めることができる。
	・もとの長さに着目して、1/4の長さが異なる理由を考える。 問い：1/4の長さにしたのに、長さが違うのは、なぜだろう。 もとの長さが違うから、1/4にした長さも違うね。	◎		○	もとの大きさに着目して、1/4の長さが異なる理由を考え、説明している。

○第6学年

小単元	学習内容	評価の観点			
		知	思	学	◎の具体的内容
比例の性質	・比例の関係に着目し、小数倍、単位分数倍のときも、倍の関係が成り立つか考える。	◎		○	yがxに比例するとき、xの値が0.5倍、2.5倍などになると、それに伴ってyの値も0.5倍、2.5倍になること、xの値が1/2倍、1/3倍になると、それに伴ってyの値も1/2倍、1/3倍になることを理解している。
	・2つの数量の変わり方の割合に着目し、比例の関係について考える。	◎			yがxに比例するとき、xの値が□倍になると、それに伴ってyの値も同じ□倍になることを理解している。
比例の式	・比例の関係のときに成り立つきまりに着目し、比例の式や「決まった数」の多様な意味について考える。	◎		○	比例するときの対応の関係をまとめる。
	・「決まった数(定数)」にする部分を変え、比例の式について考える。	○			yがxに比例するとき、 $y = \text{決まった数} \times x$ と表せることを理解し、比例の関係を式に表すことができる。
比例のグラフ	・比例の関係にある2つの数量の値に着目し、比例のグラフの特徴を考える。		◎	○	比例の関係をグラフに示して、考察することができる。
	・比例のグラフに着目し、式や表の利用とともに事象の様子を考える	◎		○	比例のグラフは原点を通る直線になることを理解し、比例の関係をグラフに表したり、グラフから読み取ったりすることができる。
	・2本の比例グラフに着目し、それぞれの特徴や事象の様子等を考える。	◎		○	傾きの異なる2本の比例のグラフから、それぞれの特徴や事象の様子などを読み取ることができる。
比例の利用	・比例関係にある数量を見出し、問題解決を図る。		◎	○	比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。
	・比例関係に着目し、問題解決を図る。	◎	○		比例の関係をを用いた問題解決の方法を理解している。
練習	・学習内容を適用して、問題を解決する。	◎			基本的な問題を解決することができる。
反比例	<p>・2つの数量に着目し、反比例について考える。</p> <p>問い：xが2倍、3倍…になると、yが1/2倍、1/3倍…になる関係を何というのだろうか。</p> <p>xが2倍、3倍…になると、yが1/2倍、1/3倍…になる関係を反比例という。</p>	○		◎	2つの量の変わり方に興味をもち、表を使ってその関係を調べようとしている。
	・反比例する2つの数量の関係に着目し、反比例の性質について考える。	◎	○		yがxに反比例するとき、xの値が1/2倍、1/3倍になると、それに伴って変わるyの値は2倍、3倍になることを理解している。

	・反比例のときに成り立つきまりに着目し、反比例の式や関係について考える。	◎	○	yがxに反比例するとき、y=決まった数÷xと表せることを理解し、反比例の関係を式に表すことができる。
	・反比例の関係にある2つの数量の値に着目し、反比例のグラフの特徴について考える。	◎	○	反比例の関係をグラフに表したり、グラフから読み取ったりすることができる。反比例のグラフの特徴を理解している。
まとめ	・学習内容の習熟・定着（たしかめよう） ・数学的な見方・考え方の振り返り（つないでいこう 算数の目）	○		基本的な問題を解決することができる。

4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第3学年	簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について理解し、説明している。 分数で表される場面を適切にとらえ、除法を用いて答えを求めることができる。	簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、既習の計算の仕方や図などを用いて、数の構成に着目して考え、説明している。 等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。	簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、具体物や図、式を関連づけたり、既習の計算の仕方などを基に考えたりしながら、その過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。
第6学年	比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の関係にある2つの数量の関係を表や式、グラフに表したり、比例の関係をj用いて問題解決したりすることができる。	伴って変わる2つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して変化や対応の特徴を見出して問題解決に活用している。	数学的に表現・処理したことを振り返り、多角的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- (第3学年) 長さの違うテープを4等分する活動を通して、もとの長さがちがうことに気付き、もとの大きさが異なる理由を考え、説明することができる。
- (第6学年) 反比例する2つの数量の関数の性質を調べる活動を通して、 y が x に反比例するとき、 x の値が2倍、3倍になると、それに伴って変わる y の値は $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍になることに気付き、反比例の性質について理解することができる。

(2) 本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」

- (第3学年) もとの大きさと分数の関係についてまとめる。(統合的に考える)
- (第6学年) 反比例では、 x と y の値の関係が逆数の関係であることを気付く。(演繹的に考える)

(3) 学習の展開

学習活動(数字) 発問(○) 数学的な見方・考え方を顕在化させるきっかけとなる発問(◎)と子供の姿(・) 教師の働きかけとねらい(●)		C (第6学年)	D (第6学年)	E (第6学年)	F (第6学年)
1	学習の流れを確認し、既習内容の確認をする。	1 学習の流れを確認する。 ●授業の進め方の司会原稿を基に、なるべく子どもたちで授業を進めていく。			
2	既習内容の復習をする。 ●ミラシードなどで、繰り返し練習問題に取り組みさせることで、前時までの学習の理解を図る。 ●肯定的な声かけをしたり、クイズ形式の問題に取り組みせたりすること、前向きに取り組むことができるようにする。	<p>かだい</p> <p>1 問題と表を提示(配布)して、分かることを確認する。(全体)</p> <p>●児童に問題を読ませ、今まで学習したことと比較することで、今回の表との違いに気付かせる。</p> <p>◎ 1分あたりに入る水の深さを1cm、2cm、3cm、…と変えていくとき、それにもなって水を入れる時間は、どのようになら変わりますか。</p>			
3	問題を確認して課題を設定する。 ◎黄色と青のテープの1/4の長さを求めよう。 ○黄色と青のテープの1/4の長さを求めよう。 ●前時でテープを1/4にした方法を掲示しておき、どのように求めたらいいのかのヒントに使えるようにしておくことで、本時の学習につなげる。机より広い空間を用意することで、ものさしで測ったり、長さを比べたりする活動ができるようにする。	<p>やってみる</p> <p>2つの数量の関係を調べよう。</p> <p>3 表を見て、分かることや気付いたことについて書き込みをしていく。 ○どのように水の深さや時間は変わっているかな。</p> <p>●既習内容を掲示しておくことで、比例とは変わり方が違うことに気付くことができるようになる。</p> <p>●表を横に見るということを伝えたり、増えているのか減っているかの簡単な問いを投げかけることで、考える視点を明確にできるようにする。</p>	<p>◎ 2つの数量の関係を調べよう。</p> <p>●前時までのノートを確認し、させることで、比例の表とは違うことに気付くことができるようになる。</p> <p>●比例の表との違いや同じ点に目を向けることができ、規則性に気付くことができるようになる。</p>	<p>●既習内容を掲示しておくことで、今回の表と比較しながら考えることができるようになる。</p> <p>●表の見方や考える視点を与えることで、自分で考えることができるようになる。</p>	<p>●前時までのノートを参考にすることを伝えることで、今までの学習と比較しながら考えることができるようになる。</p>
4	自分で考える。 ●それぞれに異なった長さのテープを渡し、1/4にする活動をする。で、具体物を使って、前時までの学習を想起しながら個人思考させる。 ●1/4したテープを黒板に並べて掲示することで、2本のテープの長さの違いに気付くことができるようにする。 ○1/4の長さはどうなったかな。 ・同じ1/4なのに、長さがちがう!				

<p>○同じように1/4に分けたのに、なぜ長さがちがうのでしょうか。</p>		
<p>かだい 5 課題設定をする。</p> <p>④ 1/4の長さが、ちがう理由を考えよう。</p> <p>●実際にテープを1/4に分けたり、並べて比べたり、長さを測ったりすることで、違いを見つけてことができるようにする。</p> <p>○前時では、どんな風に考えたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式を使った。 ・図も使えそう。 <p>●テープを実際に1/4に折って比べることで、4等分するという体験をすることができるようになる。</p> <p>●教科書の図や式を使って考えさせることで、説明をノートに書くことができるようにする。</p>		<p>話し合う 4 みんなで話し合う。</p> <p>○司会の児童を中心に、司会原稿を基に、意見を出し合って、2つの数量がどのように変わっているのか話し合いをしていく。</p> <p>●1分あたりに入る水の深さが増えると、水そうに水をいっぱいにするのに必要な時間が短くなること、表に矢印を書いたとき、1分あたりに入る水の深さが2倍、3倍…になると、水そうに入ると、水そうに水をいっぴいにするのに必要な時間が、1/2倍、1/3倍…になること、表に矢印を書き、1分あたりに入る水の深さが2倍、3倍…になると、水を入れたときの深さが1/2倍、1/3倍…になることに気付くことができる。</p> <p>●司会原稿を基に、話し合いができるようにする。</p> <p>●表に矢印を書き、1分あたりに入る水の深さが増えると、水そうに水をいっぴいにするのに必要な時間が短くなること、表に矢印を書き、1分あたりに入る水の深さが2倍、3倍…になると、水を入れたときの深さが1/2倍、1/3倍…になることに気付くことができる。</p> <p>●自分の分かっていることは、ノートに書かせ、教師が肯定的な評価をすることで、自信をもって発表ができるようになる。</p> <p>●表に矢印を書き、1分あたりに入る水の深さが増えると、水そうに水をいっぴいにするのに必要な時間が短くなることに気付くことができる。</p> <p>●表に矢印を書き、関係を調べるとき、1分あたりに入る水の深さが、2倍、3倍になると、水そうに水をいっぴいにするのに必要な時間は、1/2倍、1/3倍…になることに気付くことができる。</p>
<p>話し合う 6 2人で話し合う。</p> <p>○同じように1/4に分けたのに、なぜ長さがちがうのかを、テープを使いながら話し合おう。</p> <p>●元の長さのテープを重ねて比べる活動を設定することで、もとの長さが違うことに気付くことができるようにする。</p> <p>○気付いたことがありますか。</p> <p>●児童と同じ2本のテープを使い、1/4の折り方を確認したり、長さなどを書いたりして、1/4とは、全体を4つに分けた1つだから、もとの長さは、1/4の4つ分だということを認めることで、黄色テープは、21 cmが4つ分で84 cm、青テープは、22 cmが4つ分で88 cmだから、もとの長さが違うことに気付かせる。</p> <p>●もとの長さが分かった時点で、式に表せるかを認めることで、式にして比較できることに気付くことができるようにする。</p>		<p>●黒板に表を貼り、1分あたりに入れる水の深さが2倍、3倍になると、水槽をいっぴいにするのにかかる時間が、1/2倍、1/3倍になっていることを、矢印で書き込むことで、一方が増えると、一方が減っている関係に気付くことができるようにする。また、今までの学習と比較するように促すことで、比例とは違うことにも気付くことができるようにする。</p> <p>まとめ 5 まとめ。</p> <p>○今日のまとめをしましょう。</p> <p>○2つの数量の関係で分かったことは、何でしょう。</p> <p>●xは、1分あたりに入れる水の量で、yは、水そうをいっぴいにするのにかかる時間ということを確認し、この2つの数量の関係を、反比例ということをおさえる。</p> <p>④ 2つの数量xとyがあり、xの値が2倍、3倍になると、それに伴ってyの値が1/2倍、1/3倍になるとき、yはxに反比例するといいます。</p> <p>●反比例の定義について、説明する。</p>

まとめ

7 まとめをする。
 ○なぜ、 $1/4$ の長さが違いましたか。
 ま もとの長さがちがうと、その $1/4$ の長さもちがう。
 ● $1/4$ にするということは、もとの長さを1とみて4等分していることだということを確認する。また、 $1/4$ にしたものが4つ分で、1（もとの長さ）になることも、合わせて確認する。

練習問題

8 教科書の問題を解く。
 も ①12 cmの $1/3$ の長さは何cmですか。
 ②96 cmの $1/3$ の長さは何cmですか。
 ③もとの長さの $1/4$ が25 cmでした。もとの長さは何cmですか。

◎もとの長さ（1とみるの）は何かな。何等分するのかな。
 ●テープ図を用意し、全体が12 cmで $1/3$ は3等分した1つ分であることと教師が示すことで視覚的に理解することができるようにする。
 ●肯定的な声かけをしながら、小丸付けを行うことで、前向きに取り組むことができるようにする。
 ●具体物を渡すことで、自分で操作しながら考えることができるようにする。
 ●テープ図を用意し、問題と図を見比べながら書いていくことで、自分で解けるようにする。

評価規準（評価方法）
 もとの大きさに着目して、 $1/4$ の長さが異なる理由を考え、説明している。 【知・技】（ノート・発表）

ふりかえり

9 今日の学習を振り返る。
 ○今日の学習でどんなことが分かるようになったり、できるようになったりしたかな。

練習問題

6 教科書の問題を解く。どのような変わり方をしているか考えさせる。

●表を横に見て、 x の値が2から6に変わる時、 x の値は3倍になって、 y の値は $1/3$ 倍になっていることを考えさせた後に、矢印を書き込ませる。
 ● x の値が1から2に変わるとき、 x の値は1から2に変わるとき、 x の値は1/2倍になっていることに気付くことができるようにする。
 ●この表の関係は、反比例ではないことをおさえる。

7 練習問題の確認を全体で行っていく。

評価規準（評価方法）
 x の値が2倍、3倍・・・になると、 y の値は $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍・・・になるときに「 y が x に反比例する」ということを理解している。 【知・技】（ノート・発表）

ふりかえり

8 今日の学習を振り返る。

練習問題

9 算数ドリルの練習問題に取り組む。
 ●振り返りまで終わった児童は、算数ドリルに取り組みさせることで、定着を図る。

●前時や本時で勉強した考えでできることを伝えることで、意欲をもって取り組むことができるようにする。
 ● x の値が1から2に変わるとき、 x の値が2倍になっているが、 y の値は $1/2$ 倍になっていないことに気付くことができるようにする。
 ●表に矢印を書き込ませること、関係に気付くことができるようにする。
 ●早く終わった場合は、算数ドリルなどに取り組みさせる。

10/6 ④ 大きい数のわり算
1/4の長さがちがう理由を考えよう。

⑤ 1/4の長さは何cmですか。

青テープ テープ図をはる

黄色テープ テープ図をはる

1/4にしたのに、長さがちがう。はかり間違い？

- ・2つをくらべてみる。
- ・長さを図ってみる。
- ・重ねてくらべてみる。

⑥ もとの長さがちがうと、その1/4の長さもちがう。

84cm テープ図をはる $84 \div 4 = 21$

88cm もとの長さがちがう!!

88cm テープ図をはる $88 \div 4 = 22$

⑦ 12cmの1/3の長さは何cmですか。
式 $12 \div 3 = 4$ 答え 4cm

⑧ 96cmの1/3の長さは何cmですか。
式 $96 \div 3 = 32$ 答え 32cm

⑨ もとの長さの1/4が25cmでした。もとの長さは何cmですか。
式 $25 \times 4 = 100$

10/6 ⑩ 比例の関係をくわしく調べよう

⑪ 2つの数量の関係の性質を調べよう。

⑫ 2つの数量の変わり方をくわしく調べよう。

⑬ 2つの数量の関係を調べよう。

⑭ 2つの数量の変わり方をくわしく調べよう。

⑮ 比例していない。
・xが増えたら、yが減っている。

⑯ p155の表をはる

⑰ p154の表をはる

⑱ AもBも、反比例。

⑲ 2倍 3倍

⑳ 比例とは・・・
xの値が2倍、3倍になると、それに伴ってyの値も2倍、3倍になる。

㉑ xの値が2倍、3倍…になると、それに伴って、yの値は、1/2倍、1/3倍…になるとき、「yはxに反比例する」という。

算数	特別支援知的学級 1A 1年 1名、2年 2名	指導者
単元名	たしざんをしよう(1年)、ひきざん(2年)、ひきざんをしよう(2年)	
学習指導要領における領域・内容	特別支援学校(知的障害)小学部[算数科]3段階 A 数と計算(1)ア A 数と計算(2)ア、イ	
他教科との関連	生活単元1年「たのしいあきいっぱい」、2年「うごくおもちゃを作ろう」	
本単元で育成する資質・能力	②論理的思考 ③-2 主体性	
単元目標	A児・B児 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚を持つとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについて技能を身に付けるようにする。 C児 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活にいかしたりする力を身に付けるようにする。	

1 単元について

(1) 単元概要

- A児 本単元は、数量関係に着目し、場面を式に表したり、式を読み取ったりすることを通し、加法の意味や計算の仕方を考えることができることをねらいとしている。これまで、5までの「数の合成・分解」を学習し、数の概念を深めてきた。これらの学習や、既習の数のまとまりに着目し、一つの数を他の数の和や差として考えるという数学的な見方・考え方が本単元の素地となる。
- B児 本単元は、数量関係に着目し、場面を式に表したり、式を読み取ったりすることを通し、減法の意味や計算の仕方を考えることができることをねらいとしている。これまで、10までの「数の合成・分解」を学習し、数の概念を深めてきた。これらの学習や、既習の数のまとまりに着目し、一つの数を他の数の和や差として考えるという数学的な見方・考え方を基礎として、加法について学習した。そこでの加法の意味、算数ブロックでの操作、式表示、式の読み取り、計算の仕方などの学習経験が、本単元の素地となる。
- C児 本単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、理解し、計算することができることをねらいとしている。減加法による計算では、十いくつを「10といくつ」とみることと、10から減数をひくことから、減数の10に対する補数を見つけることがポイントとなる。

(2) 児童実態

	児童の実態	予想されるつまずきと手立て
A児 (1年)	割愛	
B児 (2年)		
C児 (2年)		

A児

レディネステストの内容	正答率
① 数を数えて1～5まで書く問題	割愛
② ●図の数と同じ数の物を見つける問題	
③ 数字の数だけ、●図を塗る。	
④ 1～10までの数の順序を書く問題。	

B児

レディネステストの内容	正答率
① 1、2位数+1位数、1位数-1位数、2位数-1位数(繰り下がりがなし)	割愛
② 10の合成・分解を問う問題。	
③ 絵を見て立式する問題。	
④ 4-1になる絵を選ぶ問題。	
⑤ 5-2をブロック操作して解く問題。	

C児

レディネステストの内容	正答率
⑥ 1、2位数+1位数、1位数-1位数	割愛
⑦ (1)10の合成を問う問題。	
⑧ (2)10の分解を問う問題。	
⑨ 絵を見て立式する問題。	
⑩ 4-1になる絵を選ぶ問題。	
⑪ 5-2をブロック操作して解く問題。	

(3) 指導概要

A児 (1年)	<p>これまで、9までの数の数え方や表し方、数の構成に関わる学習について取り組んできた。レディネステストの結果からも分かるように、1から9までの数は、だいたい読み書きができるようになってきた。時折、「4」と「8」に関しては、書き方が分からなくなる現状がある。数の構成に関わる、「数の合成・分解」についても、3から5までの数について、色の異なる具体物の操作を通して取り組んでいる最中である。</p> <p>本時では、2つの数量の合併の場合について、加法の意味や、式の表し方を理解させるようにする。その際、前時までに学習している「数の合成・分解」を手がかりに、具体物や半具体物の操作を行いながら指導する。「～と～で」、「合わせる」と、「全部で」、「みんなで」などの言葉を使って実際の生活場面を想定しながら合併の意味が理解できるよう指導していく。また、「○たす△は、□」と唱えたと、たし算の意味を理解しないままになる恐れがあるので、「○たす△は、□と同じ。」とおさえるようにする。</p>
B児 (2年)	<p>レディネステストの結果、式による計算はできるが、問われ方が変わると、般化できず答えられない現状がある。そして、「○-△=□」と答えを出すことはできるが、ひき算の意味を理解して答え出しているかは不明である。また、数を量でとらえることが十分でないため、指を使って「数え引き」をしている様子が見られる。「数え引き」は、数が大きくなると使えなくなり、日常生活の中での活用が難しくなる。このような現状から、ひき算の意味理解を深めるために、本時に向けて、「数の合成・分解」の復習を繰り返し行う。色を変えた具体物や半具体物を使いながら、視覚や触覚の感覚を十分に働かせながら理解し、定着するよう繰り返し指導をする。</p> <p>本時では、求残の場合について、減法の意味や式の表し方を理解させるようにする。「はじめに」、「のこりは」、「あげると」、などの言葉を使って、実際の生活場面を想定しながら、求残の意味が理解できるよう指導していく。</p>

C児 (2年)	<p>レディネステストの結果、10の合成を問う問題をできるが、10の分解を問う問題は頭の中で考えることができず、正当できなかった。後に、同じ問題をブロック操作をしながら考えさせると、全て正当することができた。この結果から、10の分解がまだ確実に身につけていないということがわかる。また、たし算、ひき算をする場面でも、数を量でとらえることが十分でないため、指を使って「数え引き」をしている。「数え引き」は、数が大きくなると使えなくなるため、日常生活での活用が難しい。このような現状から、本時に向けて、「数の合成・分解」の復習を繰り返し行う。色を変えた具体物や半具体物を使いながら、視覚や触覚の感覚を十分に働かせながら理解し、定着するよう繰り返し指導をする。</p> <p>既習の「10といくつ」ととらえることによって、15-5、15-3のような減法計算ができるようになってきている。本時では、これらの数の見方や計算の意味、未修の計算の見つけ方などを活用し、11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を既習の計算に帰着して考えられるよう指導していく。</p>
------------	--

また、どの児童もただ式から答えが出せるようになるだけではなく、その意味を理解できるよう、教師が師範を示す。②子どもと一緒に。③教師がことばかけをし、子どもが行う。④子どもが一人で行う。の4つのスモールステップで丁寧に指導する。また、上記のどの単元においても、日常生活の事象について数を用いて処理したり、表現したりすることが便利であり、簡単であると感じながら学ぶ楽しさを実感できるよう指導する。

関連する表現方法と算数用語

「たしざん」「ひきざん」「こたえ」「おなじ」・・・表現方法

「+」「-」「=」・・・算数用語

2 単元の評価規準

1 知識・技能	<p>A児 数のまとまりを基にして、1位数と1位数との加法の計算ができる。</p> <p>B児 数のまとまりを基にして、1位数と1位数との減法の計算ができる。</p> <p>C児 11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算ができる。</p>
2 思考・判断・表現	<p>A児 数の構成に着目し、1位数どうしの加法の計算の仕方を、操作を用いて考え、表現している。</p> <p>B児 数の構成に着目し、1位数どうしの減法の計算の仕方を、操作を用いて考え、表現している。</p> <p>C児 数の構成に着目し、11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作を用いて考え、表現している。</p>
3 主体的に学習に取り組む態度	<p>A児 数の構成に着目し、1位数どうしの加法の計算の仕方を、操作を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとしている。</p> <p>B児 数の構成に着目し、1位数どうしの減法の計算の仕方について、操作を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとしている。</p> <p>C児 11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。</p>

(1) 本質的な問い

- ・ A児 たし算は、私たちの生活の中のどんな場面で役立つのだろう。
- ・ B児 ひき算は、私たちの生活の中のどんな場面で役立つのだろう。

- ・ C児 ひき算は、私たちの生活の中のどんな場面で役立つのだろう。

(2) 単元を貫く問い

- ・ A児 二つの数を合わせるとはどうすることかな。また、数はどうなるのかな。
- ・ B児 ひき算は、これまで習った数のまとまりをもとに考えられるかな。
- ・ C児 11～18からひくひき算は、これまで習った「10といくつ」という数のまとまりをもとに考えられるかな。

(3) 個別の問い

- ・ A児 どんぐりは合わせて何個か、ブロックを使って考えられるかな。
- ・ B児 残りのどんぐりは何個になるか、ブロックを使って考えられるかな。
- ・ C児 残りのどんぐりは何個になるか、どのように計算すれば分かりやすいかな。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

【1学年A児】 具体物やブロックでの操作活動をもとに、加法の意味や加法の計算の仕方を理解し、数の構成に着目して1位数どうしの加法計算を考えることができる。

【思考・判断・表現】

【2学年B児】 具体物やブロックでの操作活動をもとに、減法の意味や減法の計算の仕方を理解し、数の構成に着目して1位数どうしの減法計算をすることができる。

【思考・判断・表現】

【2学年C児】 具体物やブロックでの操作活動をもとに、減法の意味や減法の計算の仕方を理解し、「10といくつ」という数の見方を基に、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算をすることができる。【思考・判断・表現】

(2) 展開 ICTICTの活用 ㊦手立て

【場面設定】

生活単元1年生「たのしいあきいっぱい」と2年「うごくおもちゃを作ろう」の学習で、どんぐりを拾いに行く。A児は、2種類の丸いどんぐりと細長いどんぐりを拾い、合わせて何個あるかと問う。B児は、9このどんぐりを拾い、うごくおもちゃをつくるために3個使う。どんぐりは何個残るか問う。C児は、14個のどんぐりを拾い、うごくおもちゃをつくるために8個使う。どんぐりは何個残るか問う。

学習活動	学習過程 ・ 児童の活動			評価基準 (方法)
	A児	B児	C児	
	<p>1 学習の流れを確認し、学習の流れの見通しをもつ。 ・ 今日の学習の流れをみんなでする。 ㊦小黒板に示したスケジュールと教師の「わたり」を確認させ、学習の流れに見通しができるようにする。</p> <p>2 本時の問題を確認する。 ・ それぞれ問題を確認し、必要などんぐりの数を取りに来る。 ㊦問題のどんぐりの数に合わせて合わせて取れたか互いに確認しあうことで、別々に課題に取り組むが、一緒にがんばるという協働意識を持たせる。</p>			

まるいどんぐりが②こあります。
ほそながいどんぐりが③こあります。
あわせてなんこありますか。

- ・取って来たどんぐりの数をプリントに書く。
- ②「秋見つけ」で拾ったどんぐりの数を数える活動を設定することで、問題を身近なものにして関心をもたせる。

3 練習問題を解く。

- ・前時の復習や日常の課題に取り組む。
- ⑤「数の合成・分解」の復習や数をまとまりで捉える練習問題を示し、本時の課題へスムーズに移れるようにする。
- ⑤手元に5の「数の合成・分解」の表を用意し、分からなくなったら見られるようにしておく。

ICT ジャムボードやミライシードで、前時の学習の練習問題をとく。

4 課題を設定する。

かだい
どんぐりは、あわせてなんこかな。
ブロックをつかってかんがえよう。

5 自力解決をする。

- ・問題を解く。
- ・問題を声に出しながら、問題に合わせてブロックをならべる。
- ⑤ワークシートの形式に合わせて、ブロック

どんぐりが⑨こあります。
3こつかいました。
どんぐりは、なんこのこっていますか。

- ・取って来たどんぐりの数をプリントに書く。
- ②「秋見つけ」で拾ったどんぐりを使って、おもちゃや作りをする活動を設定することとで、問題を身近なものにして関心をもたせる。

⑤10の枠を用意しておき、その枠の中に9つ並べるようし、9を意識させる。

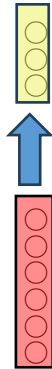
3 課題を設定する。

かだい
のこりのどんぐりはなんこになるか、
ブロックをつかってかんがえよう。

4 自力解決をする。

- ・問題を解く。
- ・問題を声に出しながら、問題に合わせてブロックをならべる。

○○○○○○○○



⑤レベルの異なるワークシートを用意し、様子を見ながら選ばせる。

- ⑤問題に合わせて操作できない場合は、①教師が示範を示す。②子どもと一緒に行う。
- ③教師がことばがけをし、子どもが行う。の中からできそうな段階まで戻り、支援し

どんぐりが⑭こあります。
8こつかいました。
どんぐりは、なんこのこっていますか。

- ・取って来たどんぐりの数をプリントに書く。
- ②「秋見つけ」で拾ったどんぐりを使って、おもちゃや作りをする活動を設定することとで、問題を身近なものにして関心をもたせる。

3 練習問題を解く。

- ・前時の復習や日常の課題に取り組む。
- ⑤10「数の合成・分解」の練習問題を示し、本時の課題へスムーズに移れるようにする。
- ⑤手元に10の「数の合成・分解」の表を用意し、分からなくなったら見られるようにしておく。

ICT ジャムボードやミライシードで、前時の学習の練習問題をとく。

4 課題を設定する。

かだい
のこりのどんぐりは、どのようないざ
んをすればわかりやすいかかんがえよ
う。

5 自力解決をする。

- ・問題を解く。

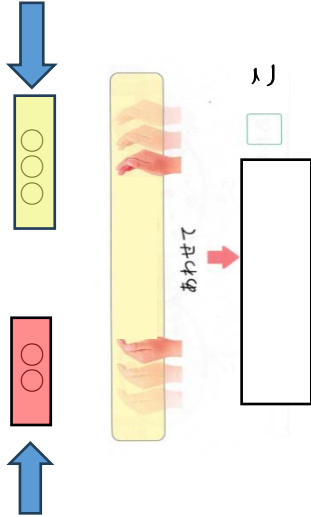
■ (A児)
数の構成に着目し、1位数どうしの加法の計算の仕方を用いて考え、表現している。(行動観察)

■ (B児)
数の構成に着目し、1位数どうしの減法の計算の仕方を用いて考え、表現している。

を置かせる。

- ⑤ 問題に合わせて操作できない場合は、①教師が示範を示す。②子どもと一緒に行う。
- ③ 教師がことばがけをし、子どもが行う。の中からできそうな段階まで戻り、支援していく。

- ⑥ 「あわせる」には、ブロックをどのように動かせばいいかおさえる。



- ⑦ 「あわせて」という言葉に着目させて、「あわせて」は、「がっちゃん」することとで、5になるとおさえる。
- ⑧ 「数えだし」にならないよう、2つを見て「2」、3つを見て「3」と言えるようにしておく。

6 練習問題をとく。

- ICTを活用し、たし算の問題を解く。
- ⑨ たされる数とたす数を○で囲ませる。

7 本時のまとめをする。

あわせてのときは、がっちゃんする。

ICT 2つの数を合わせる動画を見せて、合わ

ていく。

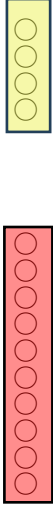
- ⑩ 「のこり」という言葉に着目させて、「のこり」は、「さよなら」することをおさえる。
- ⑪ 「数えひきき」にならないように、9の「数の合成・分解」の掲示を示し、引く数の3を手で取らせる。

5 練習問題をとく。

ICTを活用しひき算の問題を解いたり、日々の課題に取り組みせたりする。

- ⑫ 引く数を○で囲ませる。

- ⑬ 「のこり」という言葉に着目させて、演算決定をさせる。
- ⑭ 問題を声に出しながら、問題に合わせて14を10と4のまとまりにブロックで操作させる。



- ⑮ 問題に合わせて操作できない場合は、①教師が示範を示す。②子どもと一緒に行う。③教師がことばがけをし、子どもが行う。の中からできそうな段階まで戻り、支援していく。

- ⑯ 「数えひきき」にならないよう、「10」といふくつ」という数の見方や10の「数の合成・分解」の掲示を示し、そこから答えが出せるようにする。

- ⑰ ①14を10と4にわけける。

⑱ 10から8をひく。

⑲ のこりの2と4をたして、6

- ⑰ から⑲の順番で計算することをおさえる。

6 本時のまとめをする。

14を10と4にわけたり、8を2と6にわけたりするとひき算のこたえがわかる。

- ⑳ まとめを穴埋めにして、一緒にまとめをしていく。

ICT ①14を10と4にわけける。

②10から8をひく。

③ のこりの2と4をたして、6になると

(行動観察)

■ 〈C 児〉

数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法の計算の仕方、操作を用いて考え、表現している。

(行動観察)

	<p>せるは「がっちゃん」することであるという定着を図る。</p>	<p>ICT3のまとまりで引く動画を見せて、数量で捉える見方の定着を図る。</p>	<p>いう動画を見せて、「10といくつ」という数の見方の定着をや計算の仕方の定着を図る。</p>
<p>㊦ 本時の学習活動を互いに見合うことで、互いに関わり合い、がんばりを認め合えるようにする。</p>			
<p>8 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことやがんばったことを発表する。 ○本時の児童の活動の様子を肯定的に評価したり、本時の学習内容を価値付けたりする。 	<p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことやがんばったことを発表する。 ○本時の児童の活動の様子を肯定的に評価したり、本時の学習内容を価値付けたりする。 	<p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことやがんばったことを発表する。 ○本時の児童の活動の様子を肯定的に評価したり、本時の学習内容を価値付けたりする。 	

板書計画

10/5(もく)	もんだい	<p>がくしゅうのながれ</p>
かだい		
まとめ		

— 作成協力者一覧 —

教諭
弓場 晃子

教諭
山本 美由紀

教諭
平井 絵美子

教諭
永原 優花

教諭
沖野 克己

教諭
森 裕理

教諭
栗栖 清

教諭
川本 知依

教諭
白坂 里奈

教諭
東 英治

教諭
國延 徹

教諭
松浦 敬子

教諭
古本 彩花

教諭
久藤 緑

教諭
川崎 とも子

教諭
下中 瞳

教諭
桶本 直子

教諭
宇根埜 栞

教諭
苅山 亜衣

教諭
岡田 航希

本資料の作成のため
に助言・添削・支えてく
ださったすべての皆様

教諭
久保田 晃央

教諭
山本 大地

教諭
岡 哲也

教諭
今井 豊

教諭
宮内 佑京

教諭
山住 幸江

— おわりに —

今回の実践事例集はいかがだったでしょうか。

今年度、多くの学校で研究授業に参加させていただきました。その中で、授業の「わたり」に挑戦されている先生方の姿を見て、何度も胸が熱くなりました。

授業の「わたり」を成立させるためには、的確な実態把握、確実な授業準備、継続的な指導支援等、授業を作るまでにたくさんの準備が必要となります。

そのために、どうやって児童生徒の意欲を高めるか、どうやったら授業がうまく展開できるのだろうか、児童生徒に勉強を分かるようにするにはどんな工夫をしたらよيدろうか、どんな教具や環境を設定したら授業の支援になるのだろうか。このような思いを抱きながら、授業に臨まれたことと思います。

このたゆまぬ努力がよりよい授業を作っていくのだと感じました。

その結果、いろいろな学級で、児童生徒が変わっていく姿が見られました。児童生徒が主体となって学習をし、生き生きと話し合い、自ら問題に向かっていく姿が現れていました。異学年で交流し、教え合う児童生徒の姿もたくさん見ることができました。

先生方の挑戦する姿は、児童生徒の範となり、児童生徒一人一人の成長につながっていくのだと強く感じました。

特別支援学級だからこそできる。

今回の事例集も、今後の三原市の特別支援学級の強みとなるとともに、三原の児童生徒の成長につながるものだと確信しています。引き続き、この実践に磨きをかけていただくとともに、この事例集をご覧になった方にとっても、授業を考えたときのヒントとしてご活用いただき、特別支援学級の授業の「わたり」の充実や改善を共に進めていただけると幸いです。

最後になりますが、本実践事例集の作成にあたり、広島県立教育センターをはじめ、作成に協力して下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

三原市教育委員会
学校教育課

— 引用・参考文献 —

- ・文部科学省(平成30年)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」
- ・文部科学省(平成30年)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編」
- ・文部科学省(平成30年)「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」
- ・文部科学省(平成30年)「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編」
- ・広島県立教育センター(令和5年)「自閉症・情緒障害特別支援学級を担当する先生のための異年齢集団における授業づくりのヒント」
- ・広島県教育委員会(令和3年)「特別支援教育ハンドブック No.1 令和3年改訂版～特別支援学級・通級による指導を中心に～」
- ・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター(令和4年)「へき地・複式・小規模校教育の手引—学習指導の新たな展開—(改訂版)」
- ・権藤誠剛(平成20年) 小規模・複式教育における授業実践についての課題と提案 島根大学教育臨床総合研究7巻 PP. 21 - 37
- ・笹屋孝充(2018) 複式学級の「渡り」指導における教師の立ち位置 —児童の学習活動のモニタリングに着目して— 三重大学教育学部研究紀要 第69巻 PP. 251 - 257

令和6年1月作成 特別支援学級 授業の「わたり」実践事例集
～これが私のわたる道～

編集 三原市教育委員会 学校教育課 柏原 永知
〒723-8601 広島県三原市港町三丁目5番1号
TEL (0848)67-6155

